

平成 28 年度

排出事業者と優良産廃処理業者の連携による循環産業形成支援業務

報告書

平成 29 年 3 月

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

【 目次 】

I. はじめに	1
1. 本事業の目的	1
2. 実施機関	1
II. 実施結果	2
1. フォーラム/ワークショップ実施概要	2
① タイトル	2
② 開催日時・場所	2
③ 参加対象者	2
④ プログラム	3
⑤ 会場手配	5
2. ワークショップ企画・運営	6
① 狙い	6
② ワークショップタイトル	6
③ 基本方針・実施方法	6
④ タイムスケジュール	7
⑤ ファシリテーター	8
⑥ グループ編成	9
⑦ 事前アンケート	9
⑧ プログラムデザイン	9
⑨ アウトプットフォーマット	15
⑩ ワークショップの結果	16
3. 参加者招致	17
① 集客目標	17
② 集客方法・対象及びスケジュール	17
③ 申込方法	18
④ 排出事業者の申込方法	18
⑤ 処理業者の申込方法	23
⑥ 集客結果	27
⑦ 受付方針	27
4. パブリシティ	28
① 環境省ホームページへの開催結果掲載	28
② メディア取材対応	28
5. アンケート	28
① 狙い	28

②	アンケート用紙	29
③	集計結果	30
III. 総括		41
1.	フォーラム／ワークショップについて	41
2.	処理業者の優良認定取得の機運醸成について	42
3.	処理業者の優良認定普及のための施策について	42
4.	運営面について	42
5.	次年度への方向性	43
【別添資料】		44

I. はじめに

1. 本事業の目的

平成 28 年 1 月に発覚した食品廃棄物の不正転売事案を踏まえ、廃棄物処理の透明性と信頼性を向上し、排出事業者と産廃処理業者が社会を支える担い手として地域の中で良好な関係を築くことが、今後の循環産業の発展のために益々重要となってくる。

本事業は、平成 25 年から「排出事業者と優良産廃処理業者の連携による循環産業形成支援業務」として、排出事業者と優良産廃処理業者の連携促進や産廃処理業者の優良認定取得の増加等を目的として実施してきた。排出事業者と優良産廃処理業者等が一堂に会し、より付加価値の高い循環利用を行うために意見交換を実施することは、今後の循環産業の活性化にとって重要な意義を持っている。

以上の意義を踏まえて今年度も引き続き排出事業者と産廃処理業者との相互理解を図るためのシンポジウム・ワークショップを開催した。まずは、「地域循環とは何か？」といった基礎理解のための基調講演を実施し、その後、排出事業者と産廃処理業者が連携・協働した先行事例等について、排出事業者視点、処理業者視点でそれぞれ発表を行い、その後、今後の資源循環や地域循環のあり方や可能性について意見交換を行った。

なお、平成 25 年度は東京会場、大阪会場、平成 26 年度は東京会場、名古屋会場、福岡会場、平成 27 年度は東京会場、名古屋会場、広島会場で開催したが、今回は、地域循環のテーマについての首都圏と地方との反応を確認したく、東京会場と福岡会場の 2 か所で開催した。

2. 実施機関

本業務は、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課の企画に基づき、アミタ株式会社が環境省からの請負業務として実施した。

II. 実施結果

1. フォーラム/ワークショップ実施概要

① タイトル

「循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために
今何ができるのか？～」

② 開催日時・場所

[第1回＜東京会場＞]

日時：平成29年1月26日（木）

場所：東京国際フォーラム G409 会議室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号

[第2回＜福岡会場＞]

日時：平成29年2月7日（火）

場所：JR 博多シティ 9階3番会議室

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街6番11号内田ビル2階

③ 参加対象者

排出事業者及び優良産廃処理業者等（廃棄物処理法に規定されている優良産廃処理業者
認定制度（以下、「優良認定制度」という。）の認定を取得（以下、「優良認定業者」とい
う。）又は取得を検討中の業者）

④ プログラム

[東京会場]

時間	進行
13:00～13:10	開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 課長補佐 田代 浩一氏
13:10～13:45 (35 分)	【第 1 部】 基調講演 「廃棄物処理における戦略的連携と地域発展」 北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 教授 松永 裕己氏
13:45～14:15 (30 分)	優良事例プレゼンテーション ＜排出事業者側＞ 「アサヒ飲料の取り組み事例」 アサヒ飲料株式会社品質保証部 環境グループ グループリーダー 小牧 悟氏 ＜処理業者側＞ 「食品廃棄物のリサイクルについて」 株式会社エコ・フード様 営業部 課長 喜来 学氏
14:15～14:20 (5 分)	「優良さんばいナビ」 についてのご紹介： 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長 改田 耕一氏
14:20～14:30	休憩
14:30～17:20 (170 分) ※ 途中休憩を はさみます	【第 2 部】 ワークショップ ファシリテーター： アミタ株式会社ワークデザイングループ シニアコンサルタント 猪又 陽一氏
＜プログラム＞ ・自己紹介 ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィードバック・気付きの共有	
17:20～17:25	閉会挨拶
17:25～18:00	名刺交換会 ※任意でのご参加となります

※基調講演、優良事例発表の資料は、「別添資料 1. 講演資料（第 1 部・第 2 部）」参照

[福岡会場]

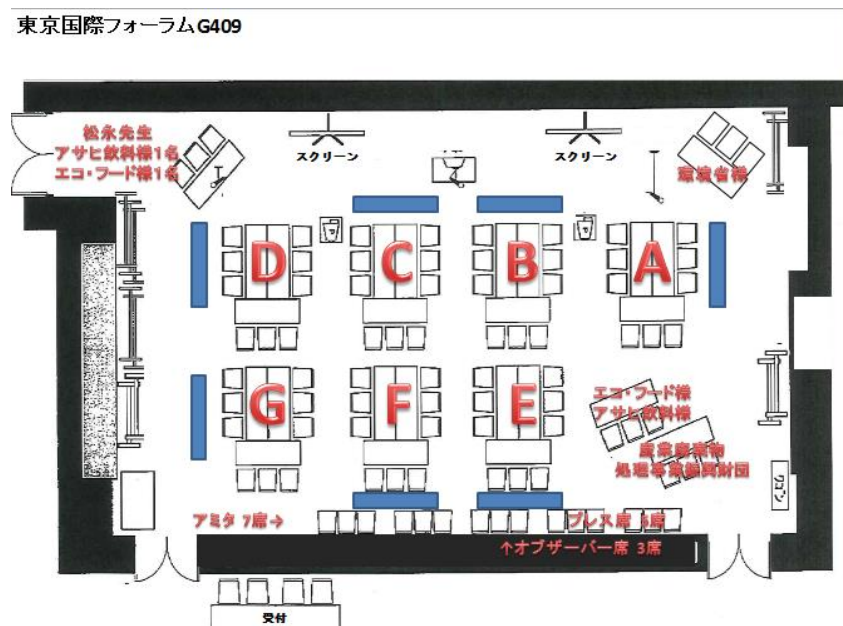
時間	進行
13:00～13:10	開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 課長補佐 田代 浩一氏
13:10～13:45 (35 分)	【第 1 部】基調講演 「廃棄物処理における戦略的連携と地域発展」 北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 教授 松永 裕己氏
13:45～14:15 (30 分)	優良事例プレゼンテーション ＜排出事業者側＞ 「食品工場から排出される廃棄物のリサイクルループ活動」 プライムデリカ株式会社 生産本部環境部 片田 康介氏 ＜処理業者側＞ 「地域循環・活性化を目指して」 株式会社大島産業 代表取締役 大島 権人氏
14:15～14:20 (5 分)	「優良さんばいナビ」についてのご紹介: 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 係長 満月 卓氏
14:20～14:30	休憩
14:30～17:20 (170 分) ※ 途中休憩を はさみます	【第 2 部】ワークショップ ファシリテーター: アミタ株式会社ワークデザイングループ シニアコンサルタント 猪又 陽一氏 ＜プログラム＞ ・自己紹介 ・グループワーク ・プレゼンテーション ・フィードバック・気付きの共有
17:20～17:25	閉会挨拶
17:25～18:00	名刺交換会 ※任意でのご参加となります

※基調講演、優良事例発表の資料は、「別添資料 1. 講演資料（第 1 部・第 2 部）」参照

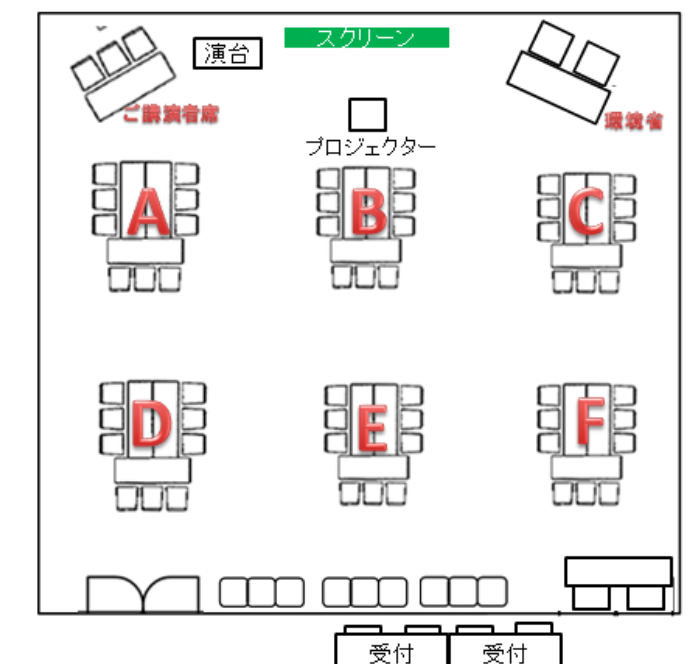
⑤ 会場手配

事例紹介から円滑にワークショップに移行するため、プログラム開始時よりアイランド型のテーブル配置とした。

[東京会場]



[福岡会場]



2. ワークショップ企画・運営

① 狙い

1) 資源循環の意識向上と課題克服のための意見交換

自社の資源循環の取り組みについて、内容とその意味づけを再認識する。資源循環を行っていない場合には、今後取り組みたい内容と取り組むうえでの課題を抽出し、今後の自社における資源循環の促進するためのヒントを得る。

2) 地域循環への意識の醸成

資源循環から事業場を中心とした地域循環に発展させるための意見交換を行い、地域のステークホルダー（地域住民、学校、行政など）からの信頼を得ることが、企業の持続可能性の必要条件であること、そのために地域振興、地域貢献が必要であることを意識付ける。

② ワークショップタイトル

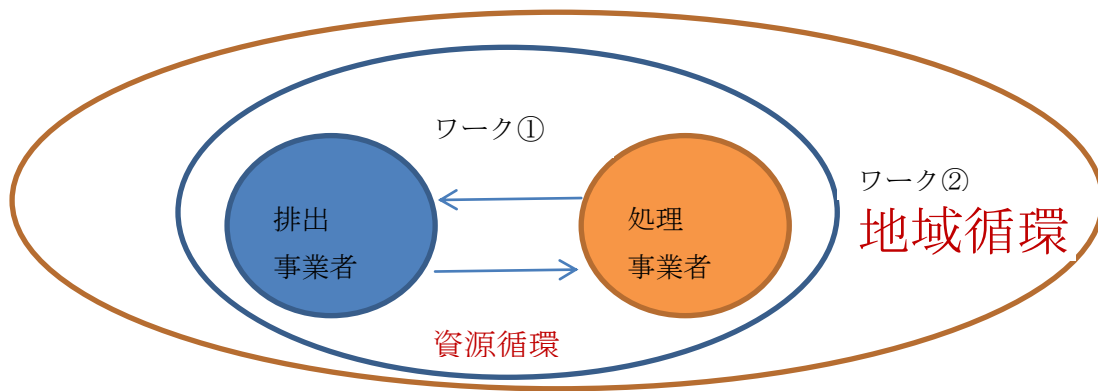
「地域社会の発展に向けて

～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか？」

③ 基本方針・実施方法

- ・ 基調講演、各事例発表を参考に、資源循環のあり方や地域循環の必要性について理解を深めていただくため、ワークショップ形式での意見交換とした。
- ・ 現状の制約・立場に縛られずに、あるべき姿やできることを自由に発想する場とした（何らかの決まった答えや合意を導き出す場ではない）。
- ・ グループワークの円滑な運営のため、模造紙に印字したワークシートを掲示し、意見交換を進めた。

<イメージ図>



④ タイムスケジュール

[東京会場]

環境省主催 フォーラム／ワークショップ

循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と 処理業者が地域のために今何ができるのか？～

<<本日のプログラム>>

時間	進行
13:00～13:10	開会挨拶 環境省 大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 課長 中尾 豊氏
13:10～13:45	【第1部】基調講演 「廃棄物処理における戦略的連携と地域発展」 北九州市立大学大学院マネジメント研究科 教授 松永 裕己氏
13:45～14:15	排出事業者と処理業者の連携事例紹介 「アサヒ飲料の取り組み事例」 アサヒ飲料株式会社品質保証部 環境グループグループリーダー 小牧 悟氏 「食品廃棄物のリサイクルについて」 株式会社エコ・フード様 営業部 課長 喜来 学氏
14:15～14:20	「優良さんばいナビ」についてのご紹介： 公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部部長 改田 耕一氏
14:20～14:30	休憩
14:30～17:10	【第2部】ワークショップ ※ 途中休憩をはさみます
17:10～17:20	閉会挨拶
17:25～18:00	名刺交換会 ※任意でのご参加となります

[福岡会場]

環境省主催 フォーラム／ワークショップ

循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と 処理業者が地域のために今何ができるのか？～

<<本日のプログラム>>

時間	進行
13:00～13:10	開会挨拶 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 課長補佐 田代 浩一氏
13:10～13:45	【第1部】基調講演 「廃棄物処理における戦略的連携と地域発展」 北九州市立大学大学院マネジメント研究科 教授 松永 裕己氏
13:45～14:15	排出事業者と処理業者の連携事例紹介 「食品工場から排出される廃棄物のリサイクルループ活動」 プライムデリカ株式会社 生産本部環境部 片田 康介氏 「地域循環・活性化を目指して」 株式会社大島産業 代表取締役 大島 権人氏
14:15～14:20	「優良さんばいナビ」についてのご紹介： 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部 産業廃棄物課 係長 満月 卓氏
14:20～14:30	休憩
14:30～17:10	【第2部】ワークショップ ※ 途中休憩をはさみます
17:10～17:20	閉会挨拶
17:25～18:00	名刺交換会 ※任意でのご参加となります

⑤ ファシリテーター

[東京会場]

所属	氏名
公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長	改田 耕一 氏
公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 情報システム部 部長	柴崎 和夫 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 東日本チーム チームリーダー	田部井 進一 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 東日本チーム ユニットリーダー	渥美 黄太 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 東日本チーム ユニットリーダー	小峯 慎司 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 東日本チーム	高橋 泰美 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 東日本チーム	鈴木 香織 氏

[福岡会場]

所属	氏名
公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 企画調査部 部長	改田 耕一 氏
公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 情報システム部 部長	柴崎 和夫 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 西日本チーム チームリーダー	出口 庸平 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 西日本チーム ユニットリーダー	成瀬 将史 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 西日本チーム	中村 圭一 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 西日本チーム	宮内 達朗 氏
アマタ株式会社 環境戦略デザイングループ 東日本チーム	中村 こずえ 氏

⑥ グループ編成

東京会場では8人×7グループで、福岡会場では8人×6グループで実施した。地域循環についての意見交換ということで、近接している排出事業者と産廃処理業者の人数のバランスを考慮してグループを決定した。

※詳細は「資料2. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧」参照

⑦ 事前アンケート

グルーピングやワークショップの効果的な進行のため、参加申込み時に以下の質問を行った。

[アンケート項目]

1) 属性、業種、業務内容

2) 資源の循環・有効利用に関して

A: これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例

B: 現在の課題意識や今後取組みたいテーマ

3) 日頃の廃棄物管理（処理）業務に関して

排出事業者／処理業者とのやり取りで困ったことがあればご記入ください

4) 本イベントに期待すること

※詳細は「資料2. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧」参照

⑧ プログラムデザイン

ワークショップは各班にて実施するため、ファシリテーターによって進め方や意見交換の方向性が異ならないよう、後述のようなマニュアルを作成し、各ファシリテーターがこれに沿ってプログラムを進行することとした。各ワークにて想定される意見も掲載し、全参加者が同じような議論ができるように配慮した。

[ワークショップマニュアル(1)]

開始 時間	所要 時間	内 容
—	—	準備するもの 模造紙 2 種類（ワークシート①②）、付箋、マーカー、ボールペン（各班 10 本程度） 注意点 1) 司会は時間を見ながら、各班のワークの進み具合を確認し、適宜時間を伝えるが、議論の邪魔になるのでできるだけファシリテーターに任せる。 2) ワークショップ中は休憩を取って構わない。休憩はファシリテーターに任せる。 3) ワークシート①②は発表後写真を撮るので、参加者が持ち帰らないように指示。 4) 閉会后、ボールペン、名札はファシリテーターが数を確認し必ず回収。
14 : 30	5 分	司会：「ではこれより第 2 部を始めます。」 第 2 部の目的とテーマの説明を行う。 ワークの前に各班自己紹介とする旨説明する。
14 : 35	5 分	進行をファシリテーターに交替 ファシリテーターから再度進め方の説明 ・ファシリテーターの自己紹介、ワークショップの内容説明。ワーク①と②の位置づけや各ワークの目的を説明。 ・ワークショップ①自社での取り組みについて付箋に書き出し、その発表に合わせて自己紹介を行う。 ・付箋には 1 枚に一つを記入することとする。大きな文字で見えるように記入する。
ワーク①事業を通じて資源循環を実現するためには今何をすべきか？		
14 : 40	30 分	ワーク①前半 資源循環のために取り組んでいることは？ (5 分) 個人ワーク (20 分) 各人による発表（自己紹介&内容） ホワイトボードの前に出てもらい自己紹介含めて、一人ずつ付箋の内容を発表。付箋は模造紙に貼る。 (5 分) ファシリテーターから簡単なまとめ 全員が発表したところで、取り組み内容や取り組みの中での課題をグループピングする。
15:10	25 分	ワーク①後半 資源循環を促進するためのポイントは？ (3 分) 個人ワーク (22 分) 発表

		ご意見のある方に発表いただき、意見交換を開始する。必ずしも全員発表しなくてよい。意見を掘り下げていくことに注力する。 話し合いが終了したところで、ファシリテーターがワーク①をまとめる。
ワーク②資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは？		
15 : 35	20 分	ワーク②前半 地域循環(地域課題解決)のために、取り組んでいることは？ (5 分) 個人ワーク (10 分) 各人による発表 ホワイトボードの前に出てもらい、一人ずつ付箋の発表。付箋は模造紙に貼る。 (5 分) ファシリテーターから簡単なまとめ 全員が発表したところで、取り組み内容や取り組みの中での課題をグループピングする。
15:55	25 分	ワーク②後半 資源循環から地域循環へ展開するためのポイントは？ (3 分) 個人ワーク (22 分) 発表 ご意見のある方に発表いただき、意見交換を開始する。必ずしも全員発表しなくてよい。意見を掘り下げていくことに注力する。 話し合いが終了したところで、ファシリテーターがワーク②をまとめる。最終的には、発表者を決定する。
16 : 20	50 分	グループ発表 (東京 8 分×7 班、福岡 8 分×6 班)
17 : 10	10 分	松永先生、環境省、ファシリテーター代表より総評をいただく

ワーク① 事業を通じて資源循環を実現するためには今何をすべきか？

(1)参加者のゴール

- ・資源循環の重要性を今一度理解してもらい、次の行動へと実施するためのヒントを得る。
- ・他社の状況などを踏まえながら自社の資源循環の状況を把握してもらう。

(2)当日のシナリオ

ファシリテーターの進め方	想定される参加者の考え
ワーク① 前半 資源循環のために取り組んでいることは？ 自社における資源循環の取り組みと意義を考えてもらう。また、今後取り組みたい資源循環と現在取り組めていない理由を抽出し、課題を洗い出す。 [青付箋] 取り組んでいる内容(なぜそれを実施しているのかその意義も記入) [赤付箋] 今後取り組みたい内容(なぜ今それが出来ていないのかその理由を記入)	・自社ではどのような資源循環の取り組みをしているだろう？なぜ、そのような取り組みをしているのだろう？(排出事業者、処理業者) ・今後積極的に取り組んでいきたいと思っているけれども、なかなか出来ない。なぜ資源循環の取り組みができないのだろうか？(排出事業者) ・自社が取り組んでいなくても、なぜ他社が取り組んでいるのだろうか？ ・他社ではこんな取り組みまでしているのだ
ワーク① 後半 資源循環を促進するためのポイントは？ 前半部分で、自社の資源循環について取り組み状況が分かったが、今後、資源循環を促進するためにはどうすればいいのか、どの障害をクリアすればいいのかを考えてもらう。 [黄色付箋] 今後資源循環を促進するためのポイントを記入	・なぜなかなか資源循環が進まないのだろうか？ ・もっと技術的な支援がほしい。(処理業者) ・今回のような資源循環について、処理業者と技術的にお互いに話をし合う機会をもっと増やしてもらいたい。(排出事業者)

(3)模造紙記入例

	排出事業者	産廃処理業者
資源循環のために 取り組んでいることは？	<記入例> ・埋め立て廃棄物の削減 ・少量のため再資源化だとコストが合わない ・処理困難物の再資源化検討 など	<記入例> ・地域循環ができる排出事業者に提案したいのに出来ない。理由は、価格が合わないからで見送られてしまう。 など
資源循環を促進するためのポイント	<記入例> ・技術革新(自社にない技術の補完)が必要 ・お互いの信頼醸成 ・適正な価格 ・本社からの理解 ・自治体の積極的な介入 ・お互いの協力・協業 ・連携することで、少量から多量に処理する など	

ワーク② 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは？

(1)参加者のゴール

- ・地域循環を含めた地域における課題に対して、地域の関係者と連携・協働して解決できるように意識してもらう。

(2)当日のシナリオ

ファシリテーターの進め方	想定される参加者の考え
ワーク② 前半 地域循環(地域課題解決)のために、取り組んでいることは？ 地域循環の取り組みと意義を考えてもらう。 また、今後取り組みたい地域循環と現在取り組めていない理由を抽出し、課題を洗い出す。 [青付箋] 取り組んでいる内容(なぜそれを実施しているのかその意義も記入)	・地域の業者に依頼したいと思っているが、処理できる業者がない。 ・食品残渣の処理は他地域で委託しているが、それを利用した製品販売は地域の小売店で行うようにしている。 ・地域の業者に依頼するようにしている。県外排出は県外の住民に嫌がられる。 ・できるだけ自社に近いところで処理するようにしている。運賃と運搬時のCO2を減らしたい。

[赤付箋] 今後取り組みたい内容(なぜ今それが出来ていないのかその理由を記入)	
ワーク② 後半 地域循環を促進するための課題 前半部分で、地域循環について取り組み状況が分かったが、今後、資源循環を促進するためにはどうすればいいのか、どの障害をどのような行動によってクリアすればいいのかを考えてもらう。 [黄色付箋] 今後資源循環を促進するためのポイントを記入	・地域に配慮した取り組みは、いずれは自社の持続可能な経営に反映されるのかも。 ・自社のCSR活動として、植樹や清掃活動などの地域貢献活動を積極的にやっているが、それも地域の活性化には繋がっていることが分かった。

(3) 模造紙記入例

	排出事業者	産廃処理業者
地域循環(地域課題解決)のために取り組んでいることは？	<記入例> ・地域住民に安心していただくために、自社工場の見学を行って、安全性などを理解してもらうようにしている。 ・自社の原料が地域の森林による影響が与えられるので、森林保全を積極的に行っている。 など	<記入例> ・地域住民に対して廃棄物の出前授業などを行っている。 ・同業と一緒に廃棄物業界について、地域大学生に理解してもらいたく共同で就職説明会を実施している。 など
資源循環から地域循環へ展開するためのポイント	<記入例> ・行政を巻き込んで、排出側から出てくるゴミを地域の処理会社で循環できるのかといった研究会を定期的実施。 ・排出側と処理側と一緒に学校で出前授業を行う。 ・高齢者向けの廃棄物処理の支援を行う。 など	

⑨ アウトプットフォーマット

ワークショップの意見交換がスムーズに進められるようにワークシートを作成した。

[ワークシート 1]

ワークシート1: 事業を通じて資源循環を実現するためには今何をすべきか? グループ

	排 出 事 業 者	産 廃 処 理 業 者
取 り 組 ん で い る こ と は ?		
資 源 循 環 の ポ イ ン ト は ?		

[ワークシート 2]

ワークシート2: 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは? グループ

	排 出 事 業 者	産 廃 処 理 業 者
地 域 循 環 (地 域 課 題 解 決) の た め に 取 り 組 ん で い る こ と は ?		
展 開 す る た め の 資 源 循 環 か ら 地 域 循 環 へ の ポ イ ン ト は ?		

⑩ ワークショップの結果

資源循環のためには、適切な分別、資源循環やそのための分別の必要性を伝える教育、少量廃棄物の一定量以上の収集がポイントという意見が複数のグループから発表された。また、資源循環促進のためには行政からの助成金等の技術開発への支援、再資源化されたものの利用先を確立する出口戦略が必要、など、地域内での資源回収、再利用先の選定という意見があった。

資源循環の視点から地域循環の視点へと論点を展開したためか、「地域での資源循環」と考える参加者が多く、地域での社会貢献、地域活性化といった議論は少ない結果となった。

※詳細は、「別添資料 3. フォーラム・ワークショップ実施風景記録」参照

※詳細は、「別添資料 4. ワークショップアウトプット」参照

3. 参加者招致

① 集客目標

参加者枠は、各会場とも、排出事業者、処理業者（優良認定業者もしくは認定取得を検討中の事業者）各 25 名だが、当日までのキャンセル発生を見込み、各 36 名（各テーブル最大 9 名とする）を集客目標とした。

② 集客方法・対象及びスケジュール

実施日	集客対象	会場	施策
H28.11.9	排出事業者	東京・福岡	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号 配信（配信先：排出事業者 11,465 件）
H28.11.16	排出事業者	東京・福岡	「CSR JAPAN ニュース」メールマガジン通常号 配信（配信先：主に排出事業者 5,175 件）
H28.11.17	排出事業者 及び 処理業者	福岡	KICS 会員向けメールマガジン （配信先：KICS 会員企業 48 社）
H28.11.22	排出事業者	東京・福岡	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号 配信（配信先：排出事業者 11,810 件）
H28.11.29	排出事業者 及び 処理業者	福岡	K-rip 会員向けメールマガジン （配信先：K-rip メールマガジン登録者 650 件）
H28.12.1	排出事業者 及び 処理業者	東京	H27、H28 東京開催フォーラムへの参加者向け メール配信 （配信先：排出事業者 41 件、処理業者 39 件）
H28.12.1	排出事業者 及び 処理業者	福岡	H26 福岡開催フォーラムへの参加者向けメール 配信 （配信先：排出事業者 11 件、処理業者 5 件）
H28.12.14	排出事業者	東京・福岡	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号 配信（配信先：排出事業者 11,985 件）

H28.12.19	排出事業者 及び 処理業者	東京・福岡	環境省主催フォーラム/ワークショップ 「循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者 と処理業者が地域のために今何ができるのか？ ～」の開催及び参加者の募集について（お知らせ） http://www.env.go.jp/press/103384.html
H28.12.21	排出事業者	東京・福岡	「CSR JAPAN ニュース」メールマガジン通常号 配信（配信先：主に排出事業者 5,637 件）
H28.12.22	排出事業者 及び 処理業者	東京・福岡	産廃情報ネット「さんぱいくん」メール配信 （配信先：排出事業者 2,746 件、処理業者 4,639 件）
H28.12.22	処理業者	福岡	福岡会場の近隣県の産業廃棄物協会（福岡県、佐 賀県等）に対して、各協会会員宛てに告知依頼
H28.12.22	処理業者	東京・福岡	「産廃短信」 （配信先：公益財団法人産業廃棄物処理事業振興 財団主催経営塾の卒塾生及び今年度在籍生（13 期生）
H28.12.28	排出事業者	東京・福岡	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号 配信（配信先：排出事業者 12,246 件）
H29.1.11	排出事業者	東京・福岡	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号 配信（配信先：排出事業者 12,367 件）
H29.1.20	排出事業者	東京・福岡	「CSR JAPAN ニュース」メールマガジン通常号 配信（配信先：主に排出事業者 5,858 件）
H29.1.25	排出事業者	東京・福岡	「おしえて！アミタさん」メールマガジン通常号 配信（配信先：排出事業者 12,310 件）

③ 申込方法

CSR・環境業務お役立ちサイト「おしえて！アミタさん」ウェブサイト、優良さんぱいナビウェブサイトへ申込みフォームを設置した。申込み受付業務と事前アンケートの集計業務の効率化のため、申込みフォームは同じものを利用した。

④ 排出事業者の申込方法

主に排出事業者に対して集客を行うため、事務局の運営する「おしえて！アミタさん」ウェブサイトを利用した。トップページの「CSR・環境業務お役立ち情報 最新記事」に掲載するとともに、セミナータブ内に下記の通り掲載を行った。

「おしえて！アミタさん」 申込みページトップ画面（平成 28 年 12 月 20 日公開）

【環境省主催 フォーラム/ワークショップ】循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか？～ | 企業の環境・CSR・サステナビリティ戦略に役立つ情報

CSR・環境戦略 お役立ちサイト
おしえて!アミタさん

「おしえて!アミタさん」は、企業のCSR・環境戦略をご支援する情報ポータルサイトです。

CSR・環境戦略の情報をお届け!
無料メールマガジン登録

トップページ CSR・環境戦略 Q&A セミナー コラム 担当者声

トップページ セミナー 環境部門長・マネージャー

【環境省主催 フォーラム/ワークショップ】循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか？～

セミナー

2/7・1/26【九州】【東京】開催

【環境省主催 フォーラム/ワークショップ】循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか？～

LINE 12 ツイート 0

これから先、国内では少子高齢化や過疎化などの影響で、地域における人口が減り、自然に対する管理が行き届かなくなり、森林・川海などの自然資本が健全に機能しなくなることが予想されています。今後、地域社会が活性化するためには、環境・経済・社会の課題がそれぞれ解決され、低炭素・資源循環・自然共生社会が同時に実現する地域づくりがこれまで以上に重要となってきます。まさに、地域社会の中心となる役割を果たしている排出事業者と処理業者の間でコミュニケーションを密にすることは、地域循環産業の発展、地域社会における信頼の向上を図るために大変重要となってきます。

今回のフォーラム/ワークショップ開催後には、排出事業者と処理業者の日常業務に関するコミュニケーションの理解促進がされ、今後もこのような場を設けてほしいというご要望を多くいただきました。今年度は今回のワークショップをさらに発展させて、排出事業者と処理業者が連携・協働することで地域づくりの活性化にどうつなげていくのかを考えていくプログラムを予定しております。

現在の処理業者（もしくは排出事業者）との連携に課題を感じている方や、新たに処理業者（もしくは排出事業者）を見つけたい方は是非ご参加をお待ちしております。

対象

環境業務に携わる本社・事業場の廃棄物管理担当者の方
 優良産廃処理業者認定制度における優良認定業者もしくは認定取得を検討中の処理業者の方（※）

※ 優良産廃処理業者認定制度推進の観点から条件を設定させていただいております。認定取得を検討されている段階でも申し込みいただけます。

プログラム

第1部 基調講演 13:10～14:20

「地域社会の発展に向けて、排出事業者と処理業者が今できる連携・協働とは？」
 北九州市立大学大学院 マネジメント研究科教授 松永 裕己氏 13:10～13:45

環境ビジネスの観点から、排出事業者と処理業者が連携することの意義や連携による発展の可能性についてお話いただきます。

排出事業者と処理業者の連携事例紹介 13:45～14:10

排出事業者と処理業者が地域に貢献している事例と成功のポイントについてお話いただきます。

東京会場	福岡会場
排出事業者：アサヒ飲料株式会社 処理業者：調整中	排出事業者：プライムデリカ株式会社 処理業者：株式会社大島産業

検索

分類から記事を探す

対象から記事を探す

テーマから記事を探す

プロに任せる、廃棄物管理。
 環境BPO → **BESTWAY**
 廃棄物管理ベストウェイ

廃棄物管理がよく分かる DVD

CSR・環境戦略の情報をお届け!
無料メールマガジン登録

ご依頼・ご相談はこちら

選人気記事ランキング

2015/04/07 更新
[不法投棄などの廃棄物処理法違反が発生した場合、どのような罰則を受ける可能性がありますか？](#)

2015/05/26 更新
[逆有償！産業廃棄物を有償で売却するのですが、その代金より輸送費の方が高くなってしまいました。この場合、廃棄物処理法は適用されるのでしょうか？](#)

2012/08/30 更新

※東京会場/処理業者のゲストは決まり次第アップ致します。

「優良さんばいナビ」についてご紹介

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団 14:10~14:20

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営するWEBサイト「優良さんばいナビ」についてお話いただきます。「優良さんばいナビ」では全国の優良認定業者を許可品目や処理の詳細、地域などから検索することができます。

※「優良さんばいナビ」URL: <http://www3.sanpainet.or.jp/>

第2部 ワークショップ 14:30~17:20

「地域社会の発展に向けて、排出事業者と処理業者が今できる連携・協働とは？」

排出事業者と処理業者が連携・協働することで地域づくりの活性化にどうつなげていくのかを考えていくプログラムを予定しております。

※閉会後18:00まで名刺交換の時間を設けております。

※講師・プログラムは変更になる場合がございます。

講師

第1部:「地域社会の発展に向けて、排出事業者と処理業者が今できる連携・協働とは？」



松永 裕己（まつなが ひろみ）氏
北九州市立大学大学院
マネジメント研究科教授

1969年、佐賀県生まれ。九州大学大学院博士後期課程単位取得退学。北九州市立大学講師（1998年～）を経て、現職。専門は環境ビジネス、ソーシャルビジネス。「環境」と「ビジネス」という対極にあるように見えるものを両立させ、相互に発展させていくための方策を研究。著作に『「エコタウン」が地域ブランドになる時代』（共著：新評論）など。

第1部:「優良さんばいナビ」についてご紹介



改田 耕一（かいてん こういち）氏
公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
企画調査部 部長

東京大学工学部卒業、日産自動車入社後、コンサルティング会社を経て、2005年4月より財団勤務。優良産廃処理業者認定制度の普及啓発、産廃経営塾などの人材開発を通して業界の健全な発展に注力して取り組む。

第2部: ワークショップファシリテーター



猪又 陽一（いのまた よういち）氏
アマタ株式会社
環境戦略デザイングループ シニアコンサルタント

東京商工会議所「eco検定アワード」審査委員。早稲田大学理工学部卒業後、ベネッセコーポレーション入社。その後、外資系ネットベンチャーやリクルートエージェント等で新規事業立ち上げ後、アマタに合流。環境・CSR分野における戦略・実行、コミュニケーション、教育など幅広く従事。現在、企業や大学、などで講演、研修、コンサルティング、新聞や本、第三者意見の執筆活動など多数活躍中。著書:『CSRデジタルコミュニケーション入門』（インプレスR&D、共著）

セミナーのご案内

日時	<東京会場> 2017年1月26日 13:00~17:20 (開場12:30) <福岡会場> 2017年2月7日 13:00~17:20 (開場12:30)
場所	

[CSVとは何ですか？](#)

[CSVとの違いは何ですか？](#)

2014/05/13 更新

[産プラスチック類とは？](#)
[産業廃棄物？事業系一般](#)
[廃棄物？そのリサイクル](#)
[方法は？](#)

2016/05/10 更新

[パリ協定とCOP21とは何](#)
[ですか？](#)

担当者の声

[環境負荷ゼロを](#)
[目指すソニーの](#)
[地域特性を活か](#)
[した環境活動とは？](#)

ソニーセミコンダクタ株式会社
熊本テクノロジーセンター
一 熊本総務部
/統括部長 松本 博史氏
/統括課長 谷山 健一氏
/谷 清明氏

[FSC\(R\)森林認証](#)
[で「町の林業を](#)
[活性化」](#)
[「森林・林業日本一の町」](#)

[くり」にチャレンジする住](#)
[田町の取り組み](#)

住田町 産業振興課 伊藤 様 /
気仙地方森林組合 業務課 佐
藤 様、千葉 様、菅野 様

[小さなアイディ](#)
[アで、本業が社](#)
[会貢献に](#) —「面

[白いサービズを"CSR活](#)
[動"につなげる『緑のgoo』](#)
[方式](#)
N T T レゾナント株式会社 サ
ービス事業部 サービス企画部門
望月 綾子 様 / 石澤 悟郎 様

[すべての担当者の声を見る](#)

みんなの「いいね」をあなたに届ける
経営戦略としての現代のCSR
広報・PR・マーケティング 書籍発売中！
CSRデジタルコミュニケーション入門

産業廃棄物処理業
行政処分情報

わかりやすい
産廃マニフェスト
解説記事 総集編

甘くみると怖い
廃棄物に係る
リスク特集

	<東京会場> 東京国際フォーラム G409会議室 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 <福岡会場> JR博多シティ 9階3番会議室 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街1番1号（博多駅直結） 〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街6番11号内田ビル2階
受講料	無料
定員	<東京会場> 50名 ・排出事業者 25名 残席わずか ・処理業者 25名 ※東京会場の排出事業者は1企業につき1名様のみのご参加をお願い致します。 <福岡会場> 50名 ・排出事業者 25名 ・処理業者 25名

お申し込み方法

お申し込みは、お申し込みフォームもしくはFAXにて承っております。必ず下記注意事項をお読みの上、お申し込みください。

フォームによるお申し込み

以下のフォームに、必要事項をご記入の上、お申し込みください。

[お申し込みはこちら](#)

FAXによるお申し込み

申し込み用紙を印刷し、必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。

[申し込み用紙\(PDFファイル\)](#) / FAX:0800-919-1343（フリーコール）

※参加希望日、会場を必ずご確認ください。

※申し込み用紙のダウンロードや、メールの起動がうまくいかない場合は、お手数ですが、下記のアマタグループ お問い合わせ担当までご連絡ください。

参加証のお届け方法

お申し込み受け付け後、遅くとも開催1週間前までに参加証をメールまたはFAXにて送付いたします。当日は参加証を持ってセミナー会場までお越しください。

ご注意

講義の録音、撮影はご遠慮ください。

テキストは会場でお渡しいたします。テキストの配布は参加者に限定いたします。

カリキュラム・講師は変更になる可能性がございます。

開催可能な人数に満たない場合、開催を中止または延期させていただく場合がございます。

お申し込み多数の場合は、抽選、または1名/社へ制限させていただく場合がございます。

お問い合わせ

アマタグループ お問い合わせ担当

TEL: 0120-936-083(フリーコール) / FAX: 0800-919-1343（フリーコール）

メールアドレス: contact@amita-net.co.jp

業務責任者: 「循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか?～」事務局

CSR・環境戦略の情報をお届けします!
無料メールマガジン登録はこちら

ご依頼・ご相談はこちら

この記事に関連するサービス・ツール



廃棄物管理業務アウトソーシング

廃棄物管理の実務はアミタに任せ、貴社は「指示」「判断」「承認」するだけ。クラウド上の管理画面を通じて、貴社から委託された管理業務がどのように行われているか確認できます。アミタへの指示は、インターネット・電話・FAX・eメールなど、ご希望の方法で。現場対応が必要な場合は、最寄りの営業担当者にご相談いただけます。処理委託先の管理実務はすべてアミタが代行。新しい処理委託契約の実務から日常のオペレーションまで、貴社の方針に従った、適法な運用を実現します。

[詳細はこちら](#)



環境CSR戦略・実務を支援する教育支援

担当者や体制変更、工場・営業所等拠点の新設等の際には、新任ご担当者への教育が重要となります。また、毎年の研修も、環境・CSR関連法の改正対応や背景情報の更新など、準備に手間がかかります。アミタのセミナーとオンデマンド研修は、経験豊富な講師による高品質の授業を評価いただき、環境・CSR対策を重視する大手企業にも多く採用されています。短時間で効率的に、必要な知識を身につけることが可能です。

[詳細はこちら](#)

アミタの100%リサイクル

アミタは受け入れた産業廃棄物は100%リサイクルします。またアミタが製造する再生資源（リサイクル製品）は、納品先であるユーザー企業で天然資源の代替原料として利用され、その残さはさらにそれを



必要とする次のユーザー企業に運ばれ、100%利用されます。まずはご相談ください。

[詳細はこちら](#)



安心と信頼の廃棄物管理システム「e-廃棄物管理」

e-廃棄物管理は、ネットワーク上で、廃棄物管理に関する情報や書類、業務を一括で管理・実施できるサービスです。委託先のすべてが電子マニフェストに対応していなくても導入できるのが特徴です。ITで管理することによって、毎年のデータ集計も短時間で可能になります。

[詳細はこちら](#)

[このページの上へ](#)

メインメニュー

[トップページ](#) [CSR・環境戦略Q&A](#) [セミナー](#) [コラム](#) [担当者の声](#) [産業廃棄物処理業 行政処分情報](#)

[メールマガジン会員登録](#) [このサイトについて](#) [RSSの登録](#) [お問い合わせ](#) [ヘルプ](#) [個人情報保護方針](#) [サイトマップ](#)

⑤ 処理業者の申込方法

主に処理業者に対して集客を行うため、優良認定業者が利用する「優良さんぱいナビ」ウェブサイトを利用した。

〔「優良さんぱいナビ 申込みページトップ画面」〕（平成 28 年 12 月 3 日公開）

優良さんぱいナビ
優良産廃処理業者ナビゲーションシステム

フォーラム・ワークショップへ
優良さんぱいナビの使い方

企業の再資源化チャレンジへ
優良さんぱいナビの登録方法

さんぱいくんへ
よくある質問

お問い合わせ

トップ

中間処理業者を探す

収集運搬業者を探す

最終処分業者を探す

業者名・住所から探す

フリーワード検索状況

環境省主催 フォーラム／ワークショップ

循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と
処理業者が地域のために今何ができるのか？～

【各会場50社限定】

今後、地域社会が活性化するためには、環境・経済・社会の課題がそれぞれ解決され、低炭素・資源循環・自然共生社会が同時に実現する地域づくりがこれまで以上に重要となってきます。環境省では、排出事業者と処理業者が連携・協働することで地域づくりの活性化にどうつなげていくかを考えていくために、「循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか？～」と題したフォーラム／ワークショップを開催いたします。

フォーラムでは、環境ビジネス、ソーシャルビジネスを専門とされている北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授 松永 裕己氏から講演していただく他、排出事業者や処理事業者が循環型地域社会のために貢献している優良事例の紹介を行います。

また、本フォーラムの一環として行うワークショップは、排出事業者と優良な産廃処理事業者が一同に会して意見交換を行う数少ない機会です。共通のテーマで意見交換を行うことによりお互いの考え方を知り、信頼関係をつくり、日ごろの不安や疑問を解消し積極的な連携・協働のきっかけの場を創設します。

対象

FAXによるお申し込み

申し込み用紙を印刷し、必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みください。
[申し込み用紙\(PDFファイル\)](#) / FAX:0800-919-1343（フリーコール）

本イベントの趣旨にご賛同いただき、簡単な事前アンケートにご協力いただけるとともに、ワークショップにも積極的にご参加いただける方をお待ちしております。

※優良産廃処理業者認定制度推進の観点から対象を設定させていただいています。
ご担当者様にて認定取得をご検討されている段階でもお申込みいただけます。

プログラム

第1部 【基調講演】

◇東京会場、福岡会場 地域社会の発展に向けて、排出事業者と処理業者が今できる連携・協働とは？（仮）



【講師】 北九州市立大学 大学院 マネジメント研究科 教授 松永 裕己氏
1969年、佐賀県生まれ。九州大学大学院博士後期課程単位取得退学。北九州市立大学講師（1998年～）を経て、現職。専門は環境ビジネス、ソーシャルビジネス。「環境」と「ビジネス」という対極にあるように見えるものを両立させ、相互に発展させていくための方策を研究。著作に『エコタウン』が地域ブランドになる時代』（共著：新評論）など。

第2部 優良事例プレゼンテーション

【東京開催】

○アサヒ飲料株式会社

【福岡開催】

○プライムデリカ株式会社

○株式会社大島産業

第2部第2部 ワークショップ「地域社会の発展に向けて、排出事業者と処理業者が今できる連携・協働とは？」

排出事業者と処理業者が連携・協働することで地域づくりの活性化にどうつなげていくのかを考えていくプログラムを予定しております。

<プログラム>

- ・自己紹介・アイスブレイク（20分）
- ・グループワーク（90分）
- ・プレゼンテーション（各グループ3分程度）
- ・フィードバック・気付きの共有（10分）

※ワークは6つのグループに分かれて行い、進行はファシリテーターが担当します。

概要

	東京会場	福岡会場
日時	2017年1月26日（木） 13：00～17：20 （開場 12：30～）	2017年2月7日（火） 13：00～17：20 （開場 12：30～）
場所	東京国際フォーラム G409 会議室 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号 http://www.t-i-forum.co.jp/general/access/	JR博多シティ 9階3番会議室 〒812-0012 福岡県福岡市博多区博多駅中央街1番1号（博多駅直結） https://www.irhakatacity.com/communicationspace/#Access
参加費	無料	無料

※お申込は1社につき1名様とさせていただきます。

※17:20～18:00まで名刺交換会を予定しています（任意参加）。

参加申し込み方法

以下URLの入力フォームよりお申込みください。なお、お申し込みは1社につき1名とさせていただきます。

<https://business.form-mailer.jp/fms/8f6ced0449463>

注意事項

- ・業種の偏り等、ワークショップのグループ編成における都合により、開催日の2週間前を目処にお断りのご連絡をさせていただくケースがございます。
- ・深夜24:00～6:00の時間帯はお申込ができません。
- ・カリキュラム・講師は変更となる可能性がございます。
- ・天候によって、開催を中止、または延期させていただく場合がございます。
- ・講義の録音、撮影はご遠慮ください。
- ・ワークショップの一部を除き、メディアの取材・撮影が入る場合がございます。

お問い合わせ

「循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか？～」フォーラム/ワークショップ事務局（本事業の請負事業者）

〒604-0847 京都市中京区烏丸通押小路上ル秋野々町535 日土地京都ビル2階

TEL：0120-936-083（フリーコール）

メールアドレス: contact@amita-net.co.jp

[利用者の皆様へ](#)

[申込みフォーム]

【環境省主催フォーラム/ワークショップ】

循環型地域社会の発展に向けて
～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか?～

＊ 必須項目です

＊ 参加希望セミナー日時・場所

☐ 2017年1月26日（木）東京

☐ 2017年2月7日（火）福岡

＊ 名前

姓 名

＊ 名前（フリガナ）

姓 名

カタカナでご記入ください。

＊ 会社名

＊ 事業所名

事業所がない場合は「なし」とご記入ください。

＊ 部署名

部署がない場合は「なし」とご記入ください。

＊ 役職名

役職がない場合は「なし」とご記入ください。

＊ メールアドレス

(確認用)

自動返信メールにて、申込ご確認メールをお送りしております。
また、携帯電話のメールアドレスの場合は、本フォームからの返信ができない場合がございます。予めご了承ください。

25

・住所

〒 -

都道府県

▼

市区町村番地

マンション・ビル名

・電話番号

- -

FAX番号

- -

ご参加いただくにあたり、簡単なアンケートを実施しております。こちらもご記入をお願いいたします。

業種

記入例：

石油製品製造業、産業廃棄物処理業etc

・参加する立場

☒ 排出事業者

☐ 処理業者

業務内容

※産業廃棄物処理業者として参加される場合は、貴社PRをご記入ください。

«資源の循環・有効利用に関して» これまでに自社で排出事業者/処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください。

«日頃の廃棄物管理（処理）業務に関して» 排出事業者/処理業者とのやり取りで困ったことがあればご記入ください。

※排出事業者として参加される方は処理業者の、処理業者として参加される方は排出事業者の対応についての困り事、改善してほしい点があればご入力ください。

<排出事業者> 事前に廃棄物の搬出の連絡をしているが、予定通りトラックが来ない。etc

<処理業者> 排出事業者から廃棄物の処理依頼連絡が急にくる、ゆとりを持って依頼してほしい。 etc

«資源の循環・有効利用に関して» 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください。

本イベントに期待することは何ですか？

・個人情報の取り扱いへの同意

☒ 同意する [こちらをご確認ください](#)

⑥ 集客結果

		排出事業者 参加企業数(参加人数) ※定員 25 名	処理業者 参加企業数(参加人数) ※定員 25 名
東京会場	申込み	41 社(41 名)	26 社(26 名)
	当日参加	26 社(26 名) (途中退席 1 名も含む)	23 社(23 名)
福岡会場	申込み	24 社(26 名)	19 社(24 名)
	当日参加	21 社(23 名)	16 社(21 名)

⑦ 受付方針

- ・ 基本的には先着順での受付とし、原則として排出事業者、処理会社それぞれ 36 名を超えた時点でキャンセル待ちとする方針とした。
- ・ 優良認定業者を特に優先することはないものとした。
- ・ お断りする場合、イベント当日の 1 週間前までに申込者への連絡をするものとした。また、参加者へは当日の 1 週間前までにリマインドメールを送信した。
- ・ 東京会場については申込が予想以上に多かったことから、1 企業について 1 名のみにご参加いただくこととした。

4. パブリシティ

① 環境省ホームページへの開催結果掲載

環境省ホームページにて公表する本フォーラム／ワークショップ開催結果の報道発表の資料作成を行った。

※詳細は「別添資料 5. 環境省ホームページ報道発表資料」を参照

② メディア取材対応

本フォーラム／ワークショップでは取材受付を行い、東京会場にて株式会社日本食糧新聞社、株式会社資源新報、日報ビジネス株式会社、環境産業新聞社、NP0 法人未来舎の 5 社より取材を受けた。なお取材内容については、「日本食糧新聞 2 月 10 日号」（日本食糧新聞社）、「週刊循環経済新聞 2 月 6 日号」（日報ビジネス株式会社）の記事として掲載された。

5. アンケート

① 狙い

本事業の狙いである(1)排出事業者・処理業者間連携の必要性の認識向上、(2)処理業者の優良認定取得の機運醸成についての効果測定と、(3)処理業者の優良認定制度普及のための施策について利用者より意見を募集することを目的にアンケートを設計し、各会場でのフォーラム／ワークショップ終了後に参加者への回答を求めた。

② アンケート用紙

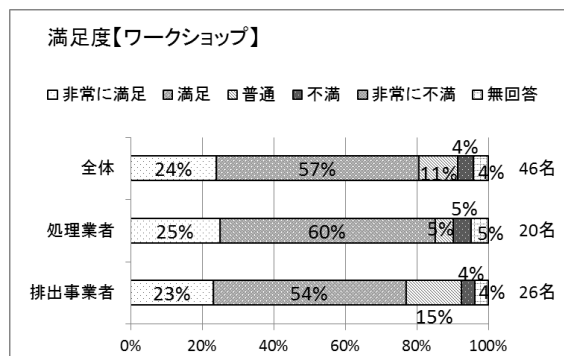
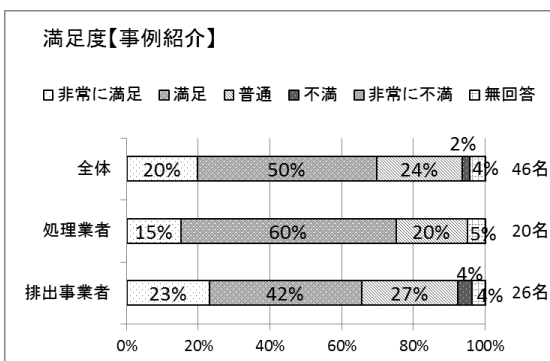
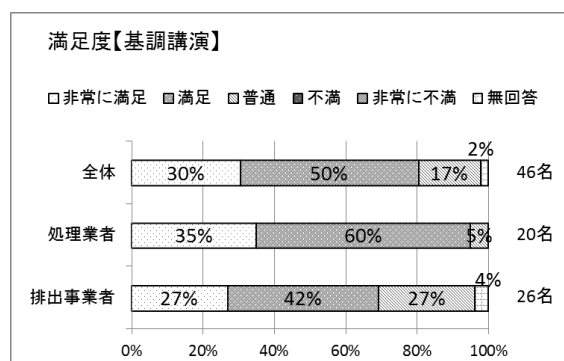
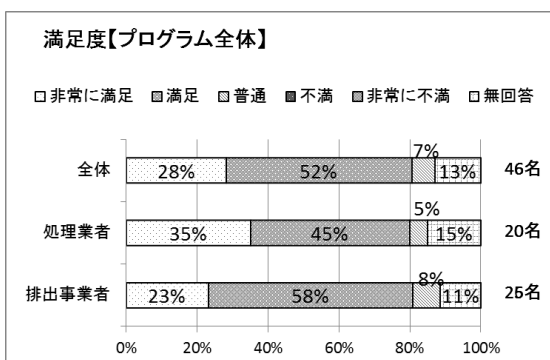
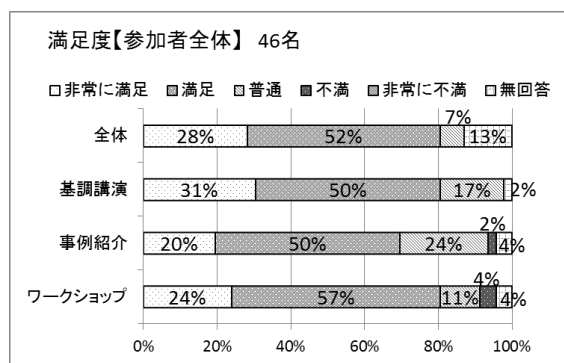
アンケート					
この度は環境省主催フォーラム／ワークショップにご参加いただきありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので、下記アンケートにご協力ください。					
貴社名			お名前		
※ご記入内容を貴社名・個人名が特定されない形でウェブサイト等に掲載させていただく場合がございます。					
(1) 本日のフォーラム／ワークショップは参考になりましたか？5段階で評価して○をつけてください。					
	非常に満足	満足	普通	不満	非常に不満
フォーラム・ワークショップ全体	5	4	3	2	1
第1部【基調講演】廃棄物処理における戦略的連携と地域発展	5	4	3	2	1
連携事例紹介(2事例)	5	4	3	2	1
第2部 ワークショップ『循環型地域社会の発展に向けて』	5	4	3	2	1
(2) 地域循環による取組み推進のアイデアや気付きが得られましたか？もしくは取組みのきっかけとして役に立ちましたか？					
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらとも言えない 2.そう思わない 1.全くそう思わない					
【5、4を選択された方へ】具体的にどのようなアイデア・気付きがありましたか？					
【1、2を選択された方へ】なぜそのように思われましたか？期待と異なったのはどのようなところですか？					
(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思いますか？					
1.はい 2.いいえ					
【1を選択された方へ】具体的なご要望やアイデア等があればご記入ください					
(4) 環境省では優良産廃処理業者認定制度を推進していきたいと考えています。広く普及するためにはどのようなことが必要だと思われますか？ご意見をお聞かせください。					
(5) 【優良産廃処理業者認定未取得の処理業者の方へ】					
本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まりましたか？					
5.とてもそう思う 4.そう思う 3.どちらとも言えない 2.そう思わない 1.全くそう思わない					
(6) その他、本イベントを通してのご意見・ご感想等ございましたらご記入ください。					
以上です。ご協力いただきありがとうございました。					

③ 集計結果

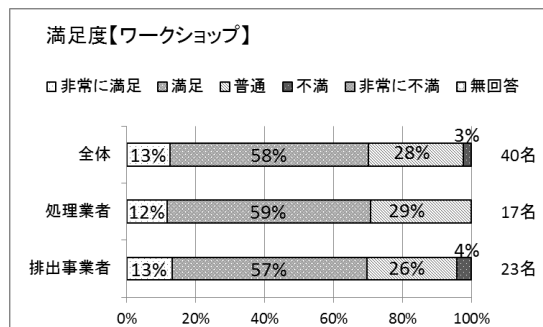
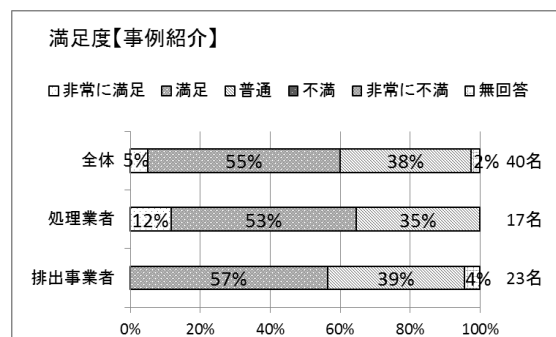
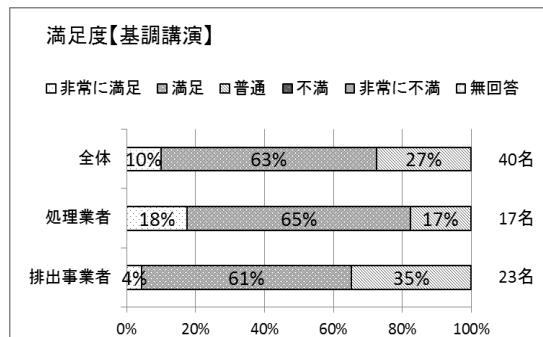
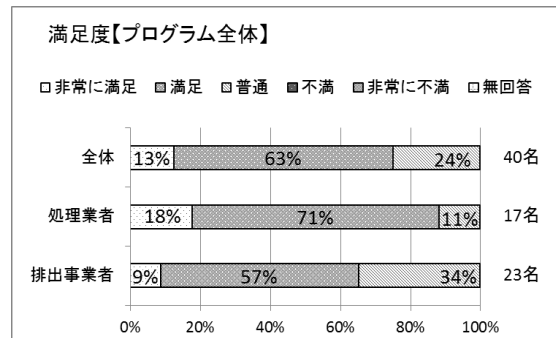
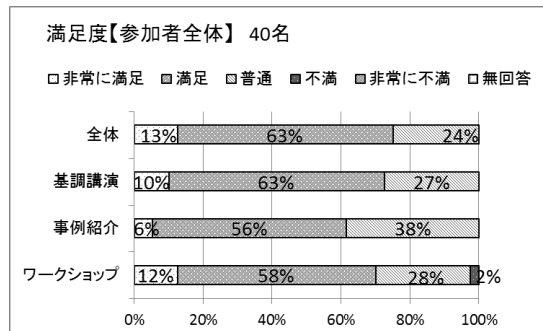
(1) 本日のフォーラム／ワークショップは参考になりましたか？

5段階で評価して○をつけてください(5.非常に満足 4.満足 3.普通 2.不満 1.非常に不満)。

[東京会場]



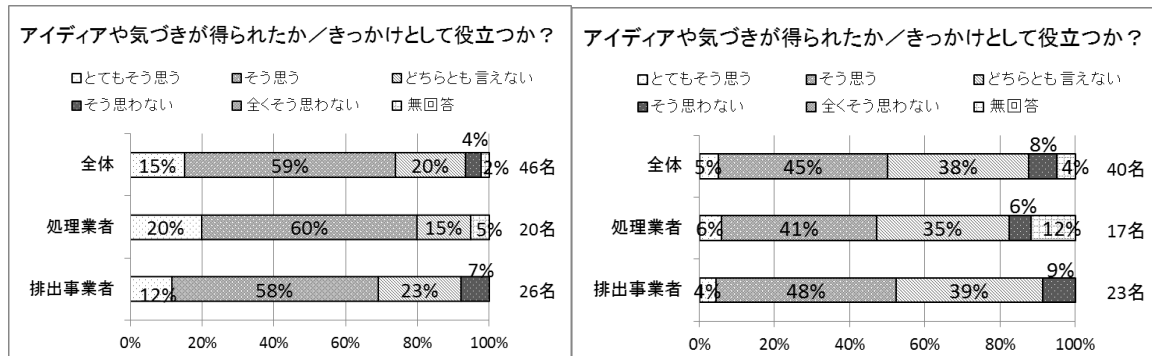
[福岡会場]



(2) 連携・協働による取組み推進のアイデアや気づきが得られましたか？もしくは取組みのきっかけとして役に立ちましたか？

[東京会場]

[福岡会場]



【「5.とてもそう思う」「4.そう思う」を選択された方へ】具体的にどのようなアイデア・気づきがありましたか？

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 賞味期限の延長、月次化の推進、商習慣改善の推進。
- ・ 処理業者とのコミュニケーションが大事だった。（計 4 件）
- ・ 処理業者とのコミュニケーション不足を感じた。
- ・ 産廃処理業者の方と日頃コミュニケーションがなく、今回は考えを伺える良い機会になった。
- ・ 他の排出業者様、弊社のとのお付き合いのない処理業者様の意見も拝聴することができ、とても有意義な会だった。
- ・ 少量廃棄物にみんな困っている。
- ・ 一廃と産廃のややこしさ。
- ・ 不燃可燃という表現やめてほしい。
- ・ 処分業者さんのご意見、他業種さんの問題点の認識が理解できた。
- ・ 他社との連絡、産廃業者の知識の高さ。
- ・ 受け渡し時の選別が大事。
- ・ 資源循環には出口が重要だと確信できた。
- ・ 一人一人の日頃からの環境への意識が重要。
- ・ ビジネスプランの作成が必要。

- ・ 分別しやすいモノづくりをすること。ただし反対にあうのは目に見えているのでどう説明していくかが必要になる。
- ・ 外部の意見を聞いたことは非常に有意義。地域循環はテーマが大きくて事業者の取り組みと結びつきにくい。
- ・ 生ごみ処理の例（物販からビジネスモデルへ）。
- ・ グループディスカッションでの意見交換法。
- ・ 廃棄物処理法改正の議論。

【処理業者】

- ・ リサイクル業者の優良認定は是非検討願いたい。
- ・ これから取り組みを考えたい。
- ・ リサイクル・資源循環が推進されるには、法制度の追加、整理が必要だと他の方のご意見から気づかされた。
- ・ 多種多様な業種からの多種多様な意見があふれていた。
- ・ 問題を共通認識できたこと。
- ・ 今まで考えたことがない切り口で新しい情報が得られた。
- ・ 食品 RC、建設廃材と広く議論され広い視野でいろいろと考えさせられるチャンスになった。
- ・ 排出者も法律に困っていると思った。
- ・ 情報の大切さ。
- ・ 全体の課題が理解できたので、地域社会が向上できるように努力したいと思う。
- ・ システムメーカーとして邁進しなくてはと思った。
- ・ スタート地点は異なっても資源循環に対する悩みは共通していると感じている。
- ・ 排出者と話をする機会はなかなかないため。
- ・ 産業クラスターの気づき。
- ・ 排出業者様の方の廃棄物の流れに興味を持っていない方がいかに多いかと思った。もっと見える化が必要だと感じた。

[福岡会場]

【排出事業者】

- ・ 処理業者の方の意見が直接聞けた点は非常に良かった。処理上の問題点が出され、排出する側で注意すべき点や改善点もあった。（どのように分別すればコスト削減になるなど）（計 2 件）
- ・ 排出業者、処理業者それぞれの立場での意見が聞け、排出の仕方、処理業者へのアプローチの仕方を見直すきっかけになった。（計 2 件）

- ・ リサイクルへの関心が高まった。
- ・ 処理業者の方の問題点も聞くことができ、視野が広がった。
- ・ 地域循環。
- ・ 分別におけるポイント制→排出側の意識向上。
- ・ 製品化から排出するまでを進めていく。

【処理業者】

- ・ 地域とのコミュニケーションや CSR 活動に力を入れている事例を受け刺激を受けた。
- ・ 他社の取り組みや今後の課題や目標など自社とは違う方向性で色々と為になり参考になった。(計 2 件)
- ・ 排出元、産廃処理業者について知っているようで知らないことが多かった。
- ・ 排出業者の悩み(保管場所の問題、排出量の減少に伴う契約業者との関係、長期取引に伴う遠慮)(計 2 件)
- ・ 各県別にセミナー・研究会を希望する。
- ・ 建設業界においてなかなか適切な分別ができないのは、現場が狭いからということを初めて知った。

【「2.そう思わない」「1.全くそう思わない」を選択された方へ】なぜそのように思われましたか？期待と異なったのはどのようなところですか？

[東京会場]

【排出事業者】

- ・ 飲食店でのゴミ管理が難しい。プラカップの洗浄は人件費がかかりすぎる。

【処理業者】

該当なし

[福岡会場]

【排出事業者】

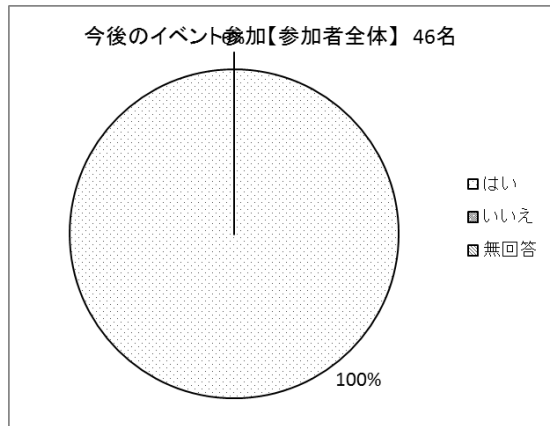
- ・ 地域循環の必要性について今一つ同意できなかった。
- ・ 循環型の話はあまりできなかった。

【処理業者】

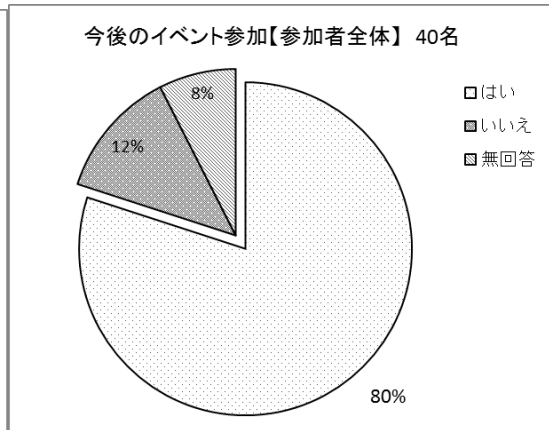
- ・ 地域循環は処理品目が限られているのでは？

(3) 今後、このようなイベントに参加してみたいと思いますか？

〔東京会場〕



〔福岡会場〕



【「1.はい」を選択された方へ】具体的なお要望やアイデア等があればご記入ください

〔東京会場〕

【排出事業者】

- ・ 排出業者とリサイクル業者とのマッチング。
- ・ 循環利用と CSR のマッチング。
- ・ 業界・分野の特定（廃棄物の区分ごと、建設業関連、食品の商品ロス削減に絞ったフォーラム、返品削減取り組みの共有化など）（計 3 件）
- ・ 環境マインドの向上につなげられる内容に興味がある。
- ・ 今回の事業者と処理業者で話し合いができたのは貴重だったのでテーマを変えてまたやってほしい。
- ・ 回数を増やしてほしい。こういった機会はどんどん作るべきだと思う。（計 2 件）
- ・ いろいろな観点でマッチング事例を聞いてみたい。事例とディスカッションを予め考える内容のイベントがほしい。（計 4 件）
- ・ 是非、行政にも加わってほしい。

【処理業者】

- ・ この会に参加される排出業者の方々は環境意識が非常に高い方が多いので、勉強になる。
- ・ 法律がネックとなることが多いので、それを抽出できるようなリードがほしい。
- ・ 現在の方にとらわれない意見のやり取り。

- ・ 地域が違う同業者様、排出者様とチームを組ませて頂けましたらもっと忌憚無い話し合いができるかもしれない。
- ・ 行政との意見交換もしたい。処理業者、排出者様を区別なく同じ目的が作れたらいいと思う。（例えば、事務処理の共同作業など）（計 2 件）
- ・ 今回のように経済的にも環境的にも win-win になる取り組み。
- ・ パイが少なくなる中で廃棄物業者のあり方について。

〔福岡会場〕

【排出事業者】

- ・ 今回のように聞くだけでないワークショップは良かったと思う。
- ・ 今回のような排出業者と処理業者とのフォーラム/ワークショップの開催。
- ・ 関係法令に関するものも意見交換などができればいいと思う。（計 2 件）
- ・ 同業者の方とも話す機会が持てたらと思う。
- ・ 規制緩和の議論ができたが、やはり「官」がワークショップに入らないとその場の議論に終わってしまうのでは？
- ・ ディスカッションへの行政の参加、行政へのフィードバック（計 2 件）
- ・ このようなセミナーを地方行政も含めて行っていただければ。

【処理業者】

- ・ グループワークは地域別ではなく、業種別にしてはどうか。
- ・ モデル事業所の見学研修の実施を希望する。
- ・ いろいろな業種の方が集まるので、自社の PR をグループだけでなく全員にしたい。
- ・ 「資源循環」の本質を考える等。
- ・ 大学生の方をお招きして、多方面の視点から議論するなど。

(4) 環境省では優良産廃処理業者認定制度を推進していきたいと考えています。広く普及するためにはどのようなことが必要だと思われますか？ご意見をお聞かせください。

〔東京会場〕

【排出事業者】

- ・ 有効な施策だと思う。
- ・ 優良業者のメリット、排出業者のメリットが明確に分かるようにする。
- ・ （例えば事前協議を免除、認定業者へ委託した場合の排出業者へのインセンティブ、許可期限 7 年の他、優遇制度の確立など）（計 6 件）
- ・ 制度における認定内容、ガイドラインの公開。排出側もどのような内容をクリアにして認定されているのか知る必要がある。

- ・ 排出事業者にとってもメリットがある情報を広く流していく。CM など （計 3 件）
- ・ 入札時の必須条件にする。
- ・ 都と歩調を合わせて頂きたい。
- ・ 認定に係る諸費用の見直し。
- ・ どれだけハードルが高いかをアピールし、認定業者であれば安心であることを植え付ける。
- ・ 処理業者へのビジネス上の優位を強調しては？
- ・ 二次処理委託先、売却先の実名公表
- ・ 優良認定をあえて受けない業者様でも優良な業者さんがいる。これをどう説得して優良にしていくか、環境省の出番だと思う。
- ・ 認定を厳格にする。
- ・ 排出業者側もよい企業になること。コスト重視ではなく、お互いに日本の資源循環を考えていく。

【処理業者】

- ・ 処理台数などを公開することを前提としているのは厳しい。
- ・ インセンティブをもっと強力に与えて頂ければよいと考える。（更新期限の延長以外にも何か優位な特権を付与する、補助金など、マニフェスト返却 10 日に運搬コスト、労力のムダ、IT を使って別の仕組みを）（計 4 件）
- ・ 優良企業であることのメリットの増加。イメージアップ PR（TV、CM 等メディアを通じた周知）（計 4 件）
- ・ 排出者様へ優遇措置→優良の選択。
- ・ エキスパートとの兼ね合い。
- ・ コストの削減。
- ・ 処理業者との横の連携。

[福岡会場]

【排出事業者】

- ・ 排出業者への教育が大きいと思います。排出する側に処理業者の選択権があり、制度の概要、取得方法等を周知することが普及につながると思う。（計 3 件）
- ・ 制度に関する周知、アピール（計 2 件）
- ・ 優良認定業者の責任は行政が持つ。
- ・ 取得した場合のメリット。
- ・ 幅広く受け入れが可能な業者を選んでほしい。

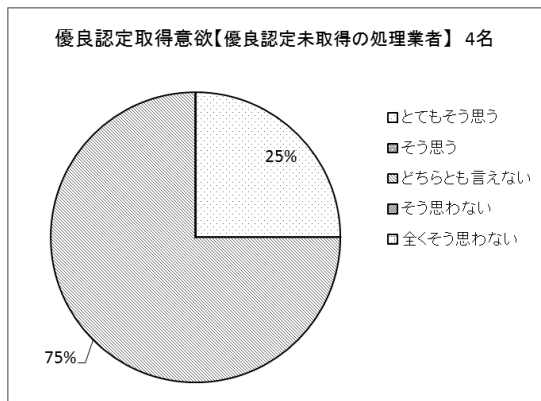
【処理業者】

- ・ インセンティブの拡充（計 2 件）
- ・ 排出業者の工場に認定制度の説明会を実施して普及させてもらいたい。
- ・ 取得ができていない業者とできていない業者の明確な優位性の区別。会社の規模によって認定条件を変える。設備などが少ない方が取得しやすいのでは？
- ・ メディアを使って大々的な広報（計 2 件）

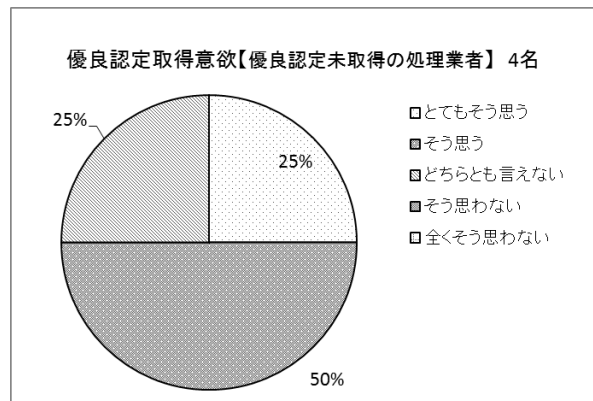
(5) 【優良産廃処理業者認定未取得の処理業者の方へ】

本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まりましたか？

〔東京会場〕



〔福岡会場〕



(6) その他、本イベントを通してのご意見・ご感想等ございましたらご記入ください。

〔東京会場〕

【排出事業者】

- ・ とても面白興味深いフォーラムであった。直接お話が聞けるととても良い機会となった。（計 5 件）
- ・ 処理業者さんの意見を聴けたのは大変参考になった。
- ・ 企業の立場としてはまず適正処理が第一で、地域的なことはあまり意識してなかった。
- ・ 今後も同様のワークショップ、フォーラムの開催をお願いしたい。（計 2 件）
- ・ 会場設定においてスクリーン・発表者に背を向けていたため見えにくかった。
- ・ もっと苦労されている話を聞きたかった。
- ・ ケーステーマは一つに絞ってもよいのでは。

- ・ さんばいくん(ネット)はとても有用な情報だが(特に業者認証をチェックしている。各社の登録内容にばらつきがあるし、登録自体をしていない業者さんもいるので、その登録率をアップしてもらえたらいいと思う。

【処理業者】

- ・ 勉強させて頂き有難うございました。(計3件)
- ・ 自分の見識の浅さに改めて気づかされた。博識な皆様のご意見を頂けるのは貴重だと感じた。
- ・ さらに優良認定業者の取得向上へ向けてセミナーお願いしたい。
- ・ 話にも出たコミュニケーションを取り合うことに対して、皆さんが同感されていることが良かったと思う。一人ではできないことも、みんなで行えば、できることも多いと思う。
- ・ 今回は課題がまとめにくいものだったと思う。

【福岡会場】

【排出事業者】

- ・ ワークショップが2時間もあり長いと思いましたが、実際にやってみるとあっという間だった。
- ・ 最後の発表会は非常に勉強になった。
- ・ 他業界でのアイデア、考え方が勉強になった。
- ・ 排出業者、処理業者とのマッチングの場があればよいと思う。
- ・ 行政の縦と横の連携を取って頂き、法改正をお願いしたい。
- ・ 会議室が狭いため、他グループの声が聞こえてくる。広い場所の確保をお願いしたい。
- ・ 排出業者のグループ分けを「建設」、「食品」と業種で分けてほしい（地域で分けるのではなく）。
- ・ 毎年開催して頂きたい。

【処理業者】

- ・ 悩みは同じであることがよくわかった。特に知識が不十分な点について社内で教育していることに感心した。
- ・ 改めて「資源循環」が目的なのか手段なのかなども含めて考えるきっかけとなった。
- ・ 自社への目標が明確になったように思う。活かしていきたいと思う。
- ・ 排出事業者様とこのようにディスカッションできるのはすごく勉強になった。
(計3件)
- ・ グループワークでは廃棄物処理の理想と現実、いろいろな意見が聞くことができ、業界の抱える問題が分かった。

- ・ ワークショップの時間を長くして頂きたい。
- ・ 排出業者も処理業者も同業種でグループ化して頂けるとありがたい。
- ・ 北九州でも開催してほしい。
- ・ テーブルファシリテーターのレベルを合わせた方がいいと思う。
- ・ カメラの音が気になった。横のグループが近く、音が気になった。休憩時間が短かった。発表者にある程度のレジュメがほしかった。
- ・ 格差をつけるのではなく、全体のレベルアップのハードルを上げるべき。法改正も必要。

※アンケートの詳細については、「別添資料 6. アンケート結果一覧」参照

III. 総括

1. フォーラム／ワークショップについて

- ・プログラム全体の満足度は、東京会場、福岡会場とも満足度が高かった。（「非常に満足」及び「満足」の割合：東京 80%、福岡 76%）
- ・全体としては、福岡会場よりも東京会場の方が満足度は高かった。プログラム内容では、東京会場が「基調講演」、福岡会場が「ワークショップ」の満足度が高かった。
- ・今年の事例発表は昨年と変更して、同じ優良事例について排出側、処理側からの視点で発表を行ったが、連携・協働までに至った背景が伝わって好評であった。
- ・東京会場、福岡会場ともに、排出事業者よりも産廃処理業者の満足度が高い。産廃処理業者は地域に根付いた企業が多く、地域循環というテーマは処理業者に響いたのではないと思われる。
- ・今年は例年と比較して、資源循環や地域循環といった本業に即したテーマについてのワークショップで、内容的に難しいものがあつた。しかし、本質的なテーマ設定であったために、白熱した議論がなされて、両者が本音ベースで意見交換ができたものと思われる。地域特性の影響もあつてか、東京会場よりも福岡会場の方が地域循環についての意見交換が充実していたように思う。
- ・アイデアや気づきという点では、東京会場が「役立つ」と回答した人が多かったが、福岡会場では、「役立つ」という層は比較的少なかった。（「とてもそう思う」及び「そう思う」の割合：東京 74%、福岡 50%）
- ・今年のワークショップでは、できるだけエリアが近い業者でグループを編成したが、「幅広く業界のリサイクル事情が聞けて良かった。」「今まで考えたことがない切り口で新しい情報が得られた。」といった意見がある一方、「自社とはあまり関係がなかった。」といった意見もあつた。原因として、東京会場では、参加者層が本社担当者が多く、幅広く意見を聞いたことを良い方向に受け止めていたが、福岡会場では、現場担当者が多く、自らの業務と比較して役立つのかという見方が多かったのではないかと。
- ・全体として、排出事業者からは「処理業者とのコミュニケーションが大事である。」「日頃お付き合いがない処理業者と話すことが出来て、新たな視点が得られた。」という建設的な意見が多かった。処理業者からは「地域への社会貢献活動に力を入れている他社事例を聞いて刺激を受けた。」「排出事業者の悩みが分かって参考になった。」といった自社との比較で刺激を受けている例が多かった。

- ・アンケート回答者の大多数がこのような企画があれば「次も参加したい」との回答が多かった。（東京 100%、福岡 80%）要望として、「排出事業者とリサイクル業者のマッチング」「業界・分野の特性別ワークショップ」「県別にセミナーや研究会の実施」「年 1 回だけではなく回数を増やしてほしい」など積極的な要望をいただいた。次年度へのテーマ設定や開催方法の参考としたい。

以上の結果より、排出事業者と産廃処理業者との連携のためには、このようなコミュニケーションの場が必要であることは明白であり、また、本フォーラムは実務の枠を超えて連携のあり方について意見交換できる稀有の場として、今後も継続的開催が求められている。また、産廃処理業界の発展のためには、行政や地域住民との関係構築が必須である。次年度は、行政担当者や専門家などもオブザーバーとして、このような場に積極的に参加を呼び掛けていくことも検討していく必要がある。

2. 処理業者の優良認定取得の機運醸成について

- ・東京会場では「とてもそう思う」「そう思う」が回答者 4 名中 1 名（25%）、福岡会場では回答者 4 名中 3 名(75%)となった。首都圏よりは認知が低い地方での優良認定取得の意欲が高まったという結果が得られた。
- ・プログラム全体としての満足度は東京会場が高かったのにも関わらず、福岡会場の方が優良認定取得の機運醸成に繋がった。やはり、地方では優良認定の認知度が低く、優良認定のメリットがまだしっかりと地方に伝わっていないのではないかな。

3. 処理業者の優良認定普及のための施策について

- ・昨年同様に、アンケートで最も多い意見はメリットやインセンティブを増やすことを望む声が多かった。また、排出事業者にとっても優良認定業者に委託するメリットをもっとPRしていくことも必要であるという意見も頂いた。

4. 運営面について

最終的には、東京、福岡の両会場ともに申込者数の目標は達成した。特に、東京会場では、早々に目標数値を越えるお申込みを頂いたこともあり、キャンセル待ちも出ている状況であった。一方、福岡会場では、かなり集客には苦戦した状況である。今後、地方開催する上では、集客面で各行政との協力体制を組まなければ目標とする 50 名には達しないということを改めて認識した。地域循環を進めていくには、やはり、地方行政との協力なくしては進めることができない。

5. 次年度への方向性

【ワークショップの企画・運営について】

- ・今年度は資源循環、地域循環をテーマにしたワークショップを実施したが、会場によってテーマ設定の反応が違っていた。次年度以降は、開催地の状況に合わせて扱うテーマ等を分けるなどの工夫も検討すべきである。
- ・今回、エリアが近い企業同士でグループ分けを実施した。しかし、自分以外の業界事情については、他人事になってしまい、深い議論まで進めていくことが出来なかった。やはり、資源循環や地域循環などの議論を活発にするためには、ある程度業界ごとに分けて専門的な話し合いをする必要がある。次年度以降は、特定分野の業界（例えば、建設系、食品系など）に絞った意見交換を実施することも検討してもよい。
- ・今年度は連携・協働事例を排出側、処理側からの視点で発表頂いたが、次年度の事例発表もできるだけ両視点で連携・協働の事例を発表していくことを検討。今年度は食品ループの事例を東京会場、福岡会場ともに扱ったが、他の業界での連携・協働事例など発表ができると良い。
- ・ワークショップ開催にあたり、参加メンバーからの要望が強い地方自治体の行政担当者もオブザーバーとして参加できるように呼び掛けを行う。
- ・首都圏では参加企業社が多く、東京、大阪で開催を検討。参加目標人数を60名に。
- ・地方開催では、まだワークショップ自体を実施したことがないエリア（北海道・東北エリア、上信越エリア等）での開催を検討。
※ただし、集客が苦戦するために目標人数設定は注意。
- ・開催数は3～5回。首都圏2開催、地方3開催程度。
- ・東京では複数開催の検討。

【処理業者の優良認定取得の促進に関する施策について】

- ・排出事業者・産廃処理業者へのメリット・インセンティブの設定
- ・排出事業者への優良認定制度の更なる認知度向上（新聞、CMなど）
- ・処理業者への登録率アップのための認知度向上、メリット訴求。
- ・地方での優良産廃処理業者認定制度活用のためのセミナーの開催

以 上

【別添資料】

資料 1. 講演資料（第 1 部・第 2 部）

資料 2. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧

資料 3. フォーラム・ワークショップ実施風景記録

資料 4. ワークショップアウトプット（グループ発表時資料のみ）

資料 5. 環境省ホームページ報道発表資料

資料 6. アンケート回答結果一覧

2017/01/26

廃棄物処理における戦略的連携と地域発展

北九州市立大学大学院マネジメント研究科
松永裕己
matsu@kitakyu-u.ac.jp

1

もくじ

廃棄物処理と地域

廃棄物の「地域循環圏」の必要性

企業の競争力とクラスター

連携や産業クラスターの重要性

廃棄物処理業と取引コスト

廃棄物処理業界の特殊性と変革のポイント

戦略的連携の必要性

生ゴミ処理を事例に考える

2

廃棄物処理と地域

廃棄物の「地域循環圏」の必要性

企業の競争力とクラスター

連携や産業クラスターの重要性

廃棄物処理業と取引コスト

廃棄物処理業界の特殊性と変革のポイント

戦略的連携の必要性

生ゴミ処理を事例に考える

3

廃棄物処理と地域

廃棄物処理の「地域循環圏」の方向性

1. 地域で循環可能な資源はなるべく地域で循環させる。

2. それが困難なものについては物質が循環する環を広域化させていく。

→ これにより、重層的な地域循環を構築していく。

出所) http://www.env.go.jp/recycle/circul/area_cases.html

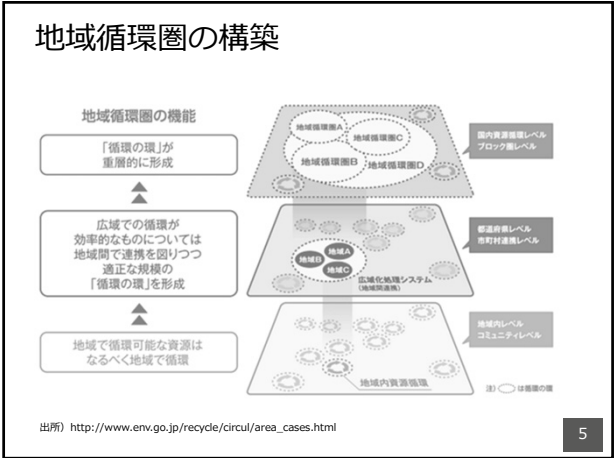
「地域循環圏」の背景と必要性

1. 市町村単位での廃棄物処理の継続困難性

2. 市場メカニズム活用の必要性

3. 効率的なリサイクル、廃棄物処理の必要性

4



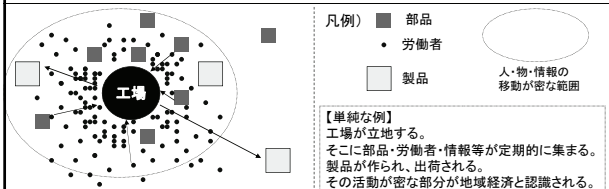
地域経済と経済圏の形成

産業と地域の関係

ストック：企業の立地や産業の集積
フロー：財の移動と経済圏の形成

⇒ 市場メカニズムの元で自生的に構築

廃棄物処理の世界では、なぜこれまで形成されにくかったのか？



廃棄物処理と
地域

廃棄物の「地域循環圏」の必要性

企業の競争力と
クラスター

連携や産業クラスターの重要性

廃棄物処理業と
取引コスト

廃棄物処理業界の特殊性と変革のポイント

戦略的連携の
必要性

生ゴミ処理を事例に考える

8

競争力の源泉としての産業クラスター



マイケル・ポーター (ハーバードビジネススクール)
出所) https://www.wikiwand.com/en/Michael_Porter

産業クラスターとは

特定分野における関連企業、専門性の高い供給業者、サービス提供者、関連業界に属する企業、関連機関などが地理的に集中し、競争しつつ、同時に協力している状態



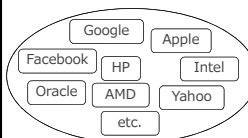
企業の競争力は企業内だけにあるのではない
企業の競争力にとっての立地の役割の重要性
集積のあり方が企業の競争力を左右する

9

産業クラスターの事例

シリコンバレー

- ・アメリカ サンフランシスコの南側
- ・ハイテクベンチャー企業の集積
- ・多くのグローバル企業を排出
- ・継続的なイノベーションの発生
- ・研究開発、イノベーションを重視
- ・大学からスピノフした企業も多い



サードイタリー

- ・イタリア中部 (エミリア=ロマーニャ州周辺)
- ・伝統工芸 (ローテク) が発達
- ・地場産業 (アパレル、履き物など)
- ・零細企業、家族経営が多数
- ・職人や企業の密なネットワーク
- ・多品種少量生産



出所) <http://www.mi.wvu.edu/WebBook/Dan-son/F8.gif>

10

クラスターはなぜ競争力を強化するか？

資本主義の変化

= 大量生産 → 多品種生産、安定した市場 → 移り気な市場

- ⇒ より迅速に市場ニーズに対応できるかどうかが鍵
- ⇒ 網羅的な設備の巨大な組織より、小回りのきく専門的企業が有利に

しかし... 専門的企業が単独で活動しても、効率的ではなく (コストの問題)、新たなビジネスチャンスもつかみにくい (新たなチャンス獲得の問題)

- ⇒ 克服するために、企業間のネットワークや連携が必要

しかし... ネットワークにはコストがかかる = 人・モノ・情報にアクセスする費用

- ⇒ 地理的に近接 (集積) することで、コストが小さくなり、革新のチャンスが広がる

11

クラスターと取引コスト

取引コストとは

市場での売買を成立させるために必要なコスト (商品価格以外)

- ・取引相手を見つけるためのコスト：探索コスト
- ・交渉や契約に要するコスト：交渉コスト
- ・契約を履行させるためのコスト：監督・強制コスト など



クラスター内では、取引コストは圧縮される



ところで、廃棄物処理業界では...？

12

廃棄物処理と地域	廃棄物の「地域循環圏」の必要性
企業の競争力とクラスター	連携や産業クラスターの重要性
廃棄物処理業と取引コスト	廃棄物処理業界の特殊性と変革のポイント
戦略的連携の必要性	生ゴミ処理を事例に考える

13

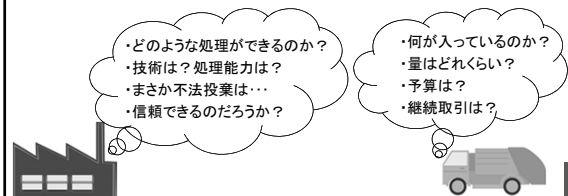
特殊な商品としての廃棄物とその取引

廃棄物取引の特殊性

- 有償・逆有償の線引きによる廃棄物認定
 - 法律や制度による取引の規制
 - 取引内容の非公開性
 - 価格表の作成の困難さ

➡

 - ・コード化されない情報
 - ・インフォーマルな情報が取引上で重要に…



廃棄物処理と取引コスト

廃棄物取引は、通常の商品と比べて取引コストが大きい傾向

- 取引相手を見つけるためのコスト：探索コスト
- 交渉や契約に要するコスト：交渉コスト
- 契約を履行させるためのコスト：監督・強制コスト

大



イメージ図

通常の商品	本体価格	取引コスト
	トータルコスト（販売価格）	

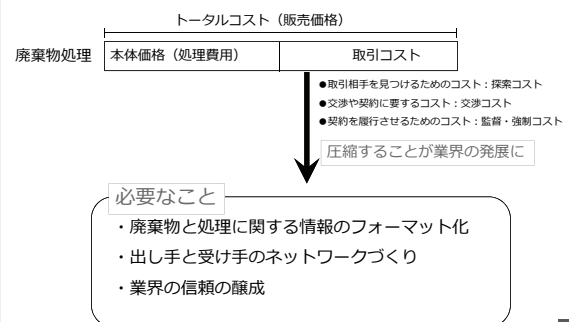
廃棄物処理	本体価格（処理費用）	取引コスト
	トータルコスト（販売価格）	

- ・ 非市場的慣行
- ・ コネクション

の重視？

15

取引コストをいかに圧縮するか



16

取引コスト圧縮の手段としての「優良さんぱいナビ」

[illegible]

廃棄物処理と 地域	廃棄物の「地域循環圏」の必要性
企業の競争力と クラスター	連携や産業クラスターの重要性
廃棄物処理業と 取引コスト	廃棄物処理業界の特殊性と変革のポイント
戦略的連携の 必要性	生ゴミ処理を事例に考える

18

生ごみ処理機はなぜ売れないのか？

乱立する生ごみ処理機メーカー

食品リサイクル法の施行（2000年）

※製造業者、卸売り・小売り業者、飲食店などに排出抑制やリサイクル義務化

→生ごみ処理ビジネス拡大のチャンス

→多くの生ごみ処理機メーカーの設立、参入



ところが、売れない・・・撤退、廃業するメーカーも

なぜ売れない？

19

生ごみ処理機はなぜ売れないのか？

販売が伸びない要因？

- ・運転、メンテナンスの困難性
- ・分散型排出への対応性
- ・一定規模の生ごみを回収することの困難性
- ・地域の実情とのマッチングの困難性
- ・季節性への対応
- ・処理（リサイクル）した堆肥の販路確保の困難性
- ・e t c

20

生ごみ処理機はなぜ売れないのか？

なぜ生ごみ処理機は売れないのか？

生ごみ処理のニーズがないのか？

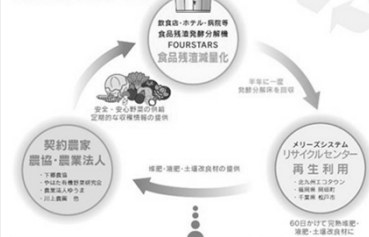
生ごみ処理のニーズとは何なのか？

21

楽しい（株）による生ごみリサイクル

メリーズシステムの食品残渣のリサイクルループ

都市部と農村部を繋ぎ、安心して参加できるリサイクルループです。



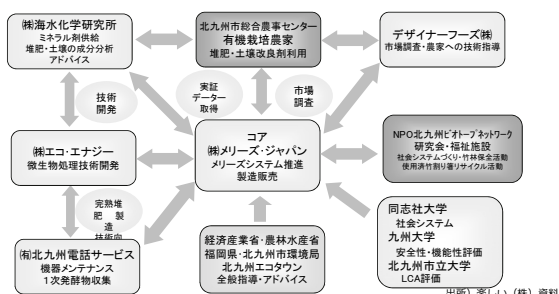
出所) 楽しい（株）ホームページ

【クローズドモデルの構築】

生ゴミ処理機の販売から、リース方式へ
製造される堆肥は引き取り二次加工して製品化
堆肥の引き受け手確保と契約野菜の安定提供
循環をつくることの重要性
主体間の連携を重視

22

楽しい（株）による産学官民連携



出所) 楽しい（株）資料

連携拡大と循環圏構築が競争力につながる

23

まとめ

- 企業の競争力は企業内にだけ存在するのではない。
- 競争力の源泉としてのクラスターの重要性が増している。
- 廃棄物処理業界においては高い取引コストの圧縮が課題。
- 今後の廃棄物処理においては「地域」が重要であり、クラスター形成と循環圏形成を一体的に進めていく必要がある。

廃棄物処理業は主体を繋ぐシステムメーカーを目指すべき

24

～循環型地域社会の発展に向けて～
～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか?～

アサヒ飲料の取り組み事例

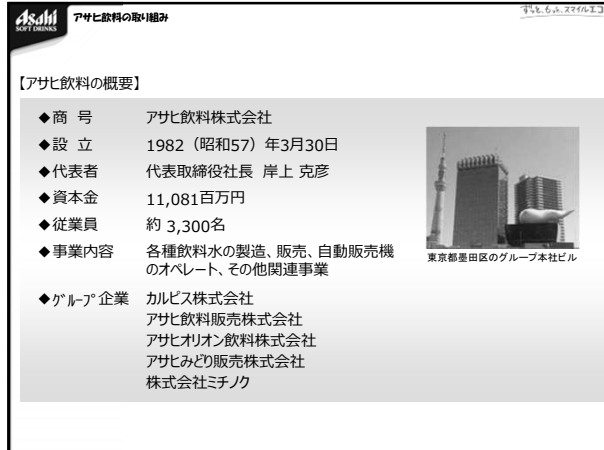
2016年 1月26日(木)
アサヒ飲料株式会社
品質保証部 環境グループ



アサヒ飲料の取り組み

【アサヒ飲料の概要】

- ◆商号 アサヒ飲料株式会社
- ◆設立 1982(昭和57)年3月30日
- ◆代表者 代表取締役社長 岸上 克彦
- ◆資本金 11,081百万円
- ◆従業員 約 3,300名
- ◆事業内容 各種飲料水の製造、販売、自動販売機のオペレート、その他関連事業
- ◆グループ企業 カルピス株式会社
アサヒ飲料販売株式会社
アサヒオリオン飲料株式会社
アサヒみどり販売株式会社
株式会社ミチノク



アサヒ飲料の取り組み

【アサヒ飲料の沿革】



【ロングセラーブランド】



アサヒ飲料の取り組み

アサヒグループ 環境ビジョン 2020 ～自然の恵みを明日へ～

アサヒグループは、水や穀物など、自然の恵みを用いて事業活動を行なっています。地球環境や人間社会が持続可能なものであつてはじめて、私たちは、お客様に、安全・安心な製品をお届けすることができます。

現在、地球環境の変化は、あらゆる企業や生活者に早急かつ具体的な対応を求めています。私たち人間が、地球環境と共生していく社会を形成することは、人類共通の使命でもあります。

<4つのテーマ>

アサヒグループは、下記の4つのテーマを柱として、環境の課題に対して積極的に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献して参ります。

- CO₂を減らそう (低炭素社会の構築)
- 資源を循環させよう (循環型社会の構築)
- 自然の恵みを守ろう (生物多様性の保全)
- 自然の恵みの大切さを伝えよう (自然の恵みの啓発)



アサヒ飲料の取り組み

資源を循環させよう! (循環型社会の構築)

～富士山工場「十六茶」粕を乳牛用の混合飼料に～

【飼料自給率の向上につながる茶粕の再生利用】

社会的な課題 日本の茶葉原料の自給率は約20%に過ぎず、大半を輸入に頼っている状況で、飼料の材料となるトモロコシなどは、バイオエタノールなどの利用により輸入量を増やすことが難しく、代替資源の少なさが課題となっている。

飼料化への道のり 飼料化の担当者の声

「十六茶」粕の分別や鮮度を保つて保管すること、また、安定供給の確保から一時は飼料化を断念しましたが、保管方法の工夫や改善を加え、2010年頃から本格的に供給を開始。

飼料原料として使用するには「鮮度」が非常に重要となるため飼料原料としての品質管理体制を確立することが大変でした。

＜＜十六茶粕 飼料化のメリット＞＞

- 嗜好性が高い 穀物系の原料であるため嗜好性が高い
- 工場での製造割合が最も大きい 製品の中で、約60%が十六茶製品
- 安定したニーズがある 「牛の食料」となるため常に安定したニーズがある。
- コストダウンに繋がる 産業廃棄物の処理コストダウンに繋がった
- 飼料会社にもコストメリットがある 粗飼料に茶粕を使用することにより他の高価な飼料(主に輸入大豆)の配合量を減らすことができる。

【十六茶の茶粕は牛の飼料に最適】

十六茶粕と牛の飼料を比較すると、口をつけるかどうかを調査し、結果は採食率が約70%で、高い嗜好結果となった。

十六茶と同じ穀物系原料の麦茶は季節的な商品であり、茶粕の発生量が少ない欠点があるが、十六茶は年間を通して製造するため、安定的な供給が比較的容易。また、葉茶原料の緑茶・烏龍茶よりも嗜好性が高い。



アサヒ飲料の取り組み

資源を循環させよう! (循環型社会の構築)

～富士山工場「六条麦茶」粕汁を養豚飼料原料に～

【より高いレベルの排出物再資源化へ】

従来の処理 六条麦茶の粕汁を養豚飼料原料として活用を開始。

食品副産物としての活用 六条麦茶の粕汁を養豚飼料原料として活用を開始。

【六条麦茶】の液の養豚用飼料化の流れ

【持続可能な社会へ向け】

再資源化の進化 アサヒグループが環境ビジョンに掲げている「循環型社会の構築」の実践として、産業廃棄物の「再資源化100%」だけでなく、より価値の高い再資源化の用途を選択していく段階。

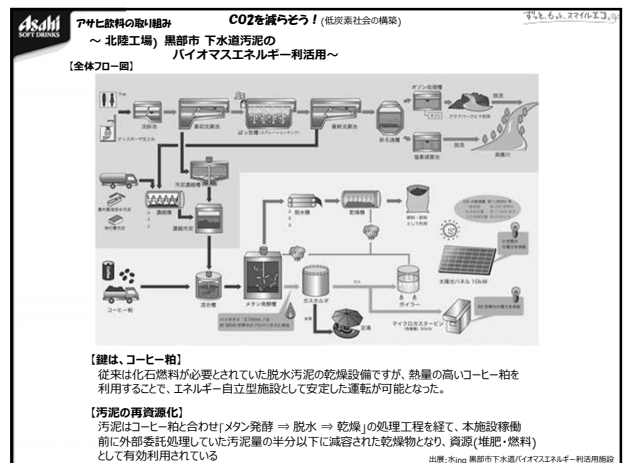
循環型地域社会の発展 排出事業者と処理業者の連携が不可欠。地域社会を含めた「三方よし」の発想で、価値の高い取り組みを実践していきたい。

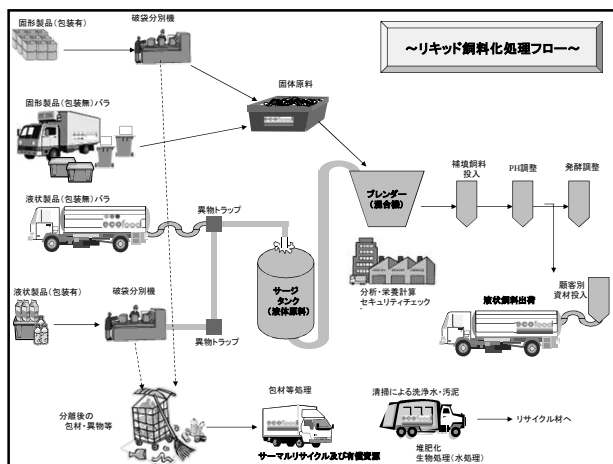
＜飼料化プロセス＞

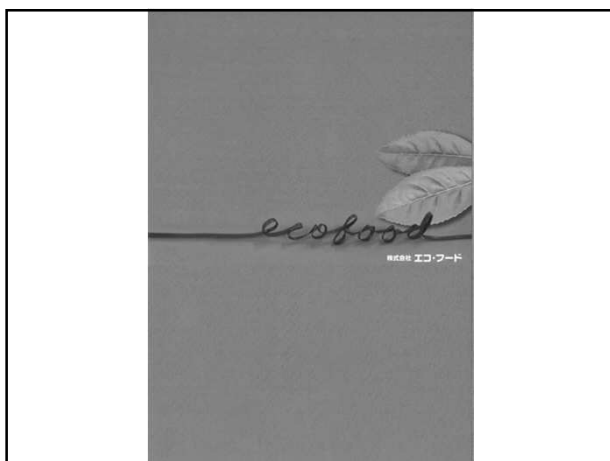
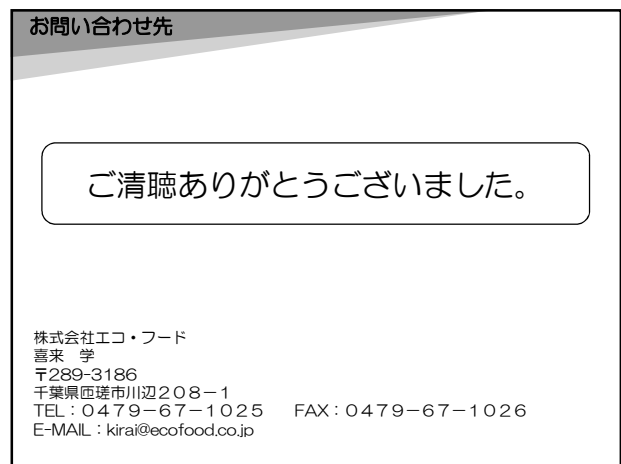
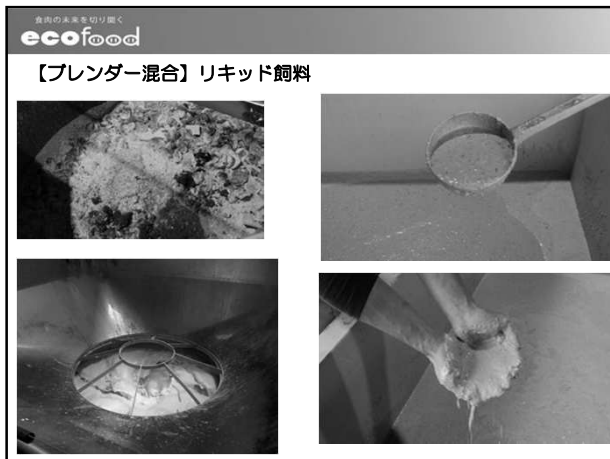
【固形】食品残渣 仕分け 粉砕・混合 発酵 飼料として搬出

【液体】食品残渣(麦茶粕汁 ほか) 仕分け 粉砕・混合 発酵 飼料として搬出











PD フライムデリカ

循環型地域社会の発展に向けて
～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか?～

【排出事業者と処理業者の連携事例紹介】

**食品工場から排出される廃棄物の
リサイクルループ活動**

2017年2月7日
フライムデリカ株式会社 環境部 片田康介

PD フライムデリカ

会社概要

社 名 : フライムデリカ株式会社

創 業 : 1986年 10月1日

代 表 者 : 代表取締役社長 齊藤正義

資 本 金 : 6億円

本 社 : 神奈川県相模原市南区麻溝台1-7-1

事業内容 : コンビニエンス向け調理パン、デザート、
サラダ、軽食、惣菜の製造販売

Fresh is Good Taste

PD フライムデリカ

生産アイテム

調理パン

デザート

サラダ

惣菜

軽食

PD フライムデリカ

ネットワーク

本社・相模原工場

相模原第二工場

龍ヶ崎工場

宗像工場

佐賀工場

宮崎工場

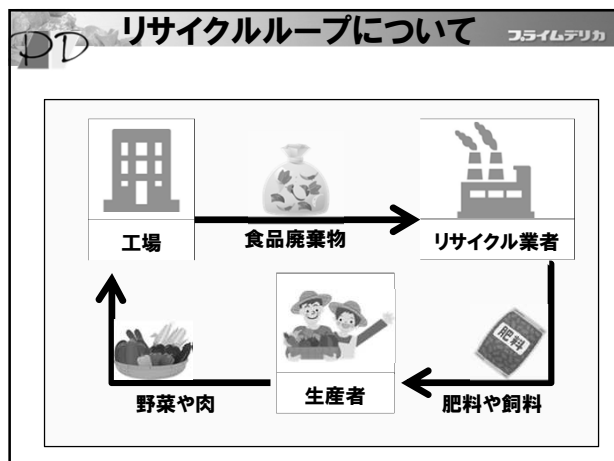
新居浜工場

宝塚工場

校方工場

豊田第一工場

豊田第二工場



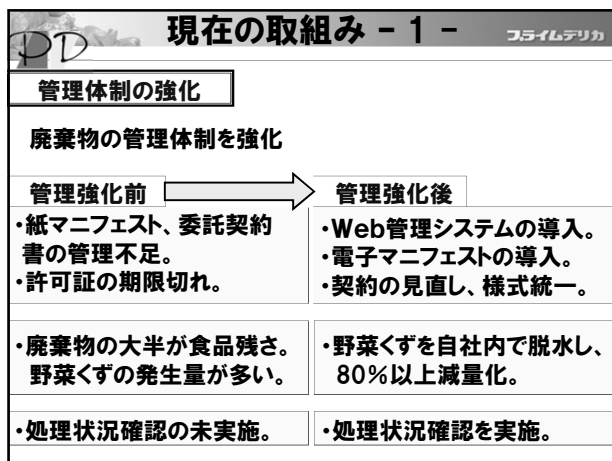
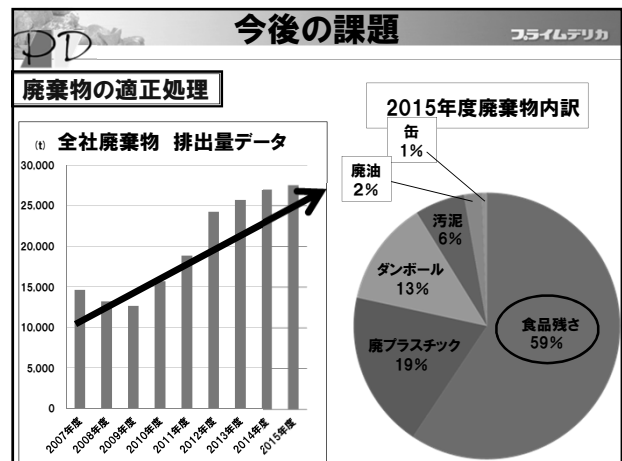
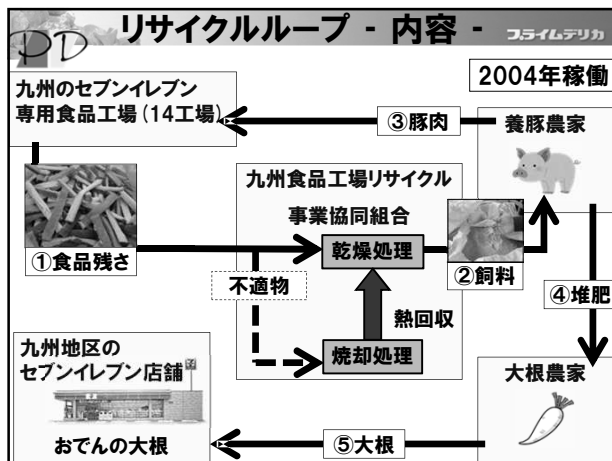
PD フライムデリカ

リサイクルループ - 経緯 -

- セブンイレブン様
 - ・1990年代から食品残さのリサイクルを推進。
 - ・工場から出る食品残さを利用したリサイクル事業を検討。
- フライムデリカ
 - ・食品残さを今まで焼却処分していたが、1998年、発酵乾燥機を龍ヶ崎工場に導入し、飼料化を開始。
 - ・2000年、食品リサイクル法が制定、食品残さの再生利用が義務化。

2002年 九州食品工場リサイクル事業協同組合の設立へ

龍ヶ崎工場 乾燥発酵機



これからも「近くて便利」を支える
デリーメーカーとして邁進いたします。

ご清聴ありがとうございました。

株式会社大島産業

フライムデリカ株式会社

株式会社 大島産業

地域循環・活性化を目指して

株式会社大島産業 代表取締役 大島 権人

株式会社 大島産業

1-1 会社概要

株式会社大島産業

- 代表取締役社長：大島 権人
- 会社設立：昭和50年1月27日
- 資本金：2000万円
- 所在地：
 - 本社 / 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田2133番地口第1
 - 福岡支店 / 福岡県福岡市中央区今泉1丁目16番地4
 - 吉野ヶ里工場 / 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田2461番地1
 - 循環工場 (リサイクル工場) / 佐賀県神埼郡神埼町服部2133番地1
 - 玖珠堆肥工場 / 大分県玖珠郡玖珠町大字戸畑9839-3
- 大島産業グループ：
 - 都市環境株式会社・九州食品工場リサイクル事業協同組合
 - ウイズ・アース株式会社・(有)西部広域環境事業協同組合

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.

株式会社 大島産業

1-2 会社概要

一般廃棄物収集運搬処分業務

吉野ヶ里町、みやき町、上峰町
神埼市、佐賀市一部の一般廃棄物業務

産業廃棄物収集運搬処分業務

全品目収集運搬処分許可有！

株式会社 大島産業

1-2 会社概要 沿革

1976年3月	先代会長 大島 博が三田川町にて三田川レンタカーを創業	1989年	大型焼却炉開設
1973年	現住所に移転 三田川町より	1990年	役員改正
1974年	一般廃棄物の運搬処理の委託を受ける	1996年	汚泥焼却炉（ロータリーキルン式）2基新設
1975年	佐賀県産業廃棄物処理業の許可取得	2001年11月	平成14年度排ガス対応全自動大型焼却炉新設
1977年4月	事業の充実、拡大を計り会社設立	2002年	九州食品工場リサイクル事業協同組合設立
1977年～	近隣4ヶ町村の一般廃棄物の委託業務許可受理	ISO14001取得（収集運搬・中間処理・最終処分）	九州食品工場リサイクル事業協同組合設立
1981年4月	産業廃棄物の中間処理施設（破砕・選別・焼却・圧縮・乾燥）	2004年	排熱ボイラー（サーマルリサイクル）開設
1985年4月	九州各県産業廃棄物処理業許可受理	2011年6月	レアメタル事業開始
1986年4月	管理型最終処分場開設	2012年5月	役員改正
1987年7月	背振中間処理場開設	2013年7月	自家発電（火力発電式）設備開設
1987年7月	鹿耳島営業所開設	10月	エコアクション21 認証登録（認証・登録番号0009583）
1987年7月	リサイクルプラント開設	2014年10月	優良産業廃棄物処理業者認定取得（許可番号：第04141007703）
		2015年	大分県玖珠町でウエストファームを買収し堆肥工場を開設
		2016年4月	役員改正 社長 大島権人 就任

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.

株式会社 大島産業

1-3 会社概要 特徴

自社収集運搬

不法投棄のリスクがない自社完結型のシステム

焼却炉の熱エネルギーの利用

食品リサイクル対応のカスケードリサイクル

ゼロエミッション対応

感染性廃棄物・PCB廃棄物対応

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.

株式会社 大島産業

3-1 苦労した点 BSE問題の影響

BSEの影響で、当時エコフィードを使用する農家が少なかった！

BSE問題によるエコフィードへの不安

肉骨粉等にレンダリング

・肉骨粉等
・レンダリング施設
・飼料製造過程
・流通
・農家の自家配合時

エコフィード製造後の出先の問題

・養鶏残渣
・糞尿・残飯
・交差感染

再度飼料等として牛へ

豚・鶏が消費

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.

3-2 苦労した点 設立に至るまでの調整

工場側：当初反対者が多かった！

- ①食品残渣が飼料として流通できるか
- ②飼料化を進めるために現状よりも廃棄物の処理費用が高くなる
- ③食品リサイクル法の施行には数年の時間的猶予がある

1回/2ヶ月の勉強会の実施や実務の検討
設立に至るまでの各社の調整

養豚家：懸念材料が多く慎重だった！

- ①生産された肉がどのような市場評価をうけるか
- ②配合飼料を購入している養豚会社が多く、自家配合には消極的
- ③風評が出た場合に十分な理解がしてもらえるか

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.

4-1 現在の状況 各社からの引き合い

九州食品工場リサイクル事業協同組合

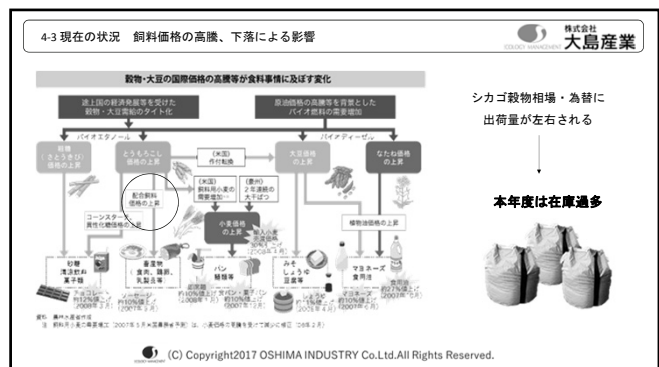
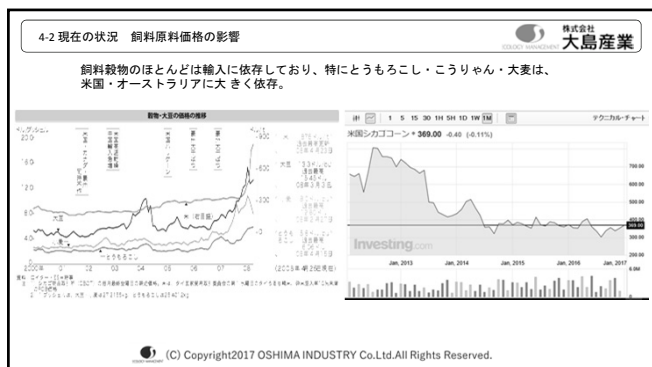
隣接する大島産業の焼却炉の熱エネルギーを利用し乾燥飼料化、食品循環のシステム化

- 再生利用事業登録
- 創立：平成14年4月
- 処理量：20t/日
- 製品量：7t
- 設備：真空乾燥機プラント/気流乾燥機プラント

排出事業者
食品廃棄物の飼料化
カスケードリサイクル
(飼料化不適残渣のサマルリサイクル)

引き合い多数
養豚業者
宮崎県から佐賀県まで約10農場に出荷

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.



4-4 地域貢献

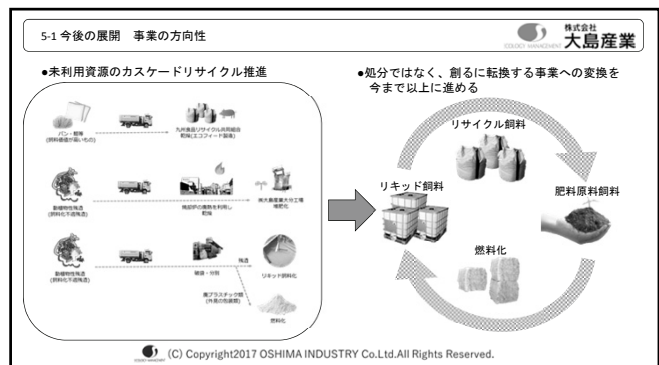
針葉樹が多い背振の山に、もっと深く根を張り四季の変化を楽しむ豊かな樹々をーという思いから、工場周辺のエリアを少しずつ開拓し、広葉樹や落葉樹、果実樹などの植林活動を行っています。

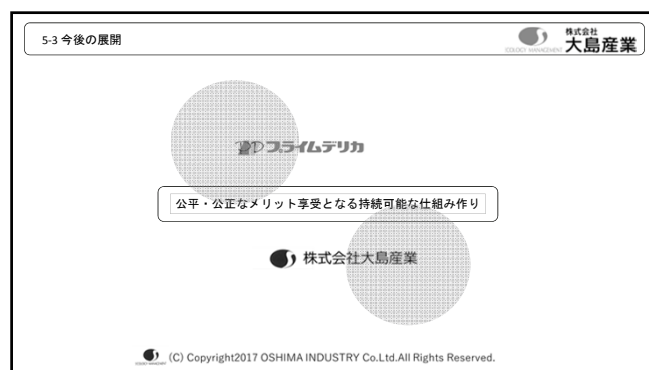
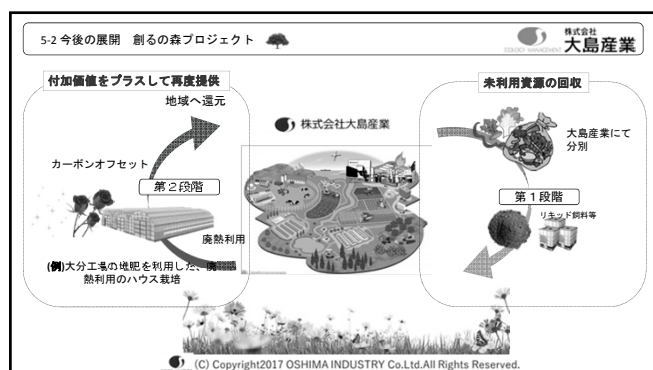
50年、100年後の背振の美しい景色を想像しながら、小さな苗木一本一本を大事に育てています。

産業廃棄物処理場の開設にあたっては、周辺住民の方々のお話を聞きながら進めました。その家畜が工場の外周にある石垣です。自然に配慮し、緩和するプラントを目指し、石垣を壊って外周を築く計画を立てました。背振山には石垣となる大きな石がないため、遠方から少しずつ集め、40数年経った現在、石垣は施設一帯を囲うまで積み上がりました。

「工場が安定して稼働できる」この感謝は、背振の自然だけではなく、近隣エリアに暮らす人、つまり地域の皆様へも同じです。その気持ちを表しているのが、地域の方々の雇用です。希望される方々に、リサイクル工程で必要となる作業の一端をお手伝いしていただいています。今後も、工場はわきあいあい地域の皆様のパワーによって稼働しています。

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.





ご清聴ありがとうございました。

(C) Copyright2017 OSHIMA INDUSTRY Co.Ltd.All Rights Reserved.

資料2. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧(東京会場)

グループ名	ファシリテーター	区分	業種	業務内容(担当業務)	◀資源の循環・有効利用に関して> これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください。	◀日頃の廃棄物管理(処理)業務に関して> 排出事業者／処理業者とのやり取りで困ったことがあればご記入ください。	◀資源の循環・有効利用に関して> 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください。	本イベントに期待することはありますか？	備考			
A	アマタ株式会社 渥美	排出	鉄道業、不動産賃貸業	本社ビルにおけるエネルギー、廃棄物管理	処理業者に紙問屋の紹介を受け、シュレッダーごみを含むすべての紙を有償引渡ししている。	困らない業者さんしか付き合わないようになっているのでNoProblemだが、そうでない普通の業者さんは困ったちゃんが多い。	紙以外で、金属等の有償引渡し	意識・レベルの高い方々との交流				
			製造業	ポリマー・塗加工関連事業、色材・機能材関連事業								
			衛生検査業務(地方自治体)	食品・水質・臨床検体等の検査	特になし	特になし	一般廃棄物と産業廃棄物の区別、産業廃棄物の分類が複雑であり、それに対応するために必要以上の手間・コストがかかっている。結果として資源削減・保護の逆行になりかねない。	処理業者の立場から、排出事業者に望むことはどのようなことが、を知りたい				
			製菓業	製菓			社内(特に上司)への啓蒙、社員にいるマナー委員との連携					
		処理	廃棄物処理業	『正々堂々』とコンプライに厳格な廃棄物処理を行います。	あまりない。	排出事業者が廃棄物管理会社にすべてを任せ、協議に出ないケースが多くなってきています。	排出事業者と協業できる資源循環システムを構築したい。	廃棄物処理に関する排出事業者の思いを知りたい。				
			産業廃棄物処理業									
			産業廃棄物処理業									
B	アマタ株式会社 田部井	排出	印刷業		ゼロエミッションの取り組み				欠席			
			小売業	オフィス向け通販、個人様向け通販					欠席			
			玩具メーカー					他社で同様な業務に携わっておられる皆様の考えの共有				
			日用雑貨品製造業			処理業者と連絡がなかなか取れないレスポンスが遅い		他社の動向などの情報収集				
			小売業	家具の販売			処理業者での業務効率化にともなう労働時間の削減など	持続可能な社会に向けて排出事業者としての先進事例を知りたい				
			処理	産業廃棄物処理業	化学系廃棄物処理	試験・研修施設から発生する化学系廃棄物の安全な適正処理に向けた取り組み	①廃棄物情報の不備、②不適切な廃棄物の荷姿・表示、③価格>安全の要望	資源循環のベースとなる「衛生環境、環境保全、安全環境」の保障	排出者の皆さんとの共通認識の模索	欠席		
		産業廃棄物処理業		廃棄物収集運搬処分、資源物の再生処理を行っています	行政団体と、国際交流(施設見学)を行いました。(主に資源物再生)	基本的に価格が先行してしまい、廃掃法の認識についても温度差があること	排出事業者様、処理業者が協力し合い、廃棄物処理を通じて人材の育成や地域への活性化に努めていきたい	排出事業者様と廃棄物処理への関心や認識の向上についての意見交換、同業者を含み他地域での取り組み事例、総括して今後、処理業としてどう営業していくか、また、どう行政と連携していくべきか等を勉強したい				
		産業廃棄物処理仲介業		産業廃棄物処理に関する情報提供及び処理の仲介、管理	廃棄食品のリサイクル	契約手続きに時間がかかる	如何に排出事業者に処理のクオリティ面を評価してもらえるか	排出事業者の産業処理ニーズを把握すること				
		溶剤再生業、産業廃棄物処理業		溶剤リサイクルを50年以上手掛けております。代替フロソ等のご提案実績も多数ございます。	お客様の低温テストに弊社の再生溶剤をお使いいただき、お客様のコスト低減等に役立っている。	知らされていない危険不純物の混入	リサイクル技術の検討、研究	リサイクルを目的とした双方の情報や意見交換				
		C		アマタ株式会社 小峯	排出	医療サービス	臨床検査事業、医療サービス					
						商社	鉄鋼商社					
			通信業			コンプライアンス						
小売業(コンビニエンスストア)	コンプライアンス遵守、CSR推進、企業リスク低減		加盟店へのエコ物流システムの推奨				廃棄物処理状況の確認について	リサイクルに関する物流の情報収集				
飲料料品系の卸売業	国分グループの環境担当。廃物契分野では契約調整、契約書確認等の管理		食品リサイクル対応の処分契約の推進と分別作業の取り組み				卸売業から排出される食品類は、加工食品が主であり、リサイクルでは嫌われ者	よい業者さんを知り合い、新たな優良業者さんとの取引の可能性を見出すため				
処理	産業廃棄物収集運搬・処理業		安全・安心・確実な廃棄物リサイクル及び処理をグループ全体で行っている会社です。			電機メーカーと連携して家電リサイクル処理事業を立ち上げた。	産業廃棄物用のコンテナに一般廃棄物(弁当ガラ等)が混じっている。	マテリアルリサイクルしずらい廃棄物をグリーンエネルギー(電気・ガス等)に変える処理施設が主流になるような社会づくりに貢献したい。	排出者が産業廃棄物業者に期待することをお教えいただきたい。			
	資源リサイクル・リユース&環境コンサルティング	資源のリサイクル・リユース、製鋼原料・非鉄貴金属原料の売買、資源循環・リサイクルに関する環境コンサルティング等	複写機メーカーとの協働(パーツのリユースとリサイクル処理の実現)	法的要求事項・解釈の相違	動脈産業がゼロエミッションの資源循環を意識した排出を行うことで、より効率的なりサイクル促進が実現でき、温暖化削減にも貢献できる	優良認定事業者のインセンティブ						
	産業廃棄物処理業	質で日本一を目指します。	ピンカン処理、ライター処理を行政連携にて対応	リサイクルに向かない分別、料金体系	廃棄物・資源に対する適正処理とその処理費用水準	処理業者がその地域における存在意義をどのように表現しているか						
	産業廃棄物・汚染土壌処理業	現在、大田区城南島東京スーパエコタウン内に、工場建設中です。本年6月稼働開始予定です。産業廃棄物・汚染土壌処理業の許可を取得し、発展を目指します。										
	D	アマタ株式会社 高橋	排出	食品製造業	資源循環の活用等、情報を得る為	食品残渣の飼料化、廃棄物を有価物化する	継続的取り組み、	運搬の課題、廃掃法	事例紹介、野菜のサイレージ等			
				医薬品製造販売	医薬品製造販売業	処理業者の廃掃法知識が低いので教育を促している。	収集運搬会社の事故時の散乱した廃棄物の対応訓練などが出来ていない。		現場の実務に関する問題発生履歴を写真などで紹介してほしい。	欠席		
飲食									欠席			
電子機器卸売				排出物管理								
飲食業				廃棄物処理の管理	なし	マニフェストがない	有価物を有効利用する為に分別実施をどこまで行えるか	廃棄物処理法についての知識習得				
処理				使用済み家電処理	使用済み家電、小型家電および一般廃棄物から産業廃棄物の解体破砕処理をしています。	地元自治体の不燃ごみからの有価物回収試験	廃棄物への危険物や異物の混入	ごみの減量・資源化	処理業者としての地域貢献の在り方の先進例をお聞きしたい。			
	産業廃棄物処理業	再生資源循環に向けて成長する企業を目指します。				今後の経営にヒントにしたい。						
	産業廃棄物処理業	木くずの処理を行っています	能登空港建設工事で木くずリサイクル	特にございません	適正処理と有効利用	学び						

資料2. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧(東京会場)

E	産業廃棄物処理 事業振興財団 改田	排出						
			サービス業	社員食堂、病院、社会福祉施設等のフードサービス運営	廃油、食品残渣、紙等のリサイクル	地方の優良な業者さんの検索	食品リサイクル法に則った廃棄物削減	優良処理業者の情報
			情報通信工事業	建設系廃棄物管理担当者	全国拠点から排出される廃棄物の一元管理化		廃棄物に関する各種リサイクル法対応	廃棄物を取り巻く情勢等に関する情報収集
			金融(クレジットカード)	クレジットカード事業を通じた金融サービス業務	なし	特になし		資源循環・有効利用に関する理解
		処理	建設業	品質環境管理			混合廃棄物の削減	新たなアイデアや考え方の把握
			産業廃棄物処理業者	一般廃棄物処理業者		事業系不燃ゴミやPETボトルの処理にマニフェスト交付が必要な事を分かって頂けない		
			産業廃棄物処理業	スクラップ買取、産業廃棄物収集運搬・処分、各種リサイクル、エネルギーソリューション				排出事業者様と交流し、処理業者に望む事など、意見交換出来れば。
			建設業、産業廃棄物収集運搬業	PCB収集運搬業、スクラップ類の放射能除染、食品リサイクル装置開発	放射能汚染スクラップの除染技術の開発			
			産業廃棄物収集運搬・処分業	全国の産業廃棄物の収集運搬及び産業廃棄物の処理・リサイクル		排出事業者様の中には産業廃棄物に対する意識が希薄であり、必要書類についての対応が急い業者様も存在する	資源化率の向上を現在進行形で進めております。	新しい見識、観点を得ること
F	アマタ株式会社 鈴木	排出	食品製造業			最終処分場も含めた許可書の更新申請書の送付がタイムリーにない。		
			建設業	産廃管理業務	3Rの徹底を図りたい	処分業者の立場や状況がわからない	再利用上のコスト	処分業者の本音部分が聞きたい
			食品製造業	グループ全体の廃棄物管理、教育、ルール作成等		①行政の指導により、廃棄物の一部を産廃から一廃に変更したかったが、「行政が受け入れるはずがない」として契約変更を承諾いただけなかった。②該当物質が高い濃度で含有されるため特管有害で委託したかったが、あくまで特管でしかお受けいただけなかった。(該当物質の許可有。仕方なく、他の業者に委託した。)		処理業者さんの本音をお聞きしたいです。複数の処理業者さんを見学させていただき、適正な処理は一緒に作り上げていくのだということが身に染みました。
			建設業	建設現場から排出される廃棄物の適正処理指導、委託処理業者の選定				
		処理	産業廃棄物処理業	感染性廃棄物、低濃度PCB廃棄物の焼却処理を行っています。	「汚泥の焼却を依頼したい」と話があったが、よく聞くと、工業薬品レベルの純度であった。結局うまくいかなかったが、「この純度なら、原料として製造業者に販売する手もあるのでは」と提案した。	医薬品メーカーから、各種の産業医薬品の処理を依頼される。多品種であるので、ヒット投入可能なのか、特別な作業が必要なのか、の仕分け判断が難しい。専門知識が必要であり、かつ少量多品種であるため。ただし、ほとんどは全く問題ないものばかりである。	食品残渣廃棄物は、焼却でなく、バイオガス化などの有効利用したい。ただしそのためには、もう1施設の新設が必要となるが。	昨年も参加させて頂いた。「処理業者が真に欲しい情報」は、排出者の観点からは理解しにくい。そして処理業者側の説明も上手くない。両者がより「近づける」ような議論をしたい。
			産業廃棄物処理業	私たちは、皆様のよりよい環境づくりに信念を持って応え続ける環境サービス企業です。	特別管理産業廃棄物(感染性廃棄物)の再資源化(土木資材原料)システム	不具合物の混入事案等(一例)非感染性廃棄物の中に感染性廃棄物が混入されている	廃棄物を産廃物で終わらせないリサイクルシステムの構築等	排出事業者様や処理業者の循環型社会構築に向けた意識、取り組みや問題等
			産業廃棄物処理業					同業者様の取り組みについて
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物中間処理業、RPF製造業		廃棄物の中に危険物を入れておりそれが原因で破砕機から小火が生じる		同業との情報交換
G	産業廃棄物処理 事業振興財団 柴崎	排出	通信業	公共通信工事関連		産廃処理委託業者を探しています		
			通信関連販売業			産業廃棄物を排出するにあたり、コスト重視で安価に処理していた年代もありましたが、安価に処理できる業者ほど適切に処理した証拠を紙面によって残せない事がありました。排出事業者は廃棄物が最後まで適切に処理が行われているのか、万が一不法投棄されていないかを最後まで確認する事で社会的企業責任を果たせるのだと思います。	地方自治体によって資源の循環・有効利用の方法が統一されてないと感じています。他企業からも画期的な資源の有効利用方法を学びたいと思います。	日本国としての産業廃棄物処理の最先端事情を学びたいと思います。
			建設業	電気工事業・電気通信工事業	なし	なし		
			情報通信技術サービス業	ITシステムのライフサイクル全領域をカバーするワンストップサービスを提供しています。	2015年に日立グループで広域認定を取得し使用済みIT機器回収の受諾を推進しています。	2016年度グループ会社含めて一斉に電子マニフェストに切り替えた。運用面で効率化が図れたが課題もある。	委託先を優良認定業者でかつ再資源化に積極的な企業に絞り資源循環と順法リスク低減を継続的推進して行きたい。	排出事業者や処理業者の皆様とディスカッションすることで学びたい。
			環境コンサルタント					
		処理	産業廃棄物処理業	適正、的確な処理を行うのは当たり前、3Rを事を挙げるのがこれから。	古い言葉ですが、混ぜればゴミ、分ければ資源	分ける手間、時間、費用が障害に、更には、分解できないように作ってあること。	廃棄物を生まないような製品の開発	勉強させて頂きます
			産業廃棄物処理業	食品リサイクル業	廃棄物の有効活用で養魚飼料製造に取組み愛知県の循環型社会形成推進事業費補助金を受けました。	食品の中に異物が多く混入していること、(主に手袋やフィルム、ラップ等)ダイコーの事件以降包装の食品処分依頼が多くなるようになったが紙箱入り製品の扱いで廃対策から注意を受けた	バイオマス燃料への利活用、食品由来の廃棄物の更なる利活用	産廃優良事業者への取組の意義
			産業廃棄物処理業	静岡県浜松市に本社を構え、廃棄物処理の中でも水処理・焼却・埋立処分を行っています。	清掃作業等	排出事業者名を名乗っていただけないことがあった(匿名での処理を希望されていた)	最終処分の必要性	

資料2. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧(福岡会場)

グループ名	ファシリテーター	区分	業種	業務内容(担当業務)	＜資源の循環・有効利用に関して＞ これまでに自社で排出事業者／処理業者等と連携・協働して実施した取組み事例があればご記入ください。	＜日頃の廃棄物管理(処理)業務に関して＞ 排出事業者／処理業者とのやり取りで困ったことがあればご記入ください。	＜資源の循環・有効利用に関して＞ 現在の課題意識や今後取組みたいテーマについてご記入ください。	本イベントに期待することはありますか？	備考
A	アマタ株式会社 宮内	排出	総合建設業	廃棄物処理管理	建設混合廃棄物のゼロエミッションの取組	搬出予定日が当日に変更されてしまう	すべての工事においてゼロエミッションを達成したい(費用の確保)	処分業者が抱える問題点の確認	
			石炭製品製造業	廃棄物管理					
			電気業						
		処理	表面処理業						
			廃棄物収集運搬業、ビルメンテナンス業	北九州において、ビルメンテナンスを中心に事業系一廃・産廃の収集運搬業を行っております。管理者・処理業者双方の立場から最適なご提案をいたします。	社内で古紙回収を行って、売却金額を被災地や海外の図書支援団体へ寄付する活動に取り組んでいます。	契約、manifestoの意義を理解していただかず、適当に面倒でない処理を望まれることがあり、対処に困る時がある。	社内・従業員でのゼロエミや事業を通じたCSR活動	様々な立場からのご意見をいただき、今後の資源循環、有効利用についての新たな展開につながるようなイベント。	
			産業廃棄物処理業	「完全リサイクル・資源再生利用」「ゼロエミッション」を確立した産業廃棄物処理会社です。	特にありません。	排出元との詳細共有が足りずに、処理対象以外の廃棄物が一緒に持込まれてしまう。	水銀排出規制、処理について。	排出元がどのようなことに困っているのか。	
			サービス業	貴金属・希少金属(レアメタル)リサイクル、産業廃棄物処理業	廃棄物から資源回収(ニッケル他回収)		・回収エリア ・排出事業者との連携 ・同業者との連携	排出事業者および処理業者様との情報交換	
			産業廃棄物処理業	福岡県北九州市で創業40年を迎える廃棄物処理のバイオニアとして、廃棄物事業、リサイクル事業、化学洗浄事業、環境コンサル事業を柱に事業を展開しています。					
B	産業廃棄物処理事業振興財団 改田 アマタ株式会社 中村(二)	排出	金属製品製造業				資源の再利用と排出量削減	他企業がどのような取り組みを行っているのか	
			金属機械製造業						
			表面処理業						
		処理	無機化学工業製品製造業	産業廃棄物の管理、処理業者選定、依頼等の業務	産業廃棄物の有効利用業者への移行等(処理業者の選定のみ)	廃棄物収集における引取り頻度(追いつかない)年末年始の対応	社員への分別意識向上。有価物として排出。	リサイクルあるいは有価物対応業者を探索	
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物処理全般、一般廃棄物処理、固形燃料(RPF)製造				排出事業者の方々の意見を広く聞きたい。	
			設備建設業	汚染土壌処理		分別土壌からの産物選別仕訳		知識情報	
			産業廃棄物処理業	福岡県北九州市で創業40年を迎える廃棄物処理のバイオニアとして、廃棄物事業、リサイクル事業、化学洗浄事業、環境コンサル事業を柱に事業を展開しています。					
C	アマタ株式会社 出口	排出	食品製造業						
			清涼飲料水の製造・販売	清涼飲料水の製造・販売			B to Bリサイクルの推進	CSVにつながるヒント	
			建設業						欠席
			建設業				ISO14001認証 継続中	今後、弊社でどんなことができるか知りたい	
		処理	建設業	建設現場からの産業廃棄物排出					
			産業廃棄物処理業						
			産業廃棄物処理業者	有機性汚泥の収集運搬処分。堆肥化のコンポスト。	排出事業者からの有機性汚泥の堆肥化をしています。	排出事業者の不適切な処理に困っています。	より高品質なリサイクル処理。	排出事業者の適正処理の向上。	欠席
D	アマタ株式会社 成瀬	排出	総合建設業						
			輸送機械器具製造業	輸送機械器具製造業	なし	なし	なし	廃棄物処理における地域社会との連携の可能性	
			建設業						
			建設業						
		処理	産業廃棄物処理業	(特別管理)産業廃棄物収集運搬業・産業廃棄物中間処理業(移動式汚泥脱水)	自治体の一般廃棄物焼却施設から発生する焼却灰のリサイクル事業等		マテリアルリサイクルの推進	排出事業者様の廃棄物管理における状況等の情報収集等	
			産業廃棄物処理業						欠席
			砕石業	砕石製造販売、油類販売		搬入物にゴミ、不純物の混入。同業者が多すぎる。	処理分類の拡大とリサイクル率100%、不純物除去技術の向上。		
			廃棄物処理業						

資料2. 参加者グループリスト及び事前アンケート一覧(福岡会場)

E	アミタ株式会社 中村(主)	排出	解体工事業	解体工事		今のところ処分業者様のご対応は問題 ないです。			欠席
			電力卸売業						欠席
			食品製造業	資材の発注管理と廃棄物 管理	特になし	特になし	食品廃棄物のバイオマス等への活用、 自工場での減容など。	廃棄物に関して、委託先 にお任せしている状況でほと んど知識を持っていないた め、今後に生かせる知識や アイデアを得られればと思 います。	
			建設業						
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物の収集運搬・ 中間処理及び最終処分を しています。		排出事業者の中には契約書やマニフェ ストに対する意識が薄い人たちも多い。			
		処理	産業廃棄物処理業、一般 廃棄物収集運搬業他	弊社は佐賀県全域を中心 に産業廃棄物収集運搬、 特別管理産業廃棄物収集 運搬業及び中間処理処理 業等の業務を中心に、廃 棄物排出事業所のニーズ とサービス等の多様化に 対応するために、廃棄物の 減量化及び再資源化・リサ イクルを積極的に推進して おります。	廃棄物排出事業所及び同業廃棄物処 理業者との廃棄物処理方法や適正処理 について応談・支援等、また、弊社の産 業廃棄物中間再資源化の見学公開によ る信頼性の向上。	中国経済の低迷によるリサイクル・資源 物の買取り単価の下落で収益が悪化し た。	塩ビ系プラスチック類のリサイクル資源 処理物の受け入れ先を探している	今後の産業廃棄物処理業界 の動向と現状について	
			一般・産業廃棄物収集運 搬処理業	選別・中間処理業務	一般・産業廃棄物食品リサイクルの取組 み。廃プラ・木くずサーマルリサイクルの 取組み。	産業廃棄物管理シート(マニフェスト)の 認識がない事業者が多々いる。	3Rの励行。	様々な事例や業界の今後の 展開についての情報収集。	
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物の収集運搬・ 処分や廃棄物管理フンス トップサービスを行って おります。またCSRサポ ート事業も行っています。	自治体の一般廃棄物焼却施設から発生 する焼却灰のリサイクル事業等		食品残渣のリサイクルの推進	排出事業者様の廃棄物管理 における状況等の情報収集	
F	産業廃棄物処理 事業振興財 団 柴崎	排出	通信業	事業部内の産廃関連業務				九州地区で新規に産廃処理 委託先を探しています	
			食品製造業		食品残渣を活用したリサイクルループ活 動。		当社では食品残渣の次に廃プラの排出 量が多いため、廃プラのリサイクルにも 取り組みたいと考えております。	処理業者との相互理解の場 所として期待します。	
			印刷・同関連業					優良処理業者様との情報交 換	
			コンサルタント業	廃棄物管理業務の企画、 支援、代行業務ほか		廃棄物区分の見直しが必要。自治体 により廃プラの扱いが変わることに疑問	企業の自己処理をもっと義務化し、物流 の削減やエネルギーの削減をすべき	情報	
		処理	産業廃棄物処理業			排出事業者側から求められる一方的かつ 他力本願なリサイクルの要請。さらに リサイクル＝(イコール)低料金という安 易な発想。	人口減少社会に伴い国内経済活動の 低迷により廃棄物の排出量そのものが 減っていく中でどう収益を確保していく かが今後の経営課題。今後取り組み たい事業領域としては排出側のニーズに あった処理側のサービスを結びつける プラットフォームの開発	排出側を取り巻く外部環境 の変化によりこれまでにない 新たなニーズはないか知る ことが出来たら有難いです。	
			産業廃棄物処理業	地域の産業廃棄物の焼却 事業者として安心安全な処 理を行うと共に高いエネル ギー回収率でCO2の削減 に寄与しています。		いまだに、廃棄物の中に契約外の異物 を意図的に紛れ込ませてくる排出事業 者がある。社内システムのセキュリ ティの問題で電子マニフェスト化がで きない大規模事業所がある。	製造事業者が保有している小規模焼却 施設の肩代わり。	排出事業者と処理事業者の 風通し(コミュニケーション)。 適正処理ファーストの価値 観の統一。	欠席
			古紙問屋・産業廃棄物処 理業						
			産業廃棄物処理業	産業廃棄物の収集運搬・ 処分や廃棄物管理フンス トップサービスを行って おります。またCSRサポ ート事業も行っています。	離島廃棄物のリサイクルフローでの処 理実施		工事現場における分別回収		

[東京会場]

会場全景



第1部 基調講演（北九州市立大学 松永氏）



第2部 優良事例発表（アサヒ飲料（株））



第2部 優良事例発表（（株）エコ・フード）



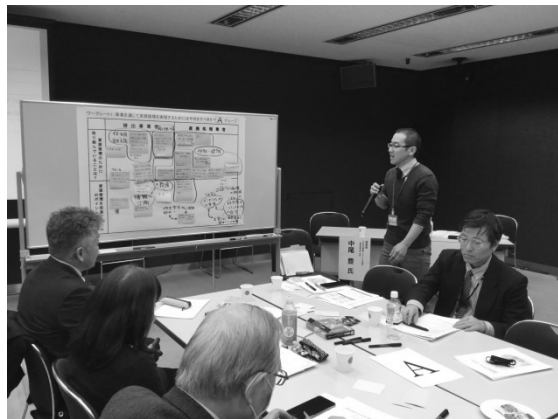
第3部 ワークショップ



第3部 ワークショップ



第3部 ワークショップ発表風景



[福岡会場]

会場全景



第1部 基調講演（北九州市立大学 松永氏）



第2部 優良事例発表（プライムデリカ（株））



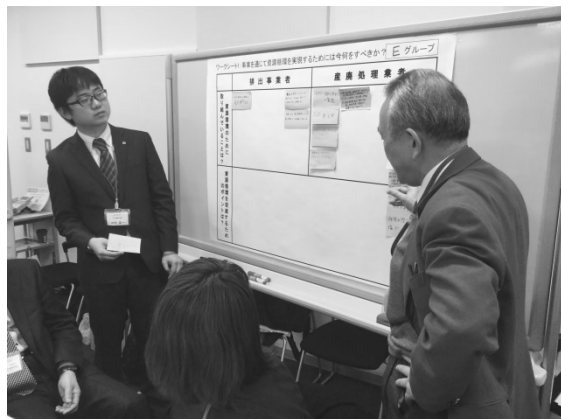
第2部 優良事例発表（（株）大島産業）



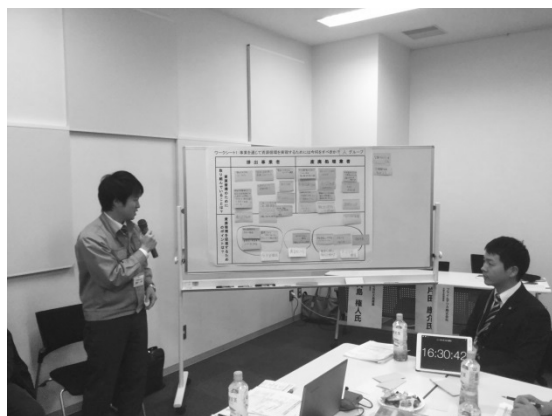
第3部 ワークショップ



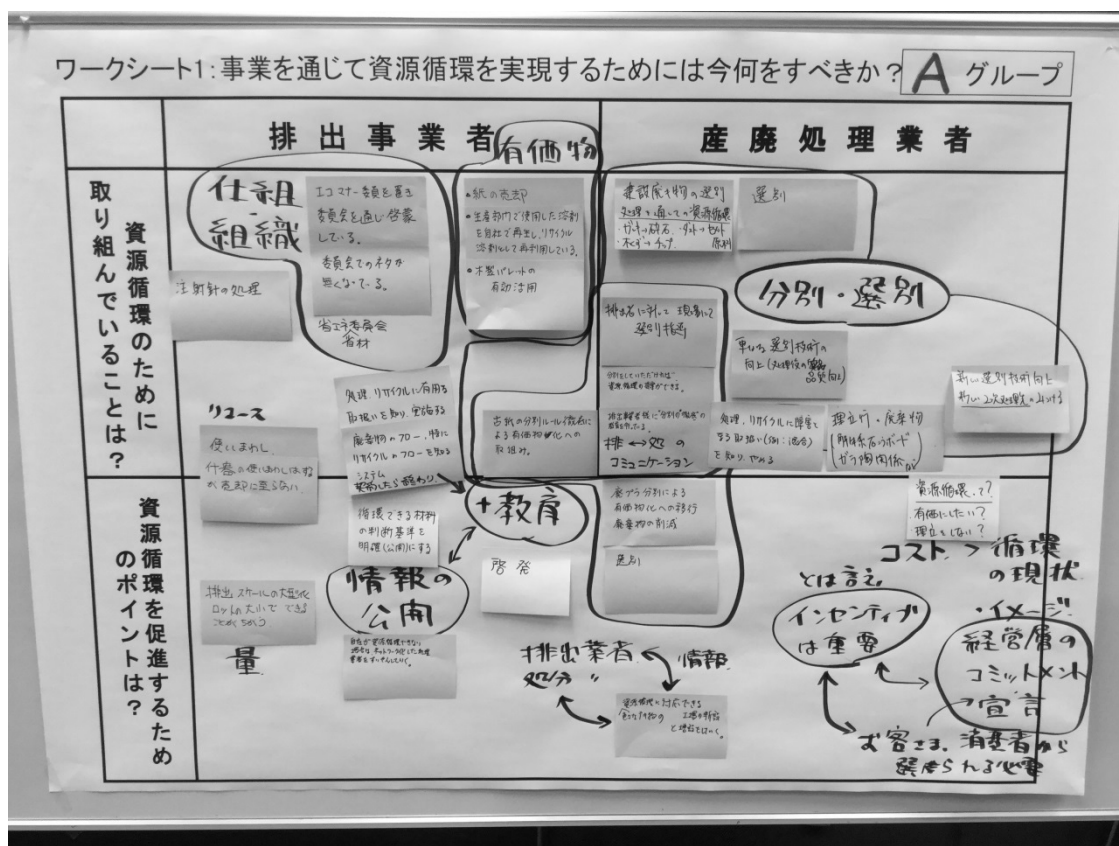
第3部 ワークショップ



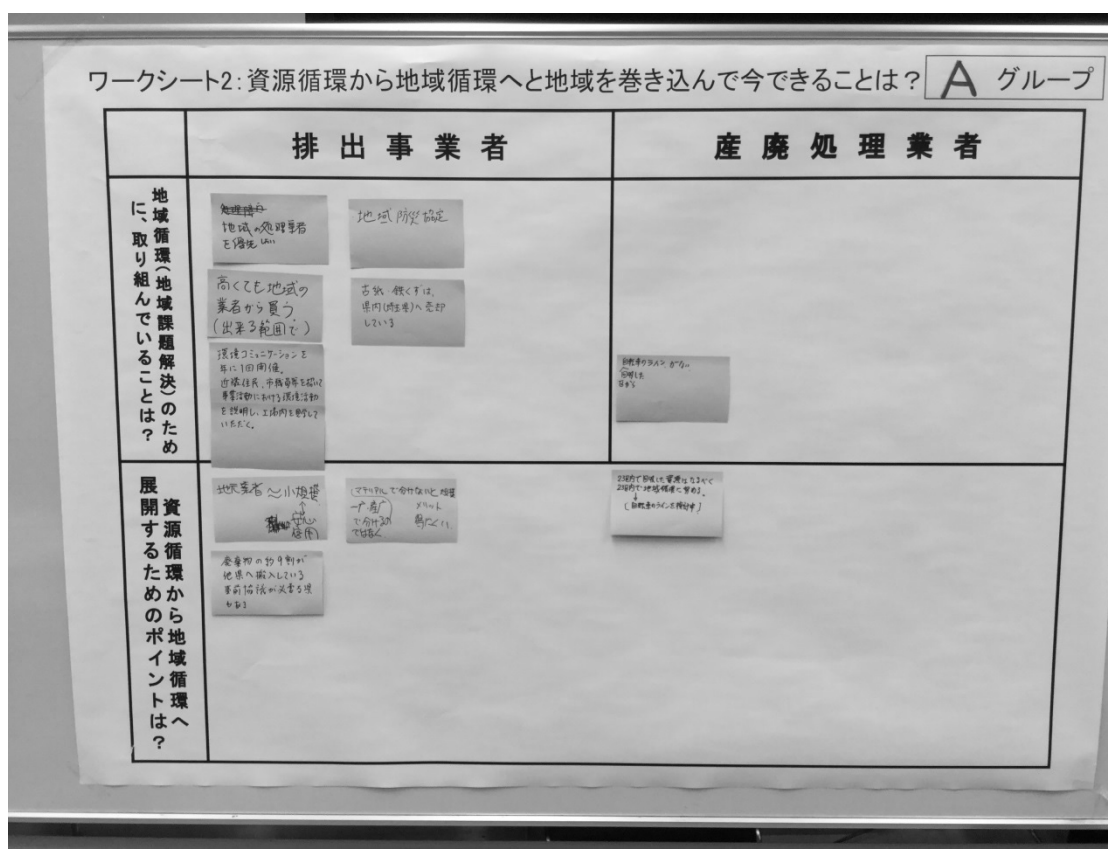
第3部 ワークショップ発表風景



東京／グループ A-1



東京／グループ A-2



ワークシート1: 事業を通じて資源循環を実現するためには今何をすべきか? B グループ

東京／グループ B-2

ワークシート2: 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは？ B グループ

68

東京／グループ C-1

ワークシート1: 事業を通じて資源循環を実現するためには今何をすべきか? C グループ

	排出事業者	産廃処理業者
資源循環のために 取り組んでいることは?	エコカー・70% 集約 コロムビア 500kg リサイクル プラステック 環境教育館 汚染環境 リサイクル施設の建設 高圧の電子マネースト 運用 溶剤BOX 情報管理 (産業物一元管理 システムの導入)	食品のリサイクル 改善目標 中核課 産廃物の回収 古紙類の分別 ライター研削 中核処理 白粉と処理できる 産廃物。リサイクル等 の点、処理業者への紹介 リサイクル処理を している業者
資源循環を促進するためのポイントは何?	社会の 環境マネジメント シスター 材料の削減の目的 シスター 社員の産業地知能 の向上 リサイクル 産業物の分別 の点 環境配慮型の施設 用済み 現地構築でやる お金の負担 生ゴミ処理機 の設置 (テスト) コーヒーのリサイクル	地域にまたる産廃物 を委託しては依頼が 通らない。 汚染された土地の 浄化 (安心の暮らし) 無理な リサイクルをいかに 必要を分別 リサイクル機の 商品の活用促進 量減分量の減少 (20%削減に) 自治体とのやり取りの仕組みづくり 行政への働きかけのため 実効性のあるビジネスモデルづくり

東京／グループ C-2

ワークシート2: 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは?		C グループ
	排出事業者	産廃処理業者
地域循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは？	リサイクル 契約 業者さん 集約 今出来ている 地域課題/問題 （今ある課題/問題）	地域インフラ と関係している 高齢者・弱者の 雇用
展開する 資源循環 するための ポイント は？	排出事業者側から 廃棄物の量を削減 （減量）すること （例）リサイクル （例）リサイクル 共同処理 （例）共同処理 （例）共同処理	施設と併設 （例）共同 （例）共同

東京／グループ D-1

ワークシート1: 事業を通じて資源循環を実現するためには今何をすべきか? **D グループ**

	排出事業者	産廃処理業者
資源循環のために 取り組んでいることは?	資源循環のために 取り組んでいることは? 再資源化 + コスト減 分別	産廃処理業者 最新の技術情報 最新事例の収集
資源循環を促進するため のポイントとは?	新しい技術 ↑ 円 行政との協力 連携体制の構築 目録	バーシー原料 価格の動向 最新の技術情報 最新事例の収集

東京／グループ D-2

ワークシート2: 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは? **D グループ**

	排出事業者	産廃処理業者
地域循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは?	地域循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは? 資源循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは?	地域循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは? 資源循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは?
展開する資源循環からの ポイントとは?	展開する資源循環からの ポイントとは? 資源循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは?	展開する資源循環からの ポイントとは? 資源循環（地域課題解決）のため に取り組んでいることは?

東京／グループ E-271

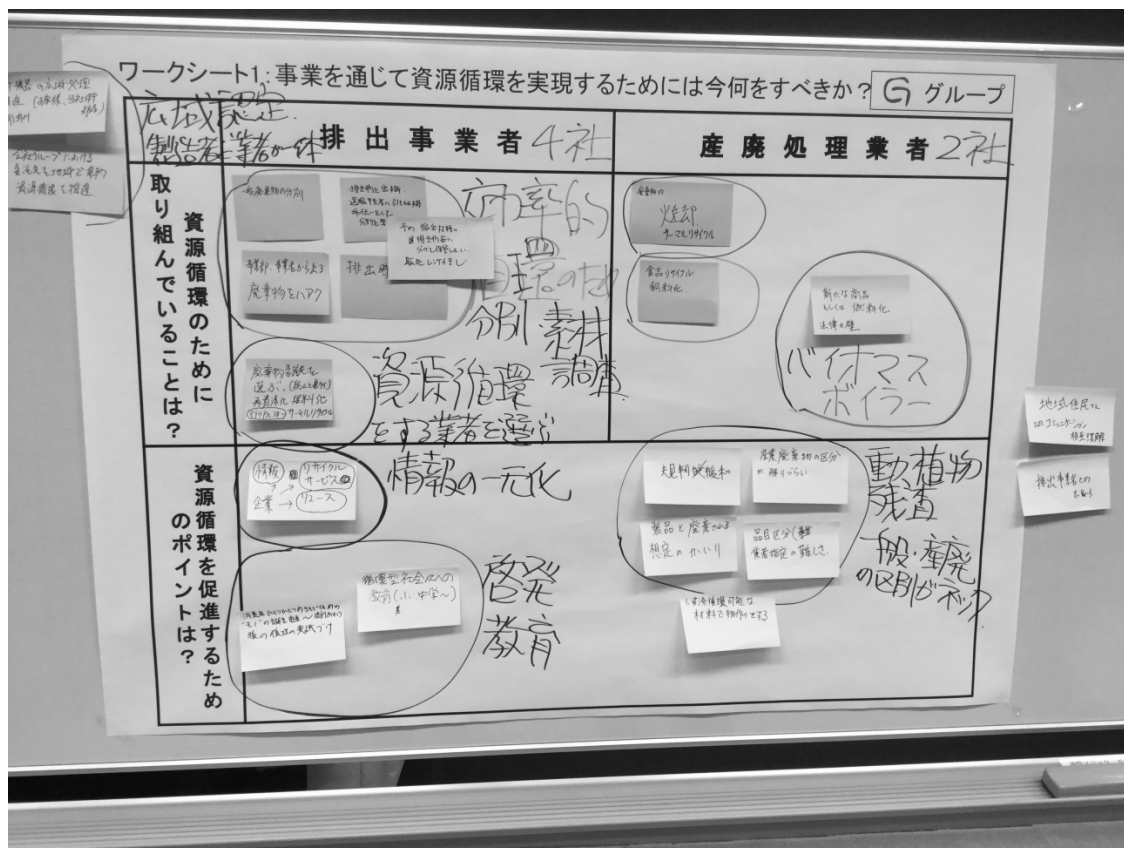
ワークシート1：事業を通じて資源循環を実現するためには何をすべきか？

	排出事業者	産廃処理業者
資源循環のために 取り組んでいることは？ 資源循環の ために、 工場内での 分別収集を 実施している。	分別 分別収集率 分別収集率 分別収集率	固形燃料 ① 製造 ② 利用 ③ 処分
資源循環を促進するためのポイントとは？ リサイクル技術の向上 安定供給 再生資源の利用	分別 分別収集率 分別収集率 分別収集率	固形燃料 ① 製造 ② 利用 ③ 処分 ④ 販売 ⑤ 回収 ⑥ 再利用

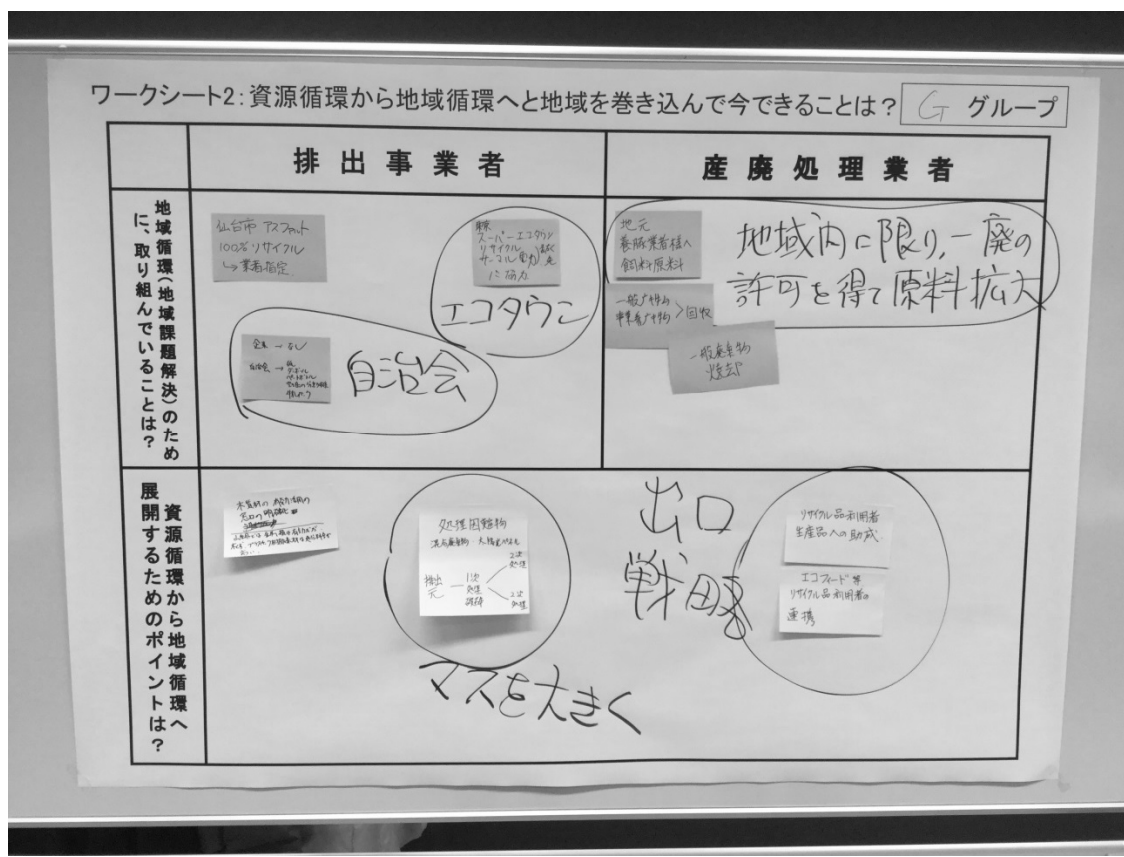
ワークシート2: 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは? F グループ

	排出事業者	産廃処理業者
地域循環(地域課題解決のために取り組んでいることは?) 家庭・小売・自治体 資源物 資源物 資源物 家庭・小売・自治体 資源物 資源物 資源物	家庭・小売・自治体 資源物 資源物 資源物 家庭・小売・自治体 資源物 資源物 資源物	産廃処理業者 家庭・小売・自治体 資源物 資源物 資源物 家庭・小売・自治体 資源物 資源物 資源物

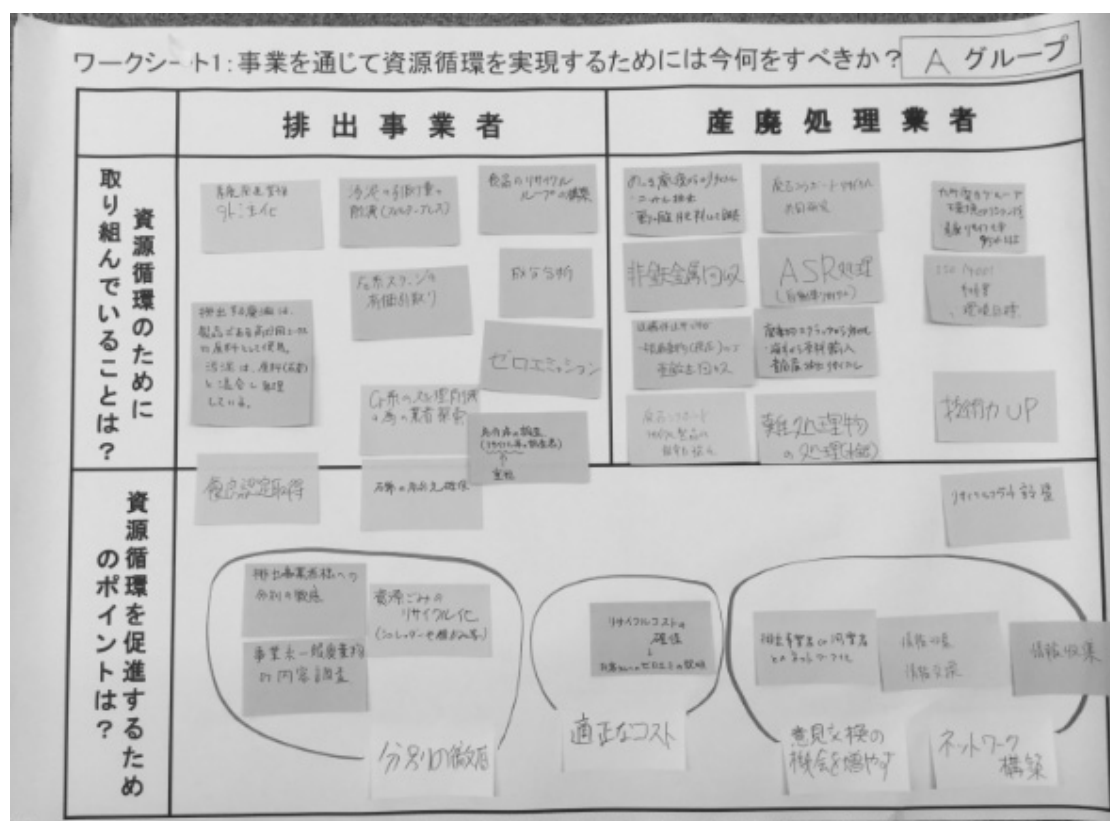
東京／グループ G-1



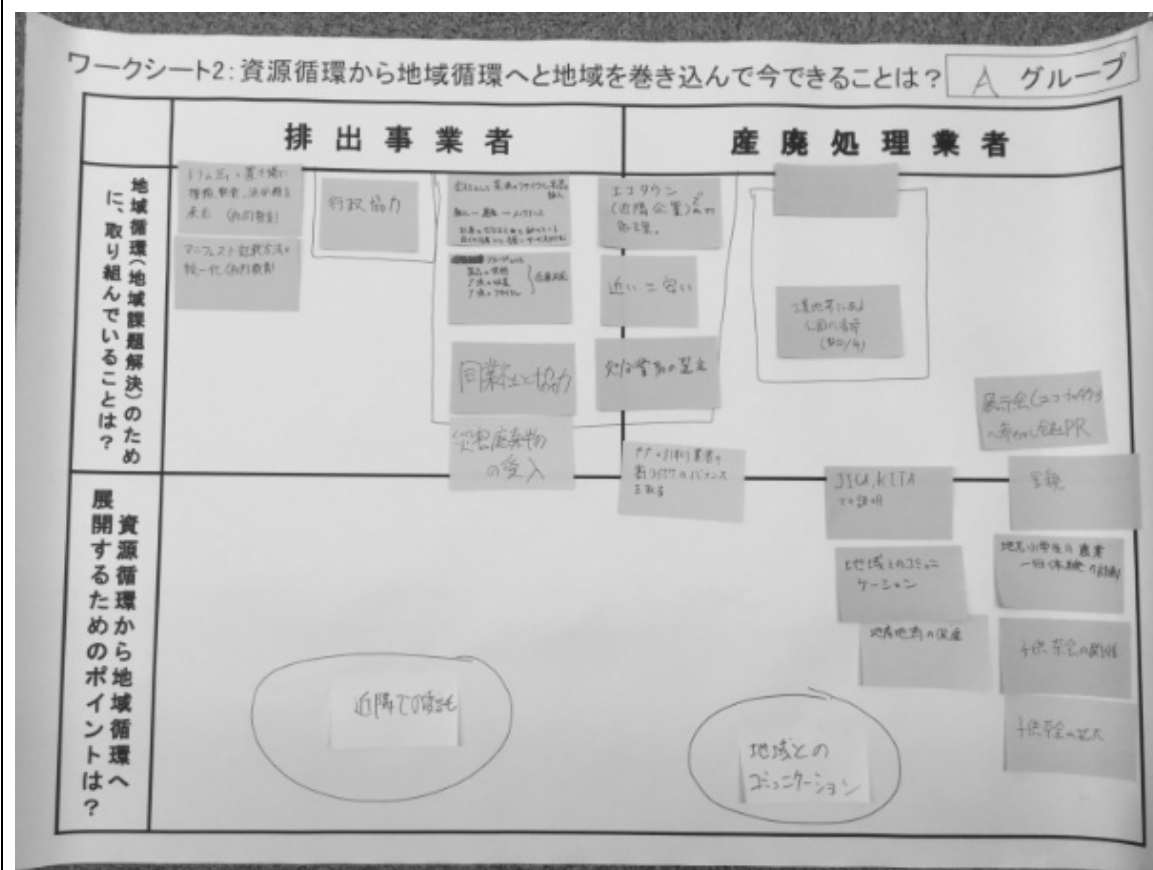
東京／グループ G-2



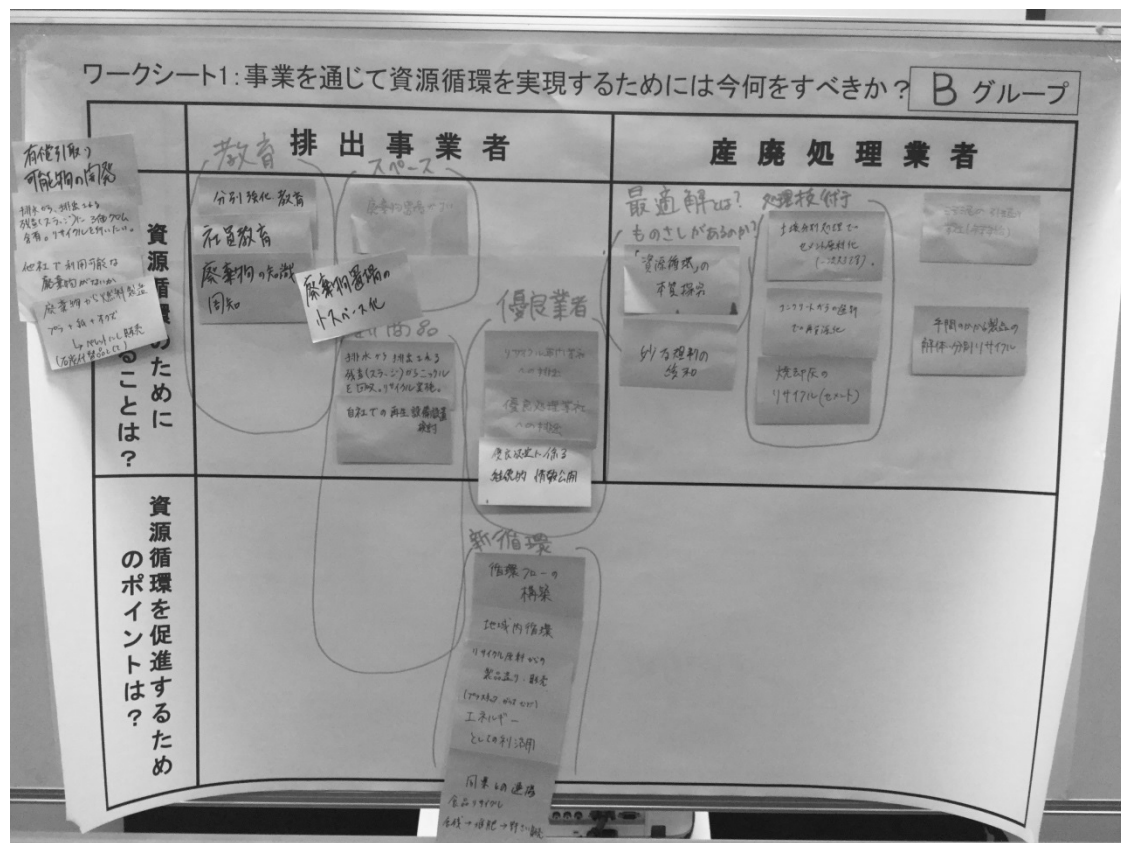
福岡／グループ A-1



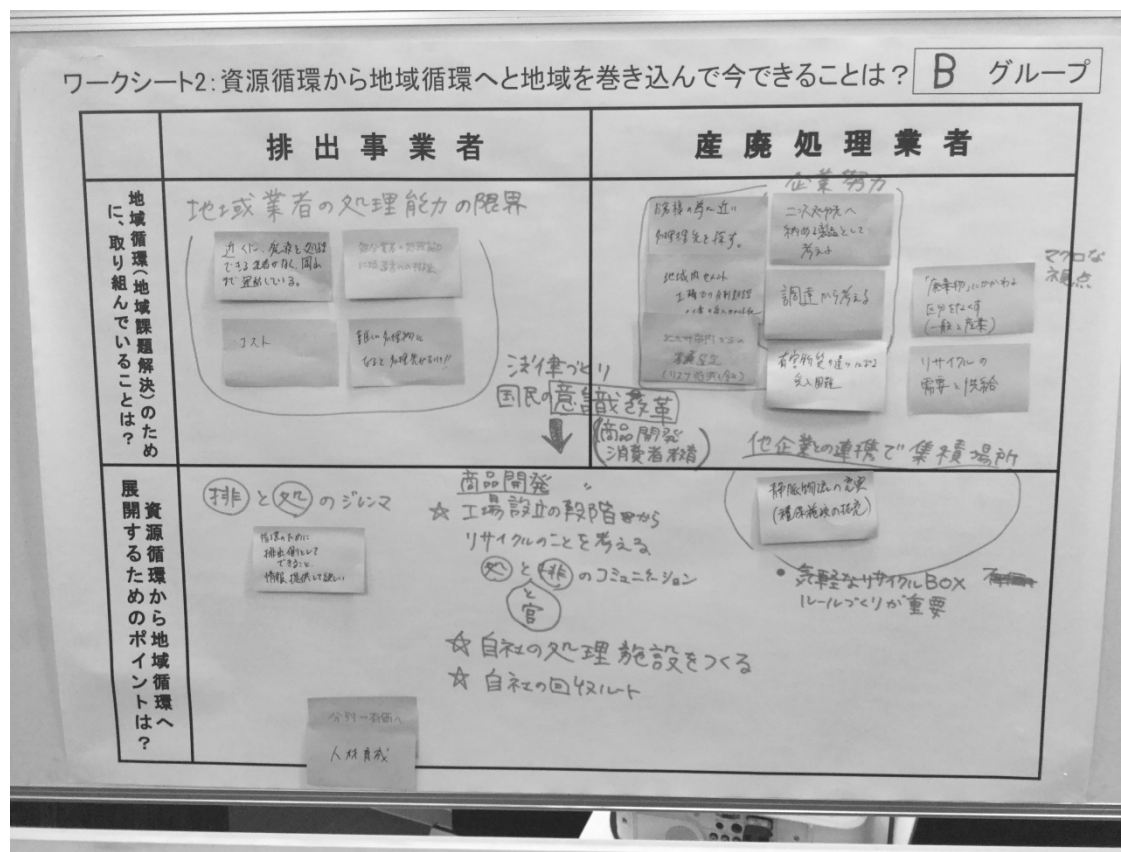
福岡／グループ A-2



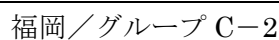
福岡／グループ B-1



福岡／グループ B-2



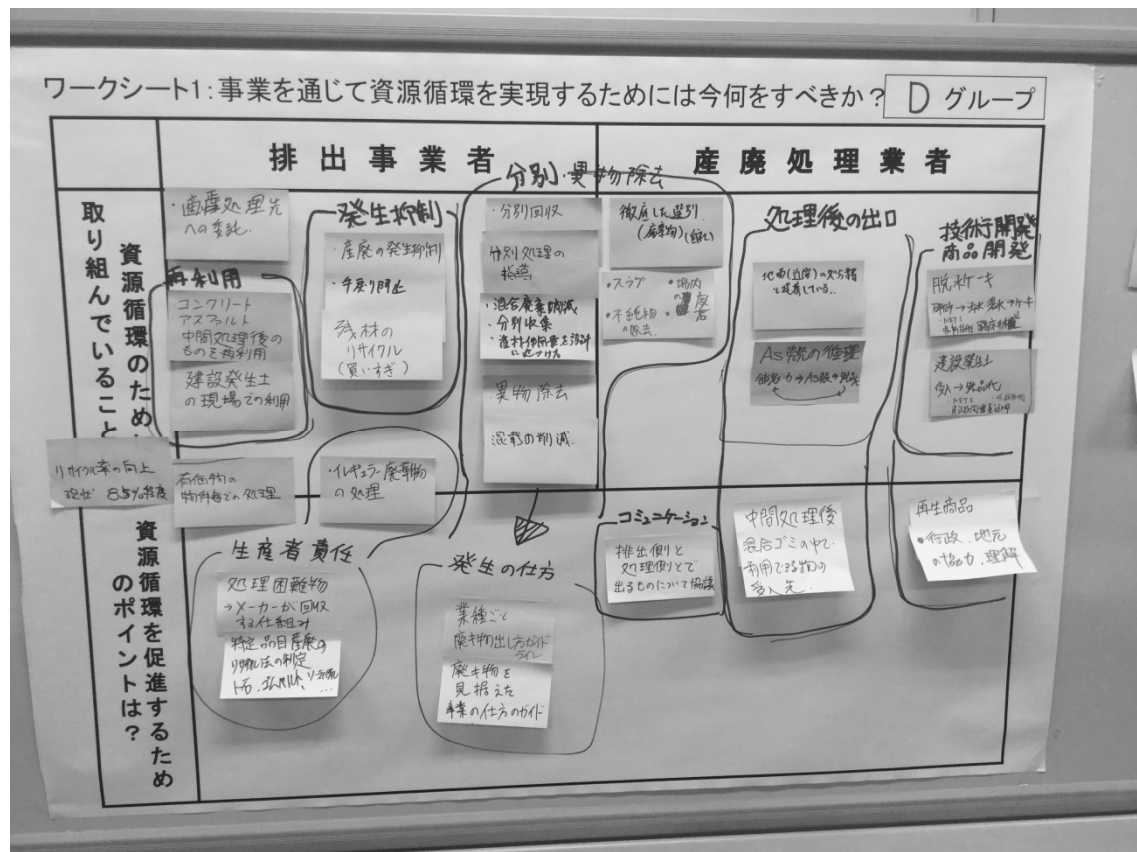
ワークシート1: 事業を通して資源循環を実現するためには今何をすべきか? Cグループ



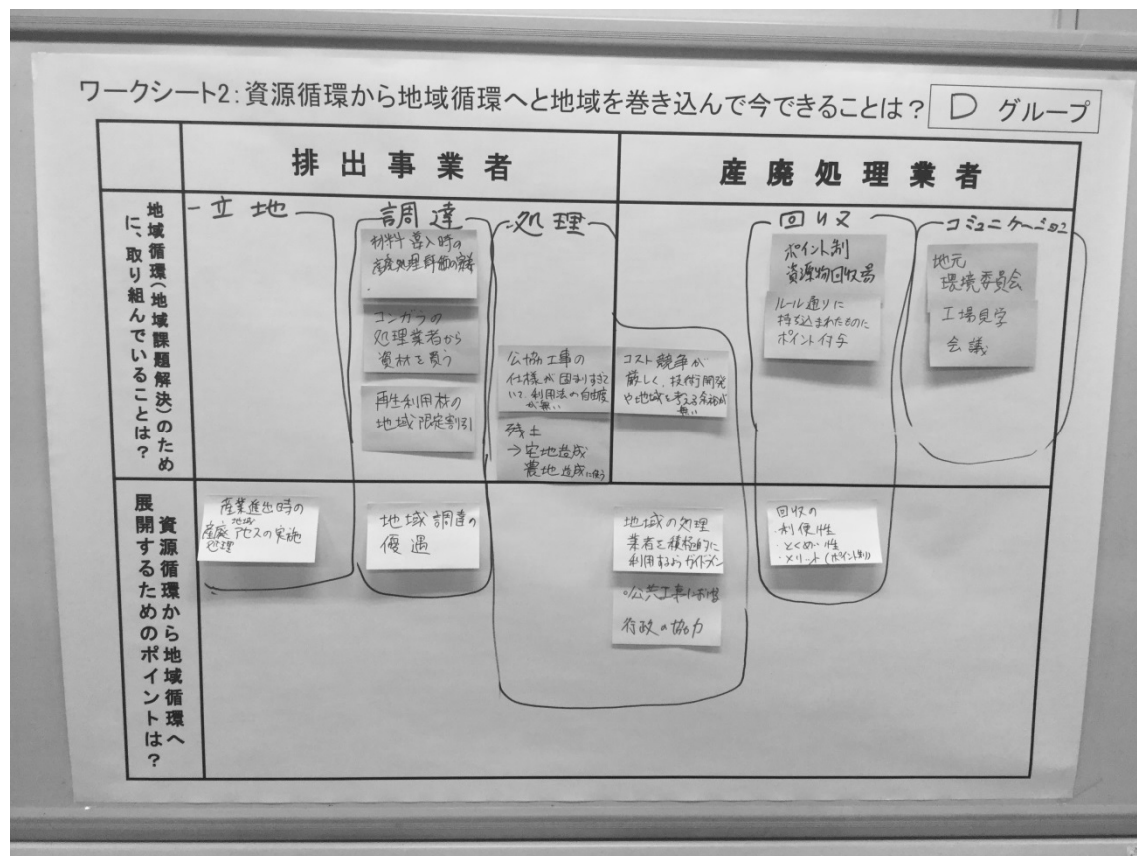
ワークシート2: 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは？ グループ



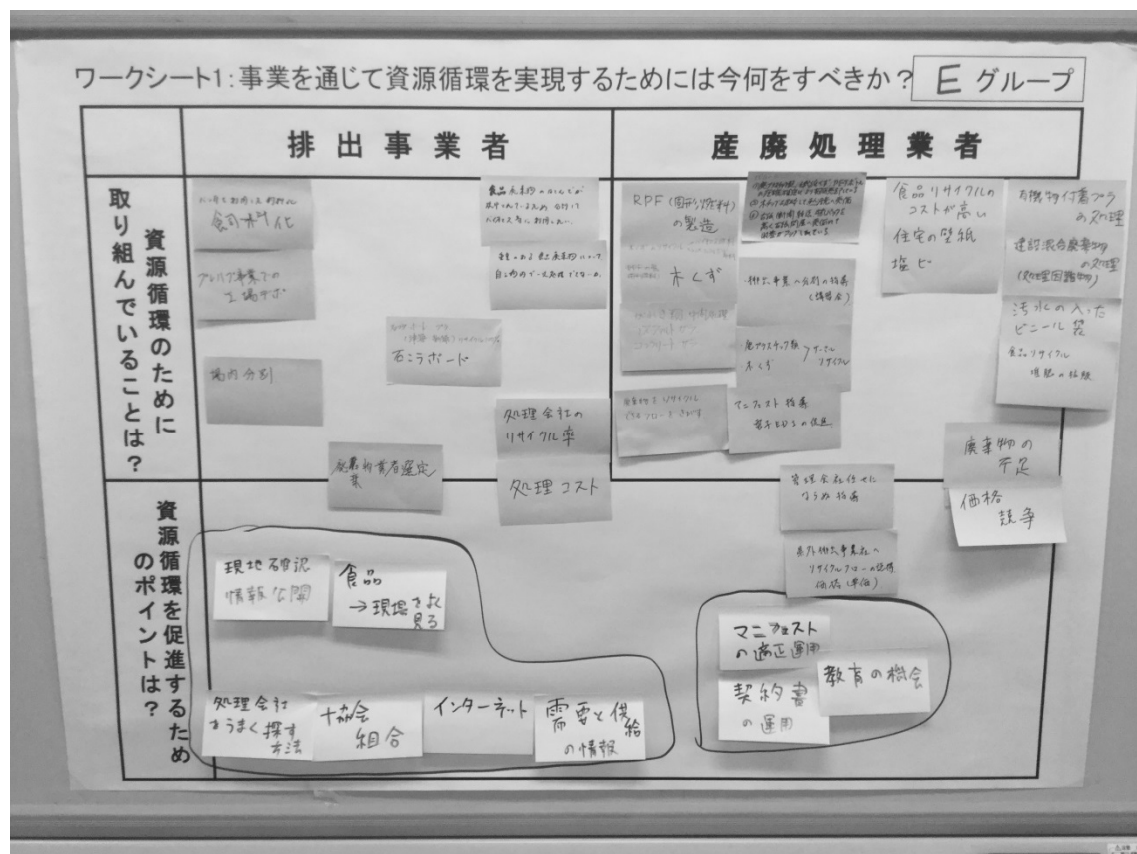
福岡／グループ D-1



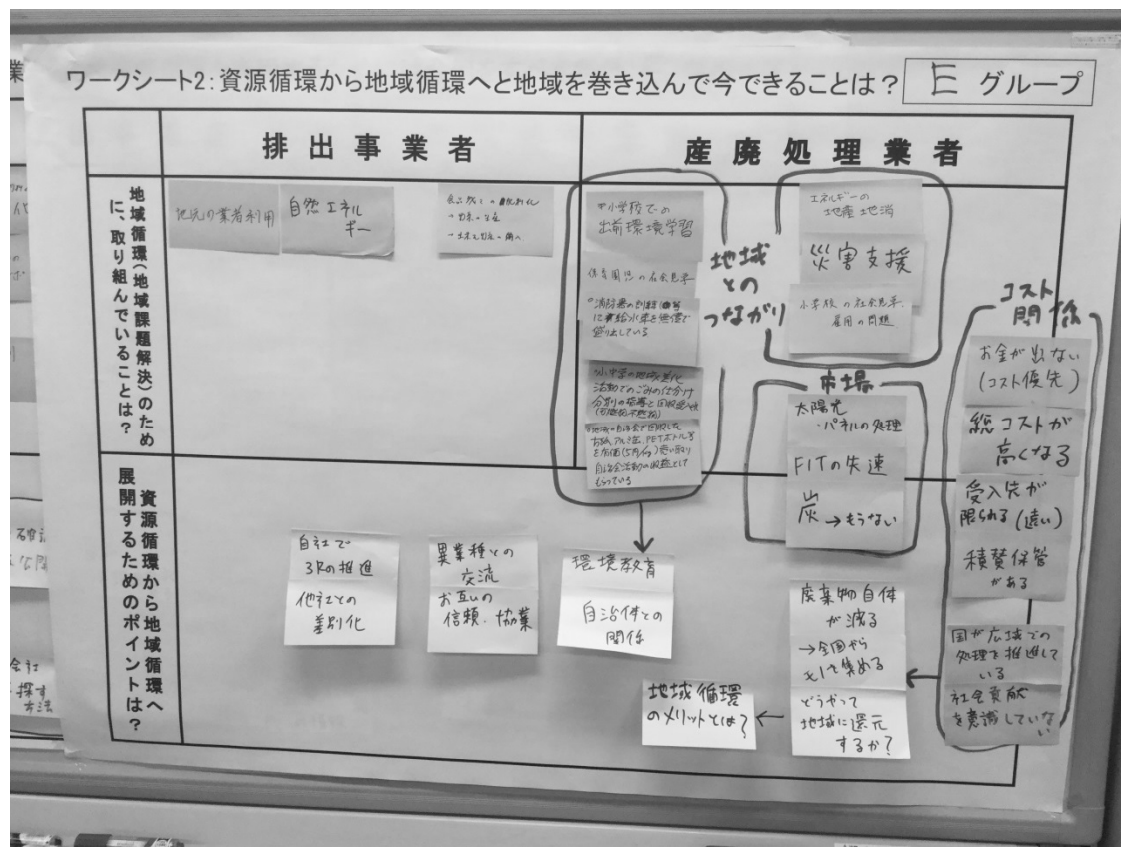
福岡／グループ D-2



福岡／グループ E-1



福岡／グループ E-2



[illegible]

ワークシート2: 資源循環から地域循環へと地域を巻き込んで今できることは? **F グループ**

	排出事業者	産廃処理業者
地域循環(地域)に取り組むこととは? 資源循環から地域循環へ?	排出事業者 地域循環(地域)に取り組むこととは? 資源循環から地域循環へ?	産廃処理業者 地域循環(地域)に取り組むこととは? 資源循環から地域循環へ?

「循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか?～」フォーラム/ワークショップを開催しました。

これから先、少子高齢化や過疎化が加速し、人口が減ることで自然に対する管理が行き届かなくなり、森里川海などの自然資本が健全に機能しなくなることが予想されます。地域社会を維持するためには、環境・経済・社会の課題がそれぞれ解決され、低炭素・資源循環・自然共生社会が同時に実現する地域づくりがこれまで以上に重要となってきます。まさに、地域社会の中心的な役割を果たしている排出事業者と産業廃棄物処理業者（以下、「産廃処理業者」という。）の間でコミュニケーションを密にすることは、地域循環産業の発展、地域社会における信頼の向上を図るために益々重要となってくるでしょう。

今回、そのような社会情勢、地域事情を踏まえて、去る 2017 年 1 月 26 日（木・東京）2 月 7 日（火・福岡）に、排出事業者と産廃処理業者との意見交換の場として「循環型地域社会の発展に向けて～排出事業者と処理業者が地域のために今何ができるのか?～」フォーラム/ワークショップを開催いたしました。

本フォーラム/ワークショップには、地域循環に関心の高い排出事業者と優良産廃処理業者認定制度における優良認定業者、及び優良認定の取得を検討している産廃処理業者の担当者計約 100 名が参加されました。地域の発展のために排出事業者と産廃処理業者がどのような連携・協働していけば良いのか、廃棄物処理における戦略的連携と地域発展についての講演や、すでに地域循環に取り組まれている優良事例の紹介、参加者全員によるワークショップを通じて意見交換を行いました。



冒頭、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課 田代浩一課長補佐による挨拶と今回のワークショップの趣旨説明に続き、第 1 部として、東京会場、福岡会場では、北九州市立大学大学院 マネジメント研究科教授 松永裕己氏より「廃棄物処理における戦略的連携と地域発展」というテーマで基調講演を行っていただきました。

第1部 基調講演

◆北九州市立大学大学院 マネジメント研究科 教授 松永 裕己氏
「廃棄物処理における戦略的連携と地域発展」

数年前から環境省を中心に廃棄物処理の地域循環圏についての議論が活発化されてきています。その1つの方向性として、①地域で循環可能な廃棄物はあるべく地域で循環させる、②それが困難なものについては物質が循環する環を広域化させていく、ということが発表されています。地域循環圏の考え方の背景には、①市町村単位での廃棄物処理の継続困難性、②市場メカニズム活用の必要性、③効率的なリサイクルや廃棄物処理の必要性、があったからです。



事業にとっての「地域」を考える上で、経営学者マイケル・ポーターが提唱する産業集積（クラスター）の考え方が大変参考になります。産業クラスターは、特定分野における関連企業、専門性の高い供給業者などが地理的に集中し、競争や協力をしている状態をいいます。通常、企業が持っている経営資源が企業の競争力と言われていますが、ポーターは、それ以外にも地域の繋がりが企業の競争力に影響があると言っ

ています。その代表として、シリコンバレーやサードイタリーが例として挙げられます。両社はハイテク、ローテク企業が集積していて対称的ですが、共通点は産業クラスターにあるのです。

今の時代、インターネットや国際物流が発達しているので、世界中のどこからでも情報やモノが集まる時代です。それなのに、なぜ企業が集まる産業クラスターがなくなるのでしょうか？なぜなら、非公式であり重要な情報や市場の変化を一早く掴むにはインターネット上ではどうしても不可能だからです。また、昨今、資本主義にも変化が現れており、大量生産から多品種生産へ、安定した市場から移り気な市場へと移行しています。今の時代、迅速に市場ニーズに対応することが重要になり、産業クラスターの形成がビジネスにとって有利に働くのです。そうになると、外部ネットワークを有する企業で、かつ、小回りの利く専門的な企業が競争優位になると言えるでしょう。また企業が地理的に近接することで、取引先を探す、交渉するなどの「取引コスト」の削減にもメリットがあります。

廃棄物処理業においては、取り扱う商品（廃棄物）の特殊性から取引コストが非常に大きいのが現状です。今回のフォーラムやワークショップ、業界内外の連携・協働や「優良さんばいナビ」などのプラットフォームの活用により、まだまだ取引コストを下げる余地があるはずです。また、企業同士の連携・協働を進めることでより新たなビジネスチャンスの創出にも繋がるでしょう。今後の廃棄物処理業は安全・安心に処理できるというだけでは生き残りが厳しく、さらに色々な主体の繋がりをつくる商社的機能が求められてくるのではないのでしょうか。そのために「地域」という視点がとても大事なことなのです。

第1部 優良事例プレゼンテーション

地域循環の取り組みについて、排出事業者側、処理業者側の連携・協働した優良事例を、それぞれの立場・視点で発表を頂きました。

(東京会場)

【排出事業者側】

◆アサヒ飲料株式会社 品質保証部 環境グループグループリーダー 小牧 悟氏

「アサヒ飲料の取り組み事例」



アサヒグループでは、環境ビジョン2020を掲げて、グループ一体となって環境活動に取り組んでいます。特に4つのテーマ、「①CO₂を減らそう、②資源を循環させよう、③自然の恵みを守ろう、④自然の恵みの大切を伝えよう」を柱として持続可能な社会の実現を目指しています。そのテーマ②に関して、富士山工場では「十六茶」粕の一部を乳牛用の混合飼料にしてリサイクルを行っております。

背景として、日本の家畜飼料の自給率が約20%に過ぎなく、大半を輸入に頼っている問題がありました。特に飼料材料となるトウモロコシなどは輸入量の増加が難しく、代替資源の少なさが課題となっていました。その課題解決のために十六茶粕を利用できないかと、担当者が知恵を絞って考えた結果、なんとか飼料化に取り組むことができました。ただ、十六茶粕は鮮度を保って保管することが難しく、飼料としての品質面を保持するのに大変苦労しました。特に、飲料の場合は含水率も高いことも影響としてあります。一時は飼料化を断念しましたが、なんとか工夫や改善を加え本格稼働までこぎつけました。たまたま偶然でしたが、十六茶の茶粕が穀物系原料だったために葉系原料の緑茶・烏龍茶よりも嗜好性が良かったのです。それと、富士山工場の近隣には朝霧高原があり畜産業が盛んであり運ぶのも適していました。

また同様に、処理業者のエコ・フード社にご依頼して栄養価の高い「六条麦茶」粕汁をリキッド飼料として養豚飼料原料にも取り組んでいます。固体と液体の食物性残渣を粉碎機にかけて発酵させて飼料としてエコ・フード社により養豚場へ運ばれています。その飼料は養豚場で使用されて最終的には地域住民に還元されています。

【処理業者側】

◆株式会社エコ・フード 営業部 課長 喜来 学氏

「食品廃棄物のリサイクルについて」

エコ・フードは、もともと匝瑳市で40年以上、養豚業を営んでいました。そこで、食品関連の廃棄物が焼却されていたのを見て、それを飼料化できないかということで、リサイクルビジネスを開始し、液状であるリキッドフィーディングというシステムを確立しました。

そのシステムは、搬入時に、廃棄物をフライドポテトやパスタなどのような固形製品と、アサヒ飲料様のような飲料メーカーからの飲料水やジュース、お酒などの液体製品に2つに分けます。飼料配合設計のもと、一緒にブレンドして養豚用のリキッド飼料を製造しています。特に包装材があるものは大変で、破袋分別機を通して、中味と包装材を分けていきます。機械分離出来ない製品は人の手で開封していきます。その後、ブレンダーで固形原料と液体原料を混ぜて飼料作りをしています。その際、各養豚場の要望に合わせてリキッド飼料を製造しているのです。出来たリキッド飼料は専用車で毎日運んでいます。理由は、フレッシュな飼料を豚に食べてもらいたいからです。



今回のアサヒ飲料様との連携のきっかけは、ジュースの廃液を別処理していたのを飼料に活用できないかということで提案をさせて頂きました。それからジュースの廃棄物の飼料化が始まり、アサヒ飲料様の説明にあった「六条麦茶」の液汁を活用してリキッド飼料化を行っていったのです。私たちの基準としては、排出事業者から出てくる廃棄物を人が食べても安全化どうかといった基準で判断させて頂いております。やはり、コストからスタートしてしまうとなかなか連携はうまくいかないのが現状です。排出事業者は、飼料化できるもの、飼料化出来ないもの、各処理業者の得意不得意をしっかり把握し、排出廃棄物がどのようなフローを経て処理されていくのか理解していただけると、より一層資源循環が進むと思います。改めて、両者の信頼関係の構築があったからこそ、このようなリサイクルループが構築できたのだと考えております。

(福岡会場)

【排出事業者側】

◆プライムデリカ株式会社 生産本部環境部 片田 康介氏

「食品工場から排出される廃棄物のリサイクルループ活動」



プライムデリカはセブンイレブン様向けに調理パン、デザート、サラダなどを提供している会社です。2002 年から、セブンイレブン様の九州エリアに進出するのに伴い、宗像工場や佐賀工場から出てくる食品廃棄物を大島産業様に依頼して飼料化を行い、その飼料を生産者である養豚農家に使ってもらい、そこで育てられた豚を弊社で再利用するといった食品リサイクルループを確立しました。

経緯としては、1990 年代に取引先であったセブンイレブン様が店舗や工場の廃棄物の適正処理に注力していたこともあり、弊社もリサイクルについて一緒に取り組んできました。当時、食品廃棄物は焼却処理していましたが、1998

年に、龍ヶ崎工場乾燥発酵機設備を導入して野菜くずやパンくずの飼料化を開始し始めました。その後、セブンイレブン様が九州でリサイクルの取り組みを始めるのをきっかけにして、弊社でも九州に工場を展開していたこともあり、積極的に参画したいと考えました。環境省や農水省の認可を経て、2002 年に九州食品工場リサイクル事業協同組合を設立しました。

現在では、九州のセブンイレブン様専用食品工場から出てくる食品残渣を九州食品工場リサイクル事業協同組合で不適物を除いて乾燥処理し飼料化を行い、また養豚場から出てくる糞を堆肥として近隣の農家に提供しています。そこから取れる大根などの野菜をセブンイレブン様の店舗のおでん大根などに使用しているという広範囲にわたる食品リサイクルループを構築してきました。また、食品残渣がついた廃プラについても協同組合で焼却処分して、乾燥処理にも利用しています。このようなリサイクルループが現在でも続いているのは、日々の取引先や処理業者などの関係者との信頼があったからです。

【処理業者側】

◆株式会社大島産業 代表取締役 大島 権人氏

「地域循環・活性化を目指して」

大島産業では、一般廃棄物と産業廃棄物の収集運搬から最終処分まで事業を行っており、脊振工場が基幹工場となり、全ての廃棄物を処理しています。2002年に九州食品工場リサイクル事業協同組合を設立して、2014年には優良産廃処理業者認定を取得しています。

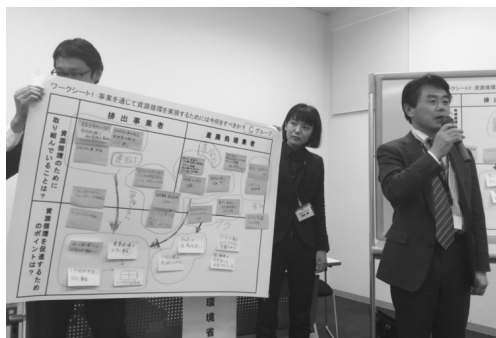
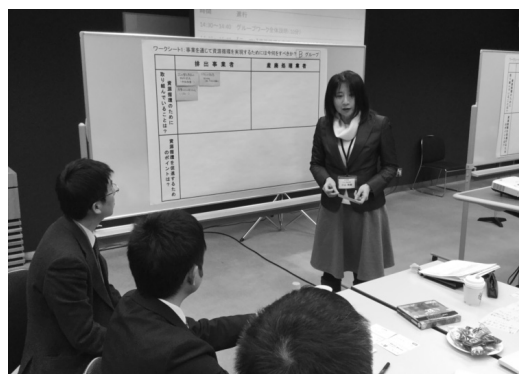
今回の食品リサイクルループで苦労した点としては、設立当初はBSE問題が浮上していた時期もあり、食品残渣を飼料として使用することに養豚場に大きな懸念があり、まったく相手にされず全て断られたことです。その後、養豚関係に詳しい宮崎大学の先生との出会いがあり、養豚関係の勉強会を実施したり、研究会を立ち上げて意見交換をさせて頂きました。この勉強会では、「リサイクル飼料の使用が最終的に循環型社会に影響する。」という基本理念の理解から始まり、実際のリサイクル飼料を活用した養豚の飼育の実証試験を実施いたしました。たまたま、その試験結果が良かったこともあり、徐々にですが、飼料として使用されるようになってきたのです。その調整だけで、約4年間かかってしまいました。

現在では、処理量が1日20トン、製品量としては7トン生産しており、養豚業からの引き合いも順調です。今では商社を含めて10の農家と契約を結んでいます。ただ、懸念点としまして、米国のトウモロコシの飼料原料価格の影響を受けることが多いのです。特に豚の飼料として使われているトウモロコシの輸入価格によって影響を受けてしまいます。輸入価格が安くなると、リサイクル飼料の需要が減ってしまうからです。去年はトウモロコシの輸入価格が安かった影響もあり、製品在庫が余ってしまいました。ただ、やはり循環型社会形成のためには、こういった課題を克服して事業を発展させていきたいと考えています。地域貢献という意味では、今回の事業によって、新たに地元の雇用を生み出しています。自社の事業が発展することが地域の発展にも繋がり、地域住民から喜ばれる事業を行うことは、まさにわたしたちのやりがいに繋がっています。



第2部 ワークショップ

第2部のワークショップ「地域社会の発展に向けて、排出事業者と処理業者が今できる連携・協働とは？」というテーマで、エリアが近い排出事業者・産廃処理業者がほぼ同人数ずつで構成されたグループに分かれ、意見交換を実施してまいりました。ワーク①では、両者の本業である「資源循環」についての現状の取り組みと今後促進するためのポイント、ワーク②では、資源循環から地域循環のために排出事業者と産廃処理業者が今できることのアイデアレベルも含めて議論を重ねました。



東京会場、福岡会場から出てきた資源循環を促進していくための課題として、①処理コストの問題、②分別の徹底、③廃棄物知識の教育、④排出事業者と産廃処理業者との両者業務の理解、⑤意見交換の場、⑥自社の処理・技術の情報発信の強化、⑦商品開発から廃棄物を考慮、⑧廃棄物の出口戦略の必要性、⑨消費者意識の啓蒙など多くの意見を頂きました。

また、資源循環から地域循環を促進していく課題として、①地域内完全資源循環の促進、②自社の技術の積極的なPR、③行政の協力、④廃棄物区分の問題、⑤積み替え保管の幅広い認可、⑥静脈物流の強化など積極的な意見が目立ちました。

各グループの発表を受け、松永教授からは「地域の行政・住民、他企業との連携など地域貢献活動は、自社にとってどういう意味を持つのか？ 今後は、地域還元というだけではなく、地域投資のリターンを得るという視点でみたら、違った見え方をするのではないかな。例えば、地域への投資が最終的に地元の良い人材の獲得に繋がることもそのリターン。中長期的な視点で考えていくことが地域循環にとって必要。」とのコメントをいただきました。

終了後、参加者からのアンケートでは、「資源循環や地域循環の解決の方向性が見えた。」「各社の状況が確認できてよかった。」という声を頂き、「今後の取り組みの参考になった。」「こういった排出事業者と産廃処理業者の意見交換の場は必要。」という意見が多く寄せられました。また、ワークショップ終了後の名刺交換会では、東京会場、福岡会場ともに、例年になく最後まで残っている姿が目立ちました。環境省では、今回の結果を踏まえ、排出事業者と産廃処理業者の連携・協働を進めて、各企業が地域における課題を解決するための地域循環を支えるための施策をより一層推進してまいります。

以上

資料6. アンケート結果一覧【東京会場アンケート集計】

参加区分		(1)満足度(5段階評価)				(2)連携・協業のアイデア・気づきが得られたか？きっかけとなったか？			(3)今後もこのようなイベントに参加したいか？	(4)優良産廃処理業種認定制度を広く普及するために何が必要か？	(5)本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか？	(6)本イベントを通じての意見・感想等	
		プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ		(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方) 具体的なアイデア・気づき	(「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答した方) 期待と異なった点					
1	排出事業者	満足	普通	満足	満足	そう思う	賞味期限の延長、月次化の推進、商習慣改善の推進		はい	・排出業者とリサイクル業者とのマッチング ・商品ロス削減に絞ったフォーラム ・返品削減取り組みの共有化	優良業者のメリット、排出業者のメリットが明確に分かるように	—	とても面白意味深いフォーラムでした。次回も参加してみたいです。企画設定有難うございました。
2	処理業者	満足	非常に満足	満足	満足	そう思う	リサイクル業者の優良認定は是非検討願いたい。		はい	自治体も参加願いたい。	処理台数などを公開することを前提としているのは厳しい	どちらも言えない	
3	排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	課題が難しくストレートな答えが出せなかった(5にならなかった理由)		はい		優良産廃認定業者が受けるメリットを増やす。例えば事前協議を免除できれば、排出事業者にとってもメリットがある。	—	今後も同様のワークショップ、フォーラムの開催をお願いしたい。
4	排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	業者様とのコミュニケーションが大事だと思いました。		はい		情報を広く流していく。CMなど	—	直接お話が聞けるとても良い機会となりました。ありがとうございました。
5	排出事業者	無回答	満足	不満	普通	そう思う	処理業者とのコミュニケーション不足を感じました。		はい		入札時の必須条件にする	—	
6	排出事業者	満足	非常に満足	非常に満足	満足	とてもそう思う	産廃処理業者の方と日頃コミュニケーションがなく、今回は考えを伺える良い機会になった。		はい	環境マインドの向上につなげられる内容に興味があります。	制度の周知	—	
7	排出事業者	満足	満足	満足	満足	どちらとも言えない			はい		都と歩調を合わせて頂きたい。	—	
8	排出事業者	満足	普通	普通	満足	そう思う	・少量廃棄物にみんな困っている ・一廃と産廃のややこしさ ・不燃可燃という表現やめて		はい			—	
9	排出事業者	満足	普通	普通	満足	そう思う	処分業者さんのご意見、他業種さんの問題点の認識が理解できた。		はい		認定に係る諸費用の見直し	—	会場設定においてスクリーン・発表者に背を向けていたため見えにくかった。
10	処理業者	非常に満足	満足	満足	満足	とてもそう思う	これから取り組みを考えたい。		はい			—	勉強させて頂き有難うございました。
11	その他	満足	非常に満足	満足	非常に満足	どちらとも言えない	地域と廃棄物処理の観点で、地域の視点は廃棄物処理についてはイメージしにくい。		はい	今日もあちこちで出たが、排出事業者へのリサイクル知識の普及啓発について知りたい。	単に契約時に選ぶためでなく、逆に処理事業者の悩み・本音・要望もわかるとよい。	無回答	大変役立ち意義がある。ぜひまた参加したい。
12	排出事業者	非常に満足	満足	満足	満足	とてもそう思う	他社との連絡。産廃業者の知識の高さ		はい			—	
13	処理業者	無回答	満足	満足	満足	そう思う	リサイクル・資源循環が推進されるには、法制度の追加、整理が必要だと他の方のご意見から気づかされました。		はい		更新期限の延長以外にも何か優位な特権を付与する法制度を作る。	—	自分の見識の浅さに改めて気づかされました。博識な皆様のご意見を頂けるのは貴重だと感じました。
14	排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	受け渡し時の選別が大事		はい	是非、行政にも加わってほしい。	どれだけハードルが高いかをアピールし、認定業者であれば安心であることを補え付ける。	—	
15	処理業者	非常に満足	満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	多種多様な業種からの多種多様な意見があふれていた。よかった。		はい			無回答	
16	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う			はい			—	
17	排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	どちらとも言えない			はい			—	大変勉強になります。ありがとうございました。
18	排出事業者	満足	普通	満足	満足	そう思う	資源循環には出口が重要だと感じていたが、それを確信できた。また、改めて処理業者さんとのコミュニケーションが大切だと思った。		はい	廃棄物の区分ごとに話し合ってみました。	認定業者へ委託した場合の排出業者へのインセンティブなど	—	
19	処理業者	普通	普通	普通	普通	どちらとも言えない			はい		補助金などの有益なものを増やす	—	
20	排出事業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	そう思う	一人一人の日頃からの環境への意識が重要		はい	年そう思わない回でもいいので回数を増やしてください。		—	本日は貴重な時間をありがとうございました。

資料6. アンケート結果一覧【東京会場アンケート集計】

21	排出事業者	満足	普通	普通	不満	そう思わない	飲食店でのゴミ管理が難しい。プラカップの洗浄は人件費がかかりすぎる。	はい	今回の事業者と処理業者で話し合いができたのは貴重だったのでテーマを変えてまたやってほしい。	情報データベースを登録認知してもらう	—	話す機会がない方々と話ができただことは良かった。もっと苦労されている話を聞きたかった。
22	処理業者	無回答	非常に満足	無回答	満足	そう思う	問題を共通認識できたこと	はい	法律がネックとなることが多いので、それを抽出できるようリードがほしい。	コストの削減	どちらも言えない	今回は課題がまとめてにくいものだったと思います。
23	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	処理業者さんとのコミュニケーションは重要	はい	ケーススタディ(内外を問わず)	・有効な施策だと思う ・処理業者へのビジネス上の優位を強調しては？	—	ケーステーマは一つに絞ってもよいのでは
24	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	ビジネスプランの作成が必要	はい		許可期限7年の他、優遇制度の確立	—	
25	排出事業者	満足	普通	普通	普通	どちらも言えない		はい	循環利用とCSRのマッチング	二次処理委託先、売却先の実名公表	—	
26	処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	今まで考えたことがない切り口で新しい情報が得られた。	はい	現在の方にとらわれない意見のやり取り	優良企業であることのメリットの増加。イメージアップPR	—	
27	排出事業者	無回答	無回答	無回答	無回答	そう思う	分別しやすいモノづくりをすること。ただし反対にあうのは目に見えているのでどう説明していくが必要になります。	はい	他の排出業者様、弊社のとのお付き合いのない処理業者様の意見も拝聴することができ、とても有意義な会でした。	優良認定をあえて受けない業者様でも優良な業者さんがいます。これをどう説得して優良にしていけるか、環境省の出番だと思います。	—	さんばいくん(ネット)はとても有用な情報ですが(特に業者認証をチェックしています)、各社の登録内容にばらつきがあるし、登録自体をしていない業者さんもいるので、その登録率をアップしてもらえたらいいと思います。
28	排出事業者	普通	満足	普通	普通	そう思わない		はい	建設業関連で	認定を厳格にする。	—	
29	処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	食品RC、建設廃材と広く議論され広い視野でいろいろと考えさせられるチャンスになりました。	はい	地域が違う同業者様。排出者様とチームを組ませて頂けましたらもっと忌憚無い話し合いができるかもしれません。	排出者様へ優遇措置一優良の選択	—	ありがとうございました。
30	処理業者	満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	排出者も法律に困っていると思った	はい			—	
31	処理業者	満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	情報の大切さ	はい		PR	無回答	
32	排出事業者	満足	満足	普通	普通	どちらも言えない		はい		宣伝してください。認知されてないと思います	—	
33	処理業者	非常に満足	非常に満足	満足	満足	そう思う	全体の課題が理解できたので、地域社会が向上できるように努力したいと思います。	はい	行政との意見交換もしたい。処理業者、排出者様を区別なく同じ目的が作れたらいいと思います。(例えば、事務処理の共同作業など)	簡単なことから一般の方に対してメディアを通じてもっともっと広報・公表してもらえたら少し違うのではないかと思います。	—	話にも出たコミュニケーションを取り合うことに対して、皆さんが同感されていることが良かったと思います。一人ではできないことも、みんなで行えば、できることも多いと思います。
34	排出事業者	満足	満足	満足	満足	どちらも言えない		はい	今回のようなワークショップ型で、意見交換の時間が長くとられていると良いと感じます。	インセンティブの更なる強化	—	処理業者さんの意見を聴けたのは大変参考になりました。ありがとうございました。
35	排出事業者	無回答	満足	満足	満足	そう思う	外部の意見を聞いたことは非常に有意義。地域循環はテーマが大きくて事業者の取り組みと結びつきにくい。	はい		制度における認定内容、ガイドラインの公開。排出側もどのような内容をクリアにして認定されているのか知る必要がある。	—	
36	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	生ごみ処理の例(物販からビジネスモデルへ)グループディスカッションでの意見交換	はい	事例とディスカッションを予め考える内容のイベントがほしい。	排出業者側もよい企業になること。コスト重視ではなく、お互いに日本の資源循環を考えていく。	—	企業の立場としてはまず適正処理が第一で、地域的なことはあまり意識していませんでした。勉強になりました
37	処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	システムメーカーとして邁進しなくては思いました	はい	同じ感じでもよいです。	TV,CMなどで産業廃棄物処理について知ってもらい、ホームページにアクセスしてもらう。	とてもそう思う	時間通りの進行でよかった。ハブニングにも冷静に対応されていてよかったです
38	処理業者	満足	満足	満足	満足	どちらも言えない		はい		処理業者との横の連携	—	
39	処理業者	満足	満足	普通	満足	とてもそう思う		はい			無回答	
40	排出事業者	普通	普通	普通	満足	そう思う	法改正の議論	はい	いろいろな観点でマッチング事例を聞いてみたい。	インセンティブの付与	—	
41	処理業者	無回答	非常に満足	満足	無回答	そう思う	スタート地点は異なっているけど資源循環に対する悩みは共通していると感じています。	はい		インセンティブをもっと強力に与えて頂ければよいと考えます。	—	

資料6. アンケート結果一覧【東京会場アンケート集計】

42	処理業者	満足	満足	普通	満足	どちらとも言えない			はい		エキスパートとの兼ね合い	どちらとも言えない	さらに取得へ向けてセミナーをお願いします。
43	処理業者	非常に満足	満足	満足	満足	そう思う	排出者と話をする機会はなかなかないため		はい	今回のように経済的にも環境的にもwin-winになる取り組み	優良業者に対するインセンティブ(マニフェスト返却10日に運搬コスト、労力のムダ、ITを使って別の仕組みを)	—	イベントを開催するリスクについて考えさせられた。
44	処理業者	満足	非常に満足	普通	不満	そう思う	産業クラスターの気づき		はい	パイが少なくなる中で廃棄物業者		—	
45	処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	排出業者様の方の廃棄物の流れに興味を持っていない方がいかに多いかと思った。もっと見えるかが必要だと感じました。		はい	この会に参加される排出業者の方々は環境意識が非常に高い方が多いので勉強になります。		無回答	
46	処理業者	非常に満足	満足	満足	満足	無回答			はい			無回答	勉強になりましたありがとうございました。

資料6. アンケート結果一覧【福岡会場アンケート集計】

	参加区分	(1)満足度(5段階評価)				(2)連携・協業のアイデア・気づきが得られたか？きっかけとなったか？			(3)今後もこのようなイベントに参加したいか？	(4)優良産廃処理業種認定制度を広く普及するために何が必要か？	(5)本イベントを通して優良認定取得に対する意欲は高まったか？	(6)本イベントを通じての意見・感想等	
		プログラム全体	基調講演	事例紹介	ワークショップ		(「とてもそう思う」「そう思う」と回答した方) 具体的なアイデア・気づき	(「そう思わない」「まったくそう思わない」と回答した方) 期待と異なった点					(「参加したい」と回答した方) 具体的な要望・アイデア
1	排出事業者	満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	処理業者の方の意見が直接聞けた点は非常に良かったと思います。処理上の問題点が出され、排出する側で注意すべき点もありました。		はい	今回のように聞くだけでないワークショップは良かったと思います。関係法令に関する者もやって頂けると助かります。	排出業者への教育が大きいと思います。排出する側に処理業者の選択権があり、こういった制度を周知することが普及につながると思います。	—	ワークショップが2時間もあり、長いと思いました但实际上にやってみるとあっという間でした。ありがとうございました。
2	処理業者	満足	満足	満足	満足	どちらとも言えない			はい			どちらとも言えない	排出業者も処理業者も同業種でグループ化して頂けるとありがたい。
3	排出事業者	普通	普通	普通	普通	そう思わない		地域循環の必要性について今一つ同意できなかった	はい			—	会議室が狭いため、他グループの声が聞こえてくる。広い場所の確保をお願いします。排出業者のグループ分けを「建設」、「食品」と業種で分けてほしい(地域で分けるのではなく)
4	排出事業者	満足	普通		満足	そう思う	排出事業者と処理業者とのコミュニティ、コミュニケーションの重要性		はい		優良認定業者の責任は行政が持つ	—	
5	処理業者	普通	満足	普通	普通	どちらとも言えない			はい	地域資源に限定せず、今後の廃棄物処理業界を取り巻く環境について	認定業者の中でもランク付けをすべきでは	—	
6	排出事業者	満足	満足	満足	満足	どちらとも言えない			はい		各自治体の許可証更新作業が遅く、期限までに更新されない場合がある。速やかな対応をお願いしたい。	—	毎年開催して頂きたい。
7	処理業者	満足	満足	満足	普通	そう思わない		地域循環は処理品目が限られているのでは	いいえ		環境配慮契約の推進	—	
8	排出事業者	満足	普通	普通	満足	どちらとも言えない			いいえ		建設業においては総合評価で加点するようにすればすぐに普及する。	—	
9	排出事業者	普通	満足	満足	普通	どちらとも言えない			はい			—	まとめの発表はアマタの各グループのコーディネーターの方が話した方が分かりやすいのでは
10	処理業者	満足	普通	普通	満足	そう思う	地域とのコミュニケーションCSR活動に力を入れている事例を受け刺激を受けた。		はい	グループワークは地域別ではなく、業種別にしてはどうか。	インセンティブの拡充	—	悩みは同じであることがよくわかりました。特に知識が不十分な点について社内で教育していることに感心しました。
11	排出事業者	満足	普通	普通	満足	どちらとも言えない		排出事業者の業種によって考え方取り組み方に相違が大きい	はい	排出事業者責任・CSR	民間・公共・関わらず受発注の条件へ	—	最後の発表会は非常に勉強になった。
12	処理業者	満足	満足	満足	普通	どちらとも言えない			はい	地域貢献の具体例、産学協同の研究事例	優良業者のプライオリティ、メリット、アドバンテージ拡充	—	
13	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	リサイクルへの関心が高まった。		無回答		排出業者への行政指導	—	
14	排出事業者	非常に満足	非常に満足	満足	満足	とてもそう思う	処理業者の方の問題点も聞くことができ、視野が広がった。		はい	同業者の方とも話す機会が持てたらと思います	もう少し広報活動をすべき	—	
15	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う			はい	規制緩和の議論ができたが、やはり「官」がワークショップに入らないとその場の議論に終わってしまうのでは		—	
16	処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	各県別にセミナー・研究会を希望します。		はい	モデル事業所の見学研修の実施を希望します。	排出業者の工場に認定制度の説明会を実施して普及させてもらいたい。	—	
17	排出事業者	非常に満足	満足	満足	非常に満足	そう思う	地域循環		はい			—	
18	排出事業者	普通	普通	普通	普通	どちらとも言えない			はい	業種別グループの方が共通認識がとりやすい。		—	
19	排出事業者	満足	満足	普通	非常に満足	どちらとも言えない			はい	同じ業界の業者を集めると参考になる事例が集まって面白いのではないかと感じました。	優良産廃の業者に委託することのメリットが排出業者にはあまり感じられない	—	
20	排出事業者	満足	満足	満足	満足	どちらとも言えない			いいえ		インターネットで優良産廃業者を紹介する。メリットなどを話し、紹介元請の優良産廃処理業者を使用するよう指導する。	—	

資料6. アンケート結果一覧【福岡会場アンケート集計】

21	排出事業者	普通	普通	普通	普通	そう思う	分別におけるポイント制→排出側の意識向上		はい	ディスカッションの行政へのフィードバック	取得した場合のメリット	—	他業界でのアイデア、考え方が勉強になった。
22	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う			はい	このようなセミナーを地方行政も含めて行っていただければ		—	
23	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	排出業者、処理業者それぞれの立場での意見が聞け、排出の仕方、処理業者へのアプローチの仕方を見直すきっかけになり		はい		認定取得の方法など詳しく学べる機会があると良いと思います。	—	排出業者、処理業者とのマッチングの場があればよいと思います。
24	排出事業者	満足	満足	満足	満足	どちらとも言えない			無回答	「処理業者」もしくは「中間処理業者」のための会社情報の場を開催してほしい	あくまでも排出業者の責務が主にあるため、ある意味環境省が認定制度を推進するからには、問題発生時環境省が責任を持ってほしい。	—	
25	処理業者	満足	満足	普通	満足	どちらとも言えない			はい	マニフェストを構築するための取り組み	制度のハードルをもっと上げるべき。	—	ワークショップの時間を長くして頂きたい。
26	排出事業者	普通	普通	普通	満足	そう思う	処理業者側の意見も確認できたので改善の取り組みを考えたいと思った(どのように分別すればコスト削減になるとか)		はい	法整備なども含めて意見交換などができればいいと思います	処理業者だけでなく排出業者にも制度の詳細をもっと周知が必要	—	
27	処理業者	満足	満足	満足	満足	無回答	食品リサイクルが良かった。	事業的に行っていないから。	はい	テーマをもっと具体的にしていた方がよい。	なし	そう思う	
28	処理業者	普通	普通	普通	普通	どちらとも言えない			無回答		能力の問題があり、優良業者へ人気が集まるのも次なるリスクを産む。	—	格差をつけるのではなく、全体のレベルアップのハードルを上げるべき。法改正も必要
29	処理業者	満足	満足	普通	普通	そう思う	排出元、処理会社について知っているようで知らないことが多かった。		はい	いろいろな業種の方が集まるので、自社のPRをグループだけでなく全員にしたい。	取得ができている業者とできていない業者の明確な優位性の区別。会社の規模によって認定条件を変える。設備などが少ない方が取得しやすいのでは	とてもそう思う	カメラの音がきになった。横のグループが近く、音が気になった。休憩時間が短かった。発表者にある程度のレジュメがほしいかった。北九州でも開催してほしい。
30	排出事業者	普通	満足	満足	普通	そう思わない		循環型の話はあまりできなかった	いいえ			—	
31	処理業者	満足	満足	普通	満足	そう思う	排出業者の悩み(保管場所の問題、排出量の減少に伴う契約業者との関係、長期取引に伴う遠慮)		はい	「資源循環」の本質を考える等	メリットの更なる充実	—	くどいですが改めて「資源循環」が目的なのか手段なのかなども含めて考えるきっかけとなりました。
32	処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	無回答			はい	排出される会社の意見や要望が聞きたい。	排出業者に優良認定業者と処理委託契約を推進していくといいと思います。	—	
33	排出事業者	普通	満足	普通	普通	そう思う			はい		幅広く受け入れが可能な業者を選んではほしい	—	行政の縦と横の連携を取って頂き、法改正をお願いしたい。
34	処理業者	非常に満足	非常に満足	非常に満足	非常に満足	とてもそう思う	他社の取り組みや今後の課題や目標など自社とは違う方向性で色々となり参考になりました。		はい			—	自社への目標が明確になったように思います。活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
35	処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	建設業界においてなかなか適切な分別ができないのは、現場が狭いからということを知りました。		はい	大学生の方をお招きして、多方面の視点から議論するなど	メディアを使って大々的な広報	—	いろいろ勉強になりました。
36	処理業者	非常に満足	非常に満足	満足	満足	そう思う	目の前に処理に困ってらっしゃる方がいらつした。		はい		誰に対してどのように普及するのが大切だと思います。	—	排出事業者様とこのようにディスカッションできるのはすごく勉強になりました。テーブルファンリテーターのレベルを合わせた方がいいと思います。
37	処理業者	満足	普通	満足	満足	どちらとも言えない			はい			そう思う	グループワークでは廃棄物処理の理想と現実いろいろな意見が聞くことができ業界の抱える問題が分かりました。
38	処理業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	いろいろな意見を聞けて良かった。		はい			—	
39	排出事業者	満足	満足	満足	満足	そう思う	製品化から排出するまでを進めていく。		はい	今回のような排出業者と処理業者とのフォーラム/ワークショップ	アピールする必要がある	—	
40	排出事業者	普通	普通	普通	不満	どちらとも言えない	理想が高く、現実的でない		いいえ		認定業者へのメリット	—	

リサイクル適性の表示：印刷用の紙にリサイクルできます。

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料「A ランク」のみを用いて作製しています。